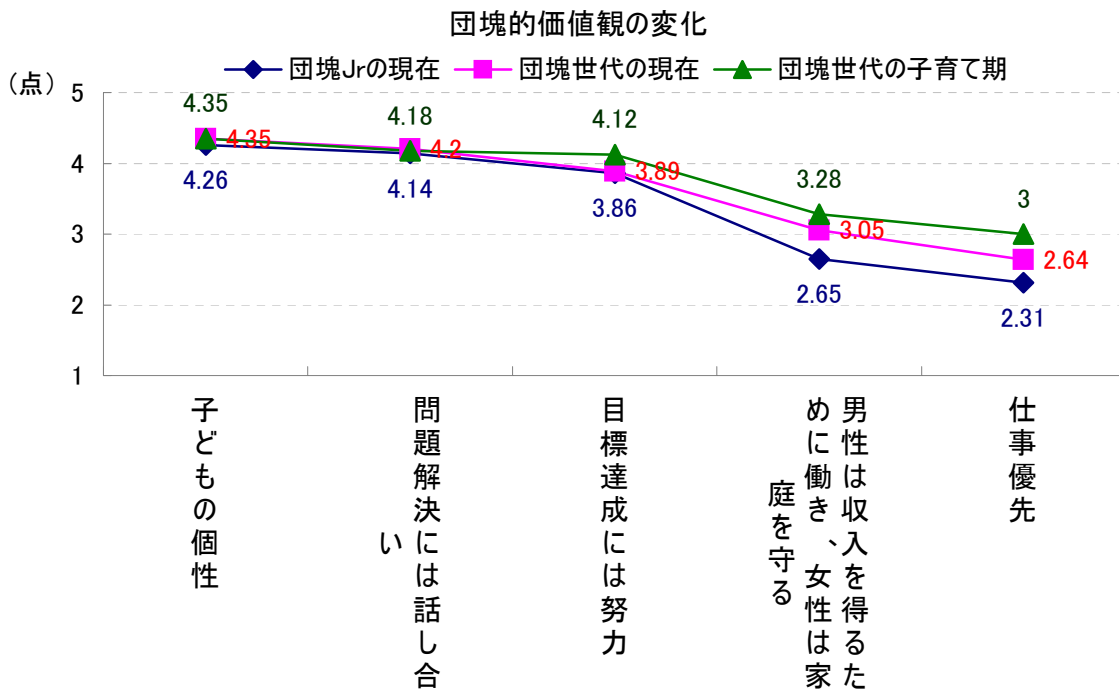


「団塊世代と団塊ジュニア世代の 価値観比較調査研究」 報告書



平成18年4月

研究体制

株式会社 パワーウィングス 高橋洋一郎
財団法人 ハイライフ研究所 加藤信介
株式会社 読売広告社 上野昭彦
株式会社 読売広告社 齋藤敏之

はじめに

団塊世代(1947年-1949年生まれ)と団塊ジュニア世代(狭義1975年-1979年生まれ)は人口構成比も大きく、政策立案上、企業活動上、重要な年齢層として、これまでも価値観やライフスタイルをとりあげ、さまざまな角度からそれぞれ個別に研究されてきた。一方、世代論や親子関係論の立場からは、団塊世代と団塊ジュニア世代とにかかわらず、広く親子価値観について研究が進められてきた。しかしながら、団塊世代と団塊ジュニア世代の共通の価値観や価値観の継承問題については、大きくとりあげられてこなかった。

今日、社会階層の2極化の文脈の中で、いわゆる団塊ジュニア世代の「下流化現象」が問題とされている。また、ニートやフリーターの増加を取り上げ、団塊ジュニア世代の「気まま」で「個性重視」のライフスタイルの根源は団塊世代の教育や価値観に問題があったという指摘も見受けられる。

本研究調査は団塊世代と団塊ジュニア世代を対象に、これらいくつかの問題に対して事実の検証と今後の方向性を示すことを目的に行われた。

問題を整理すると、1)団塊世代が持つ価値観とは何なのか(どう操作的に定義するか) 2)団塊世代は子供を教育する時代にどのような姿勢(価値観を持って)で望んだのか。 3)今日、当時の価値観がどのように変化し、現在の生活価値となっているのか(何が変わり、何が変わらなかったのか)。 4)団塊ジュニア世代は子供の頃(中学生の頃)団塊世代からどのような価値観をもって育てられたのか(団塊ジュニア世代はどのように受け止めたのか)。 5)そのようにして育った団塊ジュニア世代は今日、どのような価値観を持つにいたったか。これら5つの問題に対して、〈団塊的価値観〉を軸に一定の説明を行おうというものである。

〈団塊的価値観〉とは何なのか。本調査研究においては、それを5つの価値観で代表させている。すなわち「男女の性別役割分担意識」「目標達成志向」「個性化志向」「民主的解決志向」「仕事優先意識」である。団塊世代は日本ではじめて民主教育を受けて育った世代である。したがって〈団塊的価値観〉の内容は、「非暴力主義」=「話し合いでの解決」と「個性主義」=「家父長制度からの脱却」を中心とし、戦後復興から高度成長時代へ進んだ55年体制の中で、会社人間として家庭を取り込んでいくための倫理的フレームの中心的価値観となった「男女性別役割分業」。その結果としての「会社人間の肯定」。そして、楽天的な「努力すれば結果はついてくる」という成長への自信。これら5つが団塊世代の子育て期の中心的価値観であったと考える。

さらに、〈団塊度〉を操作的に定義する。すなわち、これら5つの価値観の総合的指標として尺度化された指標である。より団塊的特徴を持った人ほど〈団塊度〉は高く、団塊的特徴を持たない人ほど〈団塊度〉は低い。

そこで問題を言い換えると、〈団塊度〉が高い人のジュニアは果たしてニートやフリーターになっているのか、より「気まま」で「個性志向」なのか、また団塊世代においては〈団塊度〉は現在も高いまま維持されているのか、それとも年齢をへて、時代の変化の中で、〈団塊度〉も変わっているのか。何が変わり何が変わらなかったのか。さらに、団塊ジュニア世代の今日の価値観へ団塊世代がどのような影響を持ち、仕事観、結婚観、自分らしさ、親子関係にどのような影響をもたらしたのか、という問いへ回答することが本研究調査の課題となる。

もちろんさまざまな調査の限界はあり、調査研究のフレームに取り込めなかったテーマも残っている。しかし、一定の回答は得られたと思う。

本調査研究が団塊世代と団塊ジュニア世代のポジティブな生活に貢献できること、親子関係論の議論の発展のひとつの礎石となること、団塊世代や団塊ジュニア世代へむけた企業活動へなんらかのヒントとなることを願ってはじめての言葉としたい。

研究員を代表して 高橋洋一郎

<目次>

I 研究フレーム	… 1
II 調査概要	… 2
III 調査結果の要約	… 3
A 団塊世代の価値観調査結果	… 14
1 団塊世代の価値観とは	… 15
2 <団塊度>の定義	… 16
3 団塊世代の価値観	… 17
4 団塊世代の価値観の性差	… 18
5 <団塊度>別プロフィール	… 19
6 どのような親になりたいと思っていたか	… 20
7 生活目標	… 20
8 団塊世代の価値観変化	… 21
9 現在の<団塊度>	… 24
10 <団塊度の変化パターン>	… 24
11 <団塊度>の変化パターン別プロフィール	… 25
12 現在の生活目標	… 26
13 自分の生き方を表す言葉	… 28
14 自分の人生への評点/子を育てた親としての評点	… 30
15 子どもとの現在の関係	… 31
16 子どもとの会話の頻度	… 32
17 子供との会話内容	… 32
18 メールやインターネットによる子どもとのコミュニケーションの変化	… 33
19 子どもから新しい技術を教えてもらうことについての意見	… 34
20 結婚した子どもの支援への考え方	… 35
B 団塊ジュニア世代の価値観調査結果	… 36
1 団塊ジュニア世代の価値観とは	… 37
2 団塊的接し方	… 38
3 団塊的接し方の5パターン	… 39
4 団塊的接し方別対象者プロフィール	… 40
5 両親の点数や成績を気にした程度	… 41
6 中学生の頃の家庭の生活レベル	… 42
7 中学生の頃の両親の仲	… 42
8 中学生当時の両親への評点	… 43
9 現在の団塊的生き方への意見	… 44
10 現在の団塊的生き方への意見(団塊接し方別)	… 45
11 生活目標の世代間比較	… 46
12 生き方を表現している言葉	… 47
13 生き方を表現している言葉-父母の<団塊度>別	… 48
14 両親への評点(団塊接し方別)	… 49
15 父母との関係	… 50
16 現在の生活レベル意識	… 51
17 仕事についての考え方	… 52
18 結婚についての考え方	… 53
19 自分らしさについて	… 55
20 両親とのコミュニケーション-団塊Jrと団塊との間で	… 56
21 親へ新しい技術を教えることについての意見	… 57
22 結婚後の親からの支援について	… 57

C	事前調査－グループインタビュー	・・・ 58
	<調査概要>	・・・ 59
	1 団塊Jrの「仕事観」「自分らしさ観」「結婚観」	・・・ 60
	2 結婚に対する団塊世代と団塊Jrの考え方のギャップ	・・・ 61
	3 団塊世代の性役割分業への考え方ー過去と現在	・・・ 62
	4 団塊Jrと「自分さがし」ー親との関係	・・・ 63
	5 団塊世代と団塊Jrとの会話内容	・・・ 64
	6 団塊世代と団塊Jrとのコミュニケーション経路／きっかけ	・・・ 65
	7 団塊世代と団塊Jrの財の購入に関するコミュニケーション	・・・ 66
	8 団塊世代と団塊Jrの新拡大家族の可能性	・・・ 67
D	提言	・・・ 68
E	団塊世代・団塊ジュニア世代年代譜	・・・ 73
	<団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表>	
F	別冊：統計資料	
	1 団塊世代調査集計資料	
	2 団塊ジュニア世代調査集計資料	
	3 グループインタビュー対象者プロフィール	

I <研究フレーム>

本研究の課題へのアプローチは、団塊世代が特有にもつと考えられる<団塊的価値観>とも言うべき、価値観を定義するところからはじめられる。

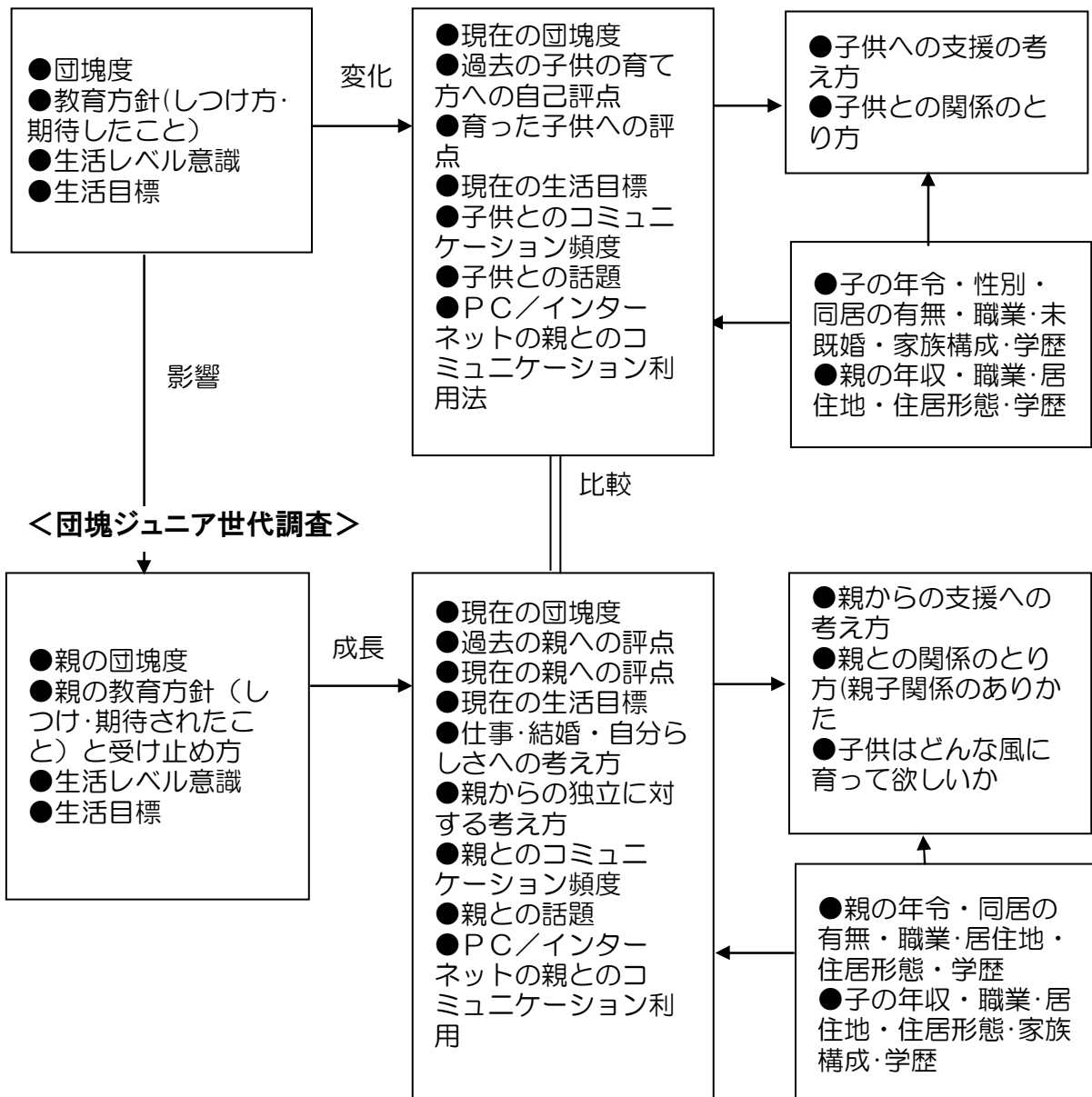
<団塊的価値観>とは先行研究から、「男女性役割分担意識」「目標達成志向」「個性化志向」「民主的解決志向」「仕事優先意識」の総合的な合成と考える。そのうえで、個人を<団塊的価値観>を強く持つ人と、それほど持たない人とに分け、その比較を行う。このことによって、典型的な団塊世代がどのような人たちであり、どのような生活価値観を持っていたのか、また現在はどのような生活価値観を持っているのかがわかってくる。

また、団塊ジュニア世代についても同じ操作的定義を行い、<団塊度>の高い親から影響されたのか、それとも<団塊度>の低い親に育てられたのかによって、団塊ジュニア世代が成長して現在、仕事・結婚・自分らしさについてどのように考えているのかを明らかにし、また親との関係がうまくいっているのかどうなのかを明らかにする。

このように、団塊世代と団塊ジュニア世代に共通する<団塊度>という定義を与えて、初めて比較が可能になる。その比較とは、団塊世代の過去と現在であり、団塊ジュニア世代と団塊世代との比較である。

したがって、研究フレームは以下の図のように表される。

<団塊世代調査>



II 調査概要

文献研究
団塊世代と団塊ジュニア世代の年代譜作成

グループインタビュー

- 1) 目的:
本研究におけるグループインタビューは、本調査のための仮説抽出のためにおこなわれる。そのため、団塊世代と団塊ジュニア世代の共通性・異質性を親子関係中心に具体的に情報収集する。
- 2) 実査
 - ① 対象者条件: 団塊世代56-58才、首都圏在住、サラリーマン主。男女各3名計6名 団塊ジュニア26-30才、首都圏在住、親どちらかが56-58才。同上人数。
 - ② 日時: 8月22日18:30団塊世代、8月23日18:30団塊ジュニア世代。
 - ③ 場所: 読売広告社GIルーム
 - ④ 分析: (株)パワーウィングス

定量調査 A: 団塊世代調査

1. 調査目的: 団塊世代と団塊jr世代の価値観の違いを明らかにする。また団塊世代の価値観の変化を明らかにすること。
2. 調査対象者: 団塊世代=1947~1949年生まれの男女個人で、26~30才の子供のいる有配偶者で首都圏在住者。有効回収数男性N=156s、女性N=155s、計311サンプル。
3. 調査方法: インターネット
4. 調査時期: 平成17年11月16日~20日

定量調査 B: 団塊ジュニア世代調査

1. 調査目的: 団塊ジュニア世代の価値観を明らかにする。また団塊ジュニア世代の価値観の変化を明らかにすること。
2. 調査対象者: 団塊ジュニア世代=1975~1979年生まれの男女個人で、1947~1949年生まれの両親が健在で有配偶である首都圏在住者。有効回収数、男性N=155s、女性N=155s、計310サンプル。
3. 調査方法: インターネット
4. 調査時期: 平成17年11月16日~20日

補完調査 読売広告社「CANVASS2006」調査

1. 調査対象: 東京30km圏、大阪20km圏の13-64歳の男女1600s
2. 標本抽出: エリアサンプリング
3. 調査方法: 訪問留置法

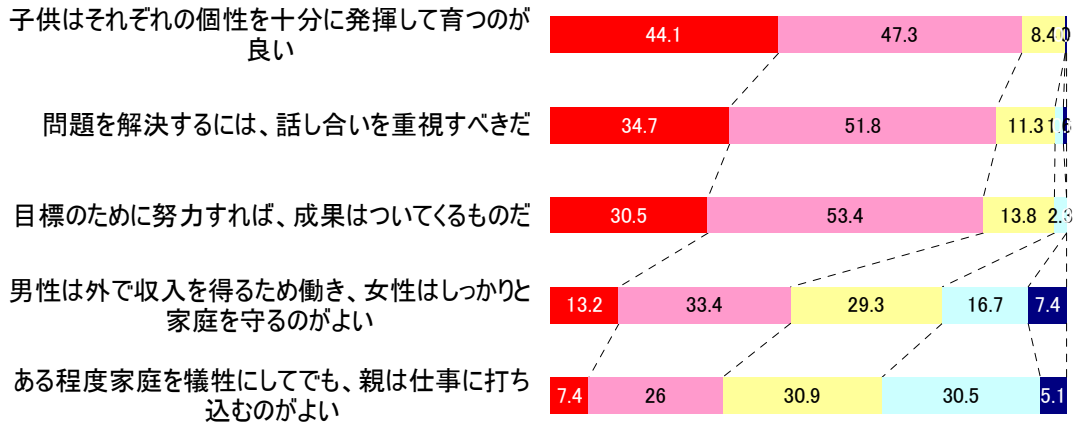
Ⅲ <調査結果の要約>

1

団塊的価値観は団塊世代調査でも団塊ジュニア世代調査でも測定されている。また子供が中学生の頃についてと、現在についてと合計4問行われた。

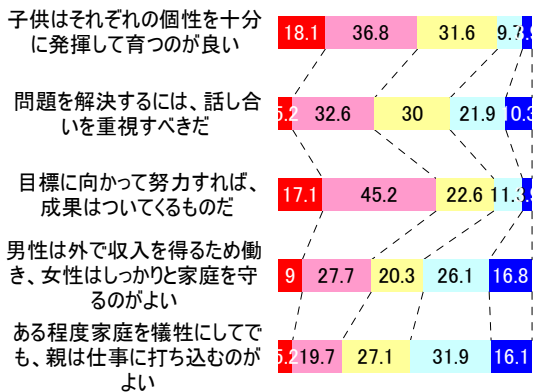
<団塊的価値観：子供が中学生の頃(N=311)団塊世代調査>

■ たいへん賛成だった ■ やや賛成だった ■ どちらでもなかった ■ やや反対だった ■ まったく反対だった



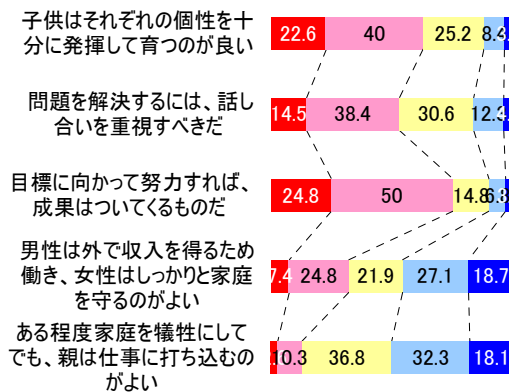
団塊Jrから見た父親の団塊的接し方 (全体N=310) 団塊ジュニア調査

■ 確かにそういう接し方をした
■ ある程度そういう接し方をした
■ どちらともいえない
■ あまりそういう接し方をしたとは思えない
■ まったくそういう接し方をしたとは思えない



団塊Jrから見た母親の団塊的接し方 (全体N=310) 団塊ジュニア調査

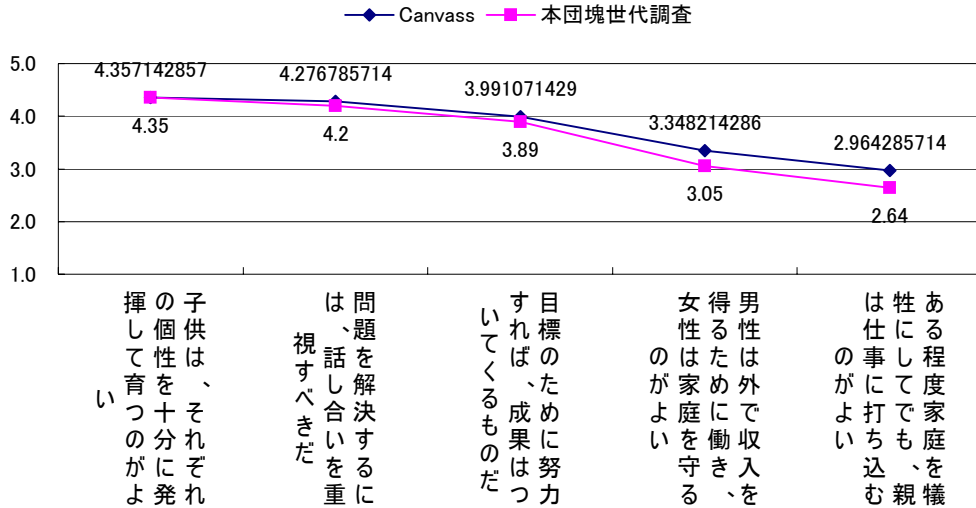
■ 確かにそういう接し方をした
■ ある程度そういう接し方をした
■ どちらともいえない
■ あまりそういう接し方をしたとは思えない
■ まったくそういう接し方をしたとは思えない



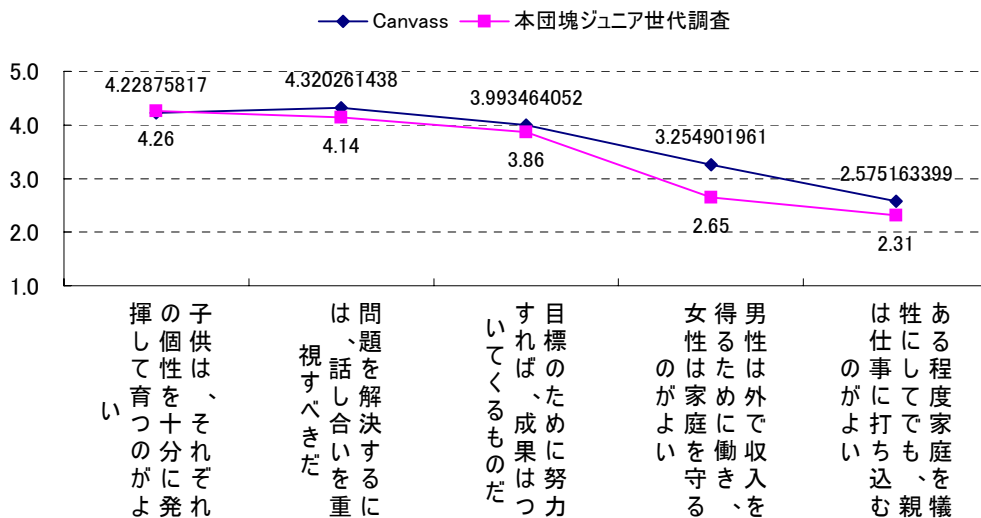
したがって、団塊世代の過去と現在、団塊ジュニア世代の過去と現在をそれぞれ比較することができる。この5つの質問項目が、団塊世代の<団塊度>を決め、団塊ジュニア世代の親の<団塊的接し方度>を決めている。(詳細は「団塊世代調査結果」P.16 およびP.21、「団塊ジュニア世代調査結果」P.38およびP.44を参照)

さらに、団塊的価値観はデータの再現性を検証するため読売広告社CANVASS調査においても同じ質問を用いて実施された。

本調査の補完データ(読売広告社CANVASS調査)との比較



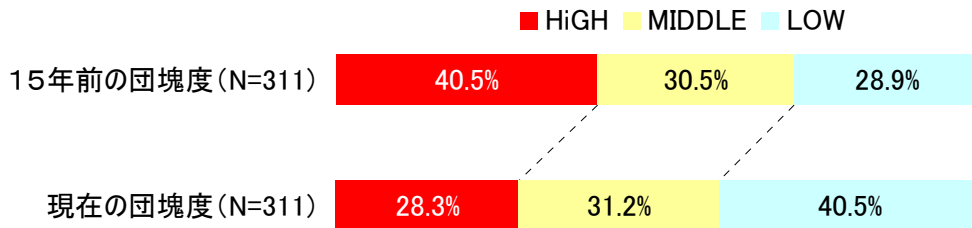
本調査の補完データ(読売広告社CANVASS調査)との比較



本調査研究と読売広告社CANVASS調査とはたいへん類似する結果を得た。団塊世代においても団塊ジュニア世代においても、団塊的価値観への評価は類似している。団塊世代： $r=0.99$ 、団塊ジュニア世代： $r=0.98$ と相関は高い。

団塊世代は団塊的特徴を失いつつある・・・

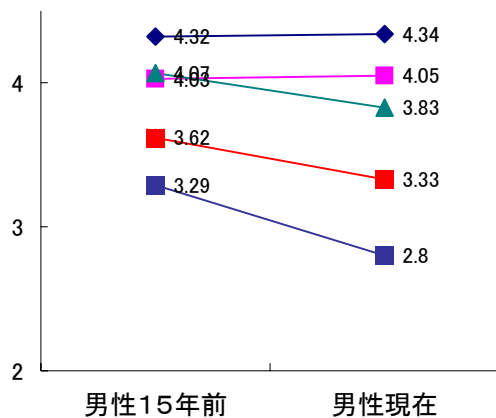
＜団塊度＞構成比の変化



「団塊世代調査」結果P.24

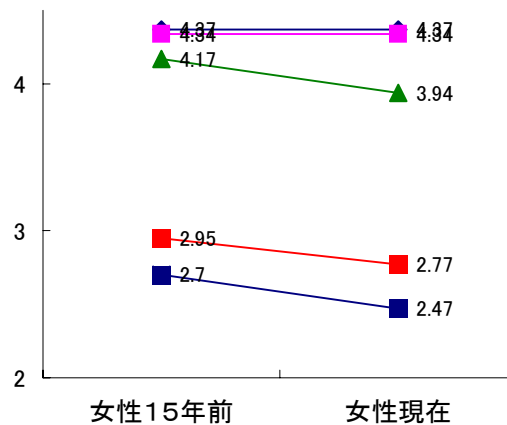
＜男性の価値観変化＞

- ◆ 子供の個性
- ▲ 目標達成
- 性別役割分業
- 話し合い
- 仕事中心



＜女性の価値観変化＞

- ◆ 子供の個性
- ▲ 目標達成
- 性別役割分業
- 話し合い
- 仕事中心

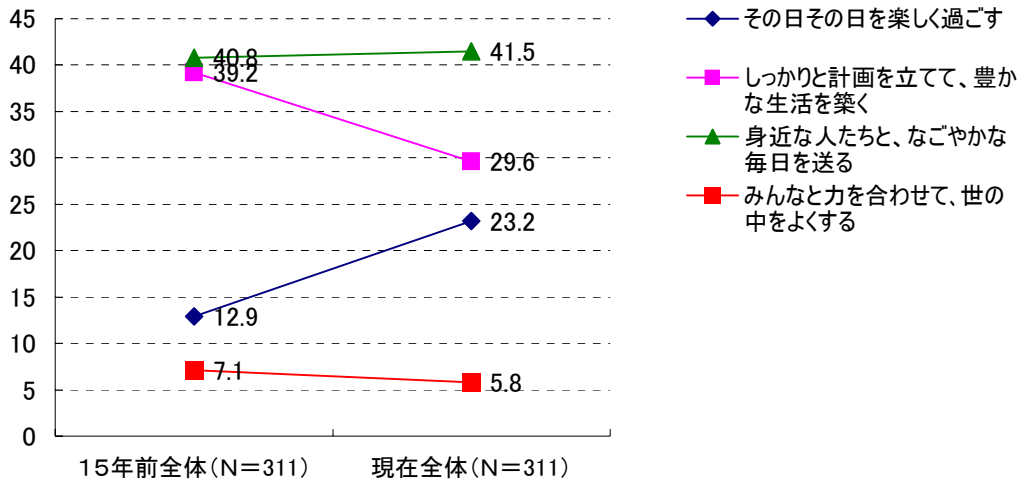


「団塊世代調査」結果P.22

団塊世代は全体として、昔よりも＜団塊度＞をおとし、団塊的特徴を失っている。過去より継続している価値観は、「子供の個性重視志向」、「話し合い志向」、「目標達成志向」であるが、少なくなった価値観は「性別役割分業」と「仕事優先志向」である。理由には、年令的な成熟や時代的背景が考えられるが、いずれにしろ世代の特徴は薄まっている。

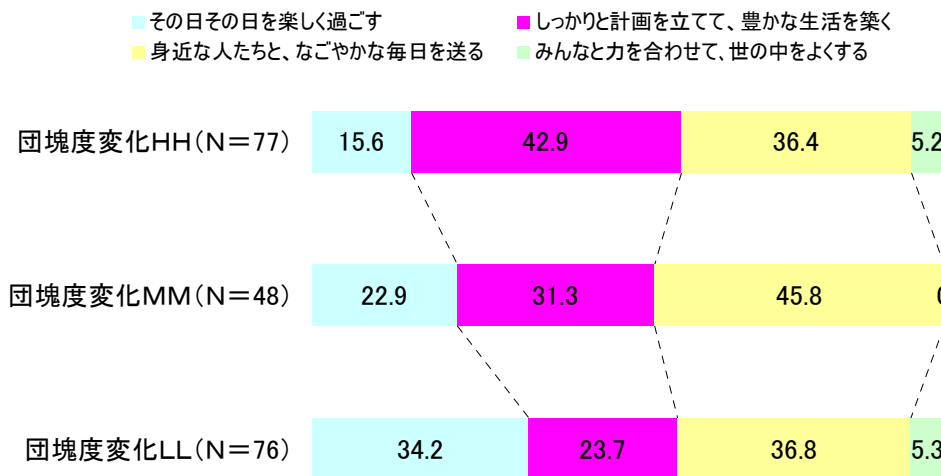
団塊世代の生活目標は、「利」志向から「快」志向へと変化している。

生活目標の変化



「団塊世代調査」結果P.26

団塊度の変化別現在の生活目標

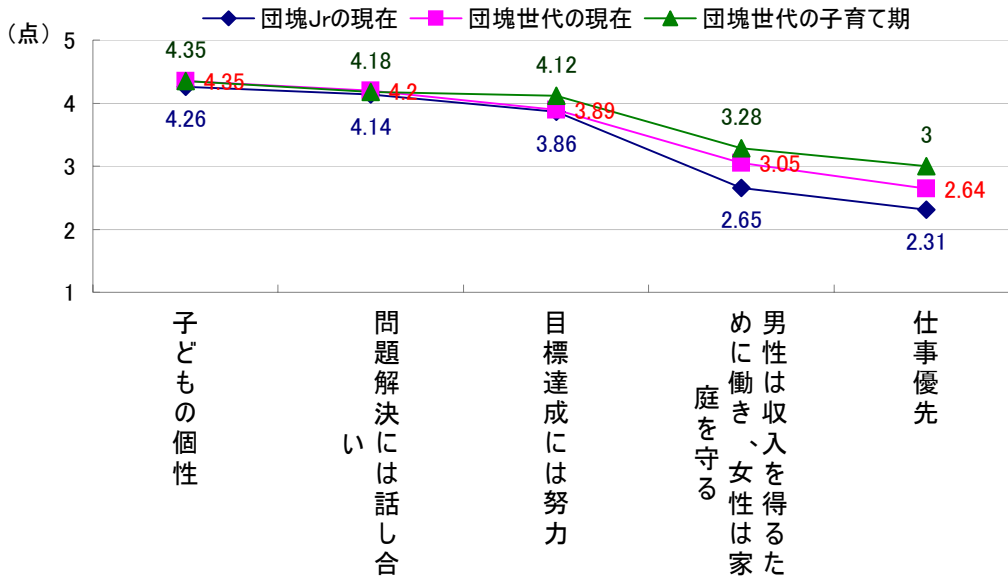


(注) 団塊度変化HH:過去も現在も団塊度HIGHのグループ 「団塊世代調査」結果P.27
 団塊度変化MM:過去も現在も団塊度MIDDLEのグループ
 団塊度変化LL:過去も現在も団塊度LOWのグループ

＜団塊度＞の高い、団塊的特徴を保持している人は、＜団塊度＞の低い人よりも生活目標に計画性や豊かさをおくことが多く、「利」志向である。逆に＜団塊度＞の低い人はその日その日を生活を楽しみ暮らす「快」志向が強い。＜団塊度＞が中程度の人は身近な人と和やかに暮らす「愛」志向である。

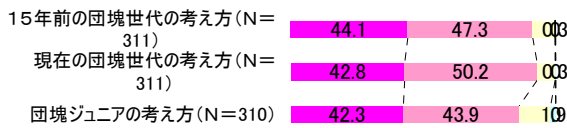
団塊ジュニア世代の価値観は、団塊世代から引き継いだものと、引き継がれなかったものがある。

団塊的価値観の変化：加重平均値(N=311)

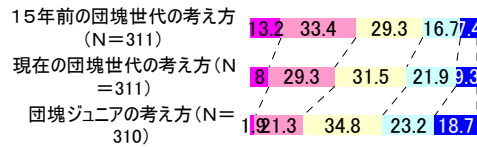


「子供はそれぞれの個性を十分発揮して育つのがよい」

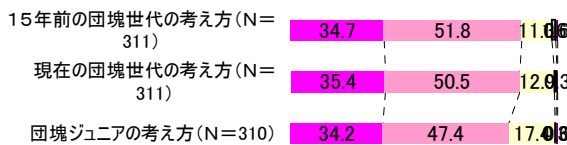
たいへん賛成 やや賛成 どちらでもない やや反対 まったく反対



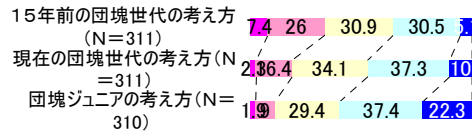
「男性は外で収入を得るために働き、女性はしっかりと家庭を守るのがよい」



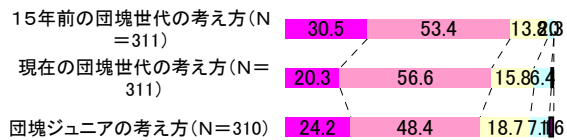
「問題を解決するには、話し合いを重視するべきだ」



「ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい」



「目標に向かって努力すれば、成果はついてくるものだ」



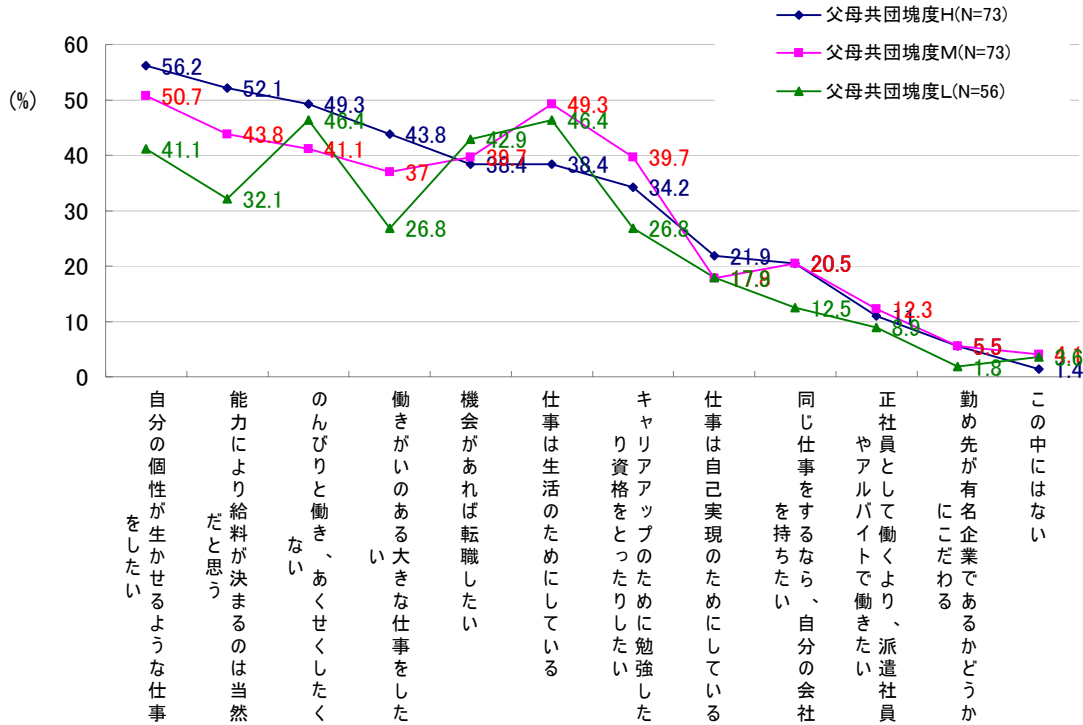
「団塊世代調査」P.22-23
「団塊ジュニア調査」P.44

団塊ジュニア世代が団塊世代から引き継いだ価値観は、やはり子供の個性重視志向、話し合い志向、目標達成志向である。性別役割分業と仕事優先志向に関しては、団塊世代よりもかなり少なく、この二つの価値観はほとんど否定されつつある。

6

団塊世代はフリーターやニートを生み出した、というのはおかしい。＜団塊度＞の高い親ほど前向きに仕事に取り組む子供を育てた。

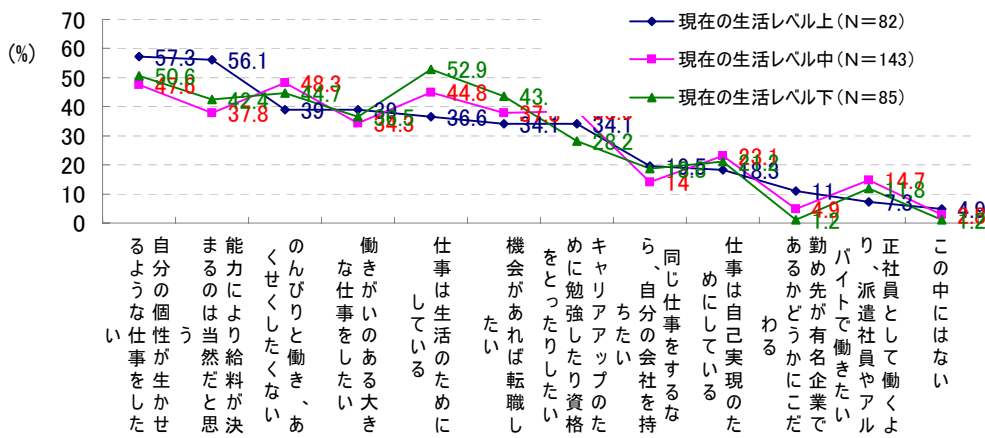
団塊ジュニア世代の仕事についての考え方(父母の団塊度別)(MA)



<参考>

「団塊ジュニア調査」P.52

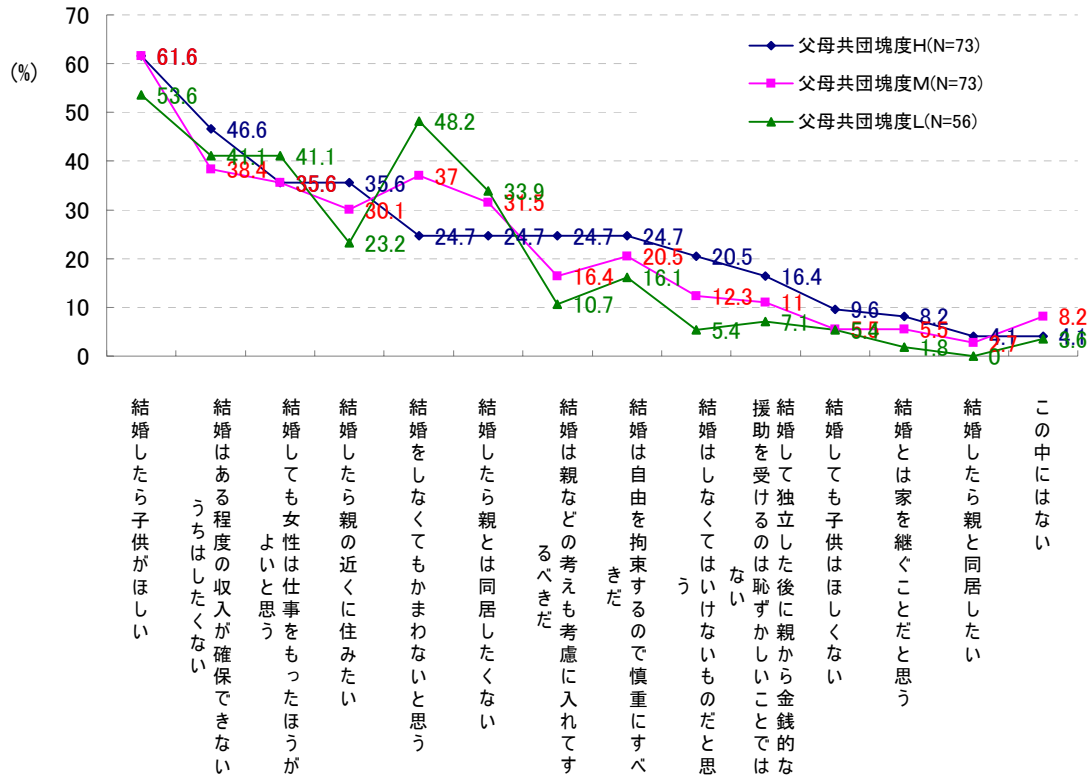
団塊ジュニア世代の仕事についての考え方(現在の生活レベル別)(MA)



団塊ジュニア世代の仕事に対する考え方は、親の＜団塊度＞によって異なる。＜団塊度＞の高かった親のジュニアは、より高い目標に向うが、＜団塊度＞の低かった親の子供はのんびり志向である。

団塊ジュニア世代の結婚観も同様だ。「結婚しなくてもかまわない」と考えているのは、〈団塊度〉の低い親の子供たちだ。

団塊ジュニア世代の結婚についての考え方(父母の団塊度別)(MA)

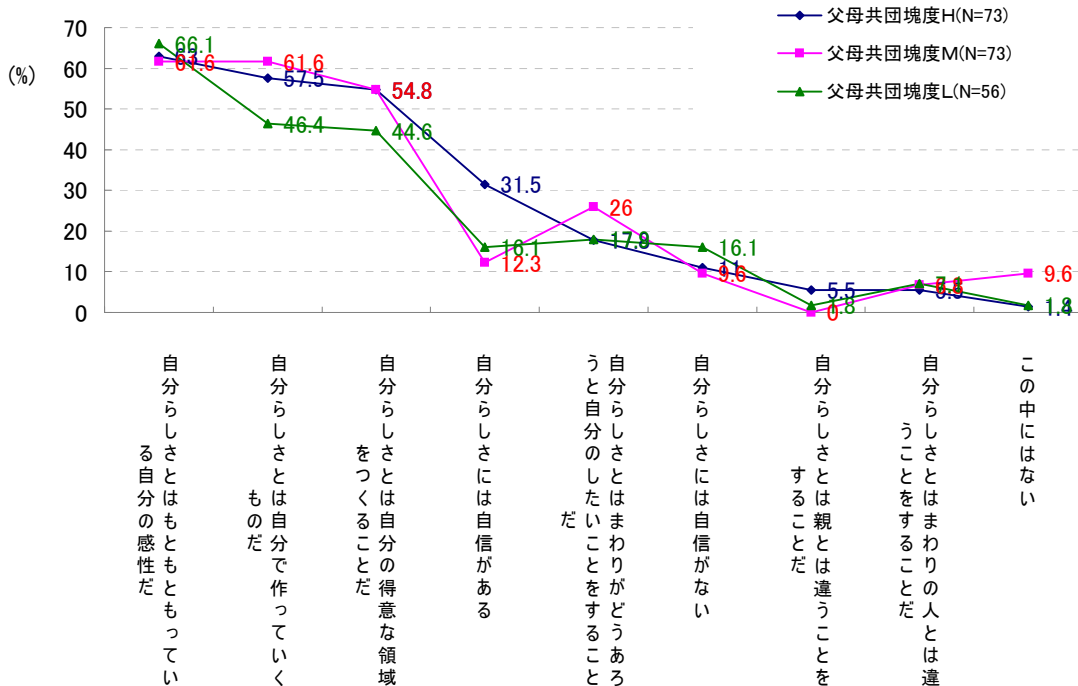


「団塊ジュニア調査」結果P.53

「結婚しなくてもかなわないと思う」という考え方をするのは〈団塊度〉が低かった親のジュニアあって、その逆ではない。

「自分らしさ」とは「もともと持っている自分の感性だ」という考えと、「自分らしさは自分で作っていくものだ」という考えがあるが、＜団塊度＞の高い親の子は「自分で作っていく」と考え、＜団塊度＞の低い親の子は「もともと持っているもの」と考える傾向がある。

団塊ジュニア世代の自分らしさについて(父母の団塊度別)(MA)



「団塊ジュニア調査」結果P.55

そして「自分らしさ」に自信を持っているのは＜団塊度＞の高い親に育てられた子供たちである。自分の得意領域を自分で作ろうという姿勢がみられる。

●「仕事観」「結婚観」「自分らしさ観」を総合してみると、団塊ジュニア世代には2つの志向性がある。ひとつは「自分回帰」であり、もうひとつは「自分創造」である。どちらがいいというものではないが、親の団塊度別に2つのタイプに分かれるのである。

●「自分回帰型」は「自分らしさ」とはもともと自分が持っている感性だと考え、仕事は生活のためにするもので、結婚はできなくても良い、しかし自分らしさには実はあまり自信がない、生活意識は下流が多く、親との関係はそれほど良いわけではない。

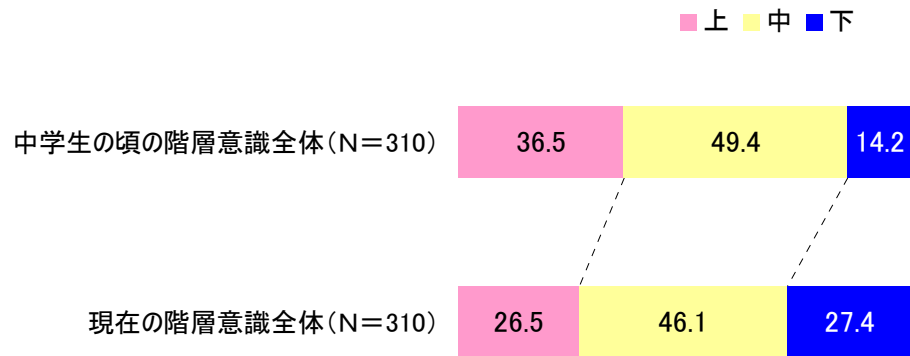
●「自分創造型」は自分らしさは自分で作っていくもので、仕事は個性と成果を重視し、結婚はすべきだと考える。自分らしさには比較的自信があり、生活意識は上が比較的多く、親との関係はいいほう。

●そして、「自分回帰型」のジュニアは親が団塊度の低い場合が多く、「自分創造型」のジュニアには団塊度が高い親がおおい。



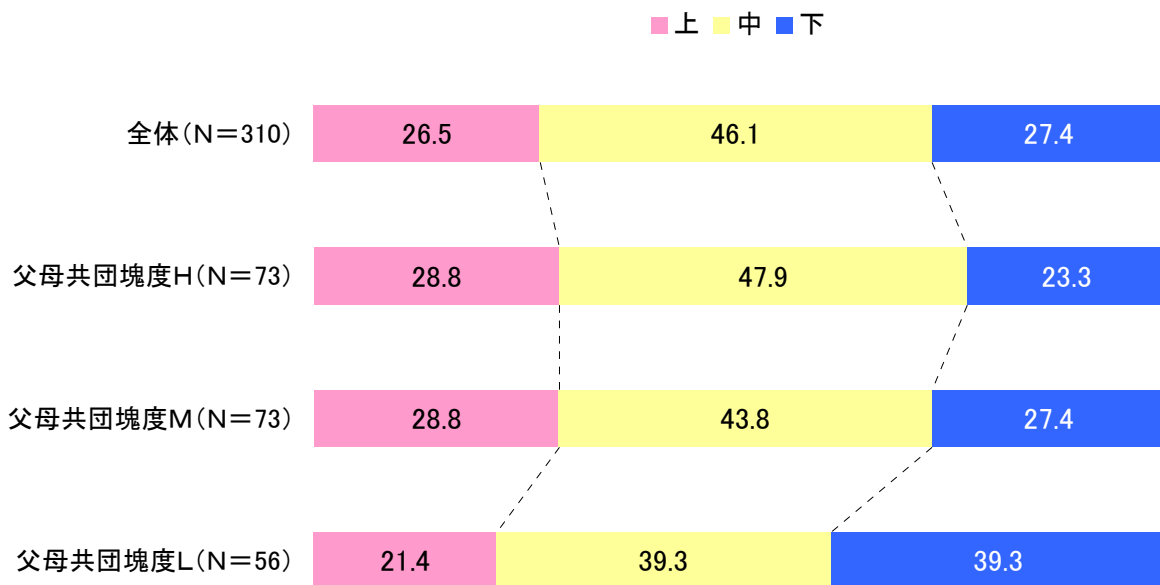
団塊ジュニア世代の階層意識において、「下流」が増えているという研究がある。本研究でもその傾向が見られる。しかし、全ての団塊ジュニア世代においてそうなのではなく、父母の〈団塊度〉が低かったジュニアにその傾向が顕著である。

団塊ジュニア世代の階層意識の変化



「団塊ジュニア調査」結果P.42 および「団塊ジュニア調査」結果P.51

父母の〈団塊度〉別団塊ジュニア世代の階層意識



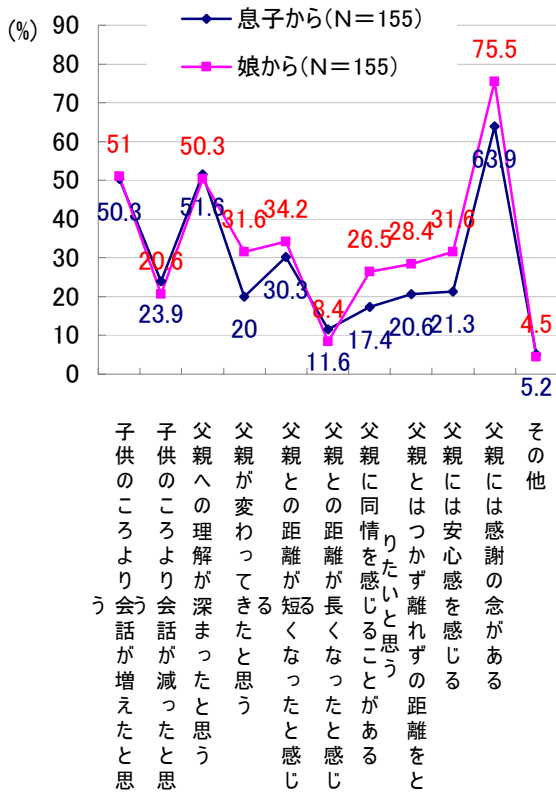
「団塊ジュニア調査」結果P.51

(注)本調査はインターネット調査であるため、対象者の社会階層意識は「上」へ偏る傾向がある。

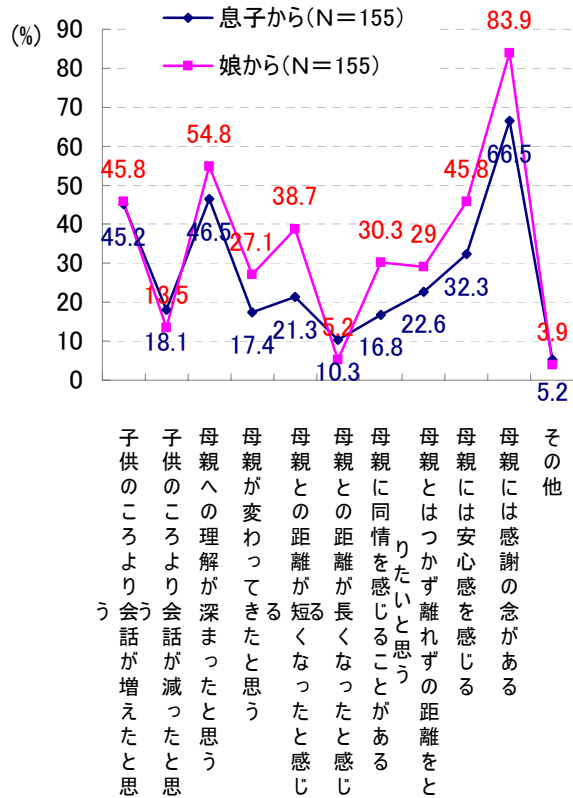
下流意識を持つ原因はいろいろあるだろうが、親の〈団塊度〉によって子の帰属階層意識が異なる。団塊的接し方をされなかったと考える子供たちは、されたと考える子供たちより、より現在の生活が下流だと考えている。

団塊ジュニア世代とその親との関係はおおむね良好である。

父親との関係について(SA)

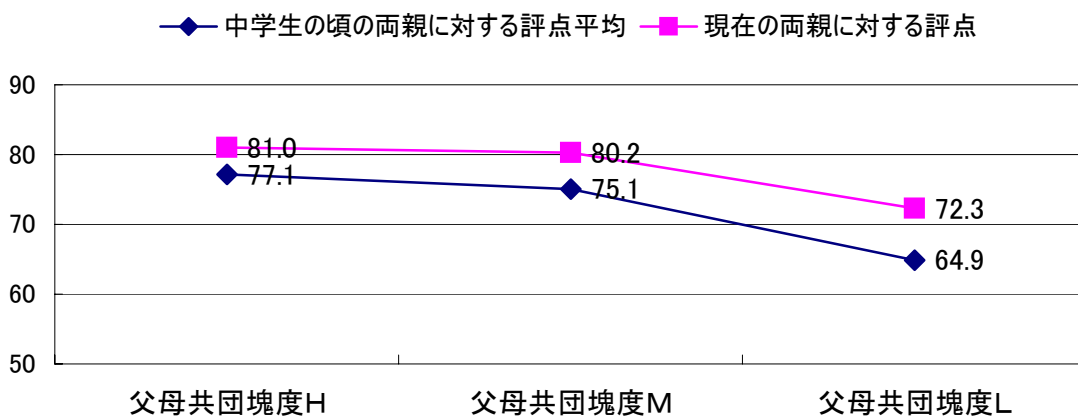


母親との関係について(SA)



「団塊ジュニア調査」結果P.50

団塊ジュニア世代の両親への評価(100点満点中何点か)



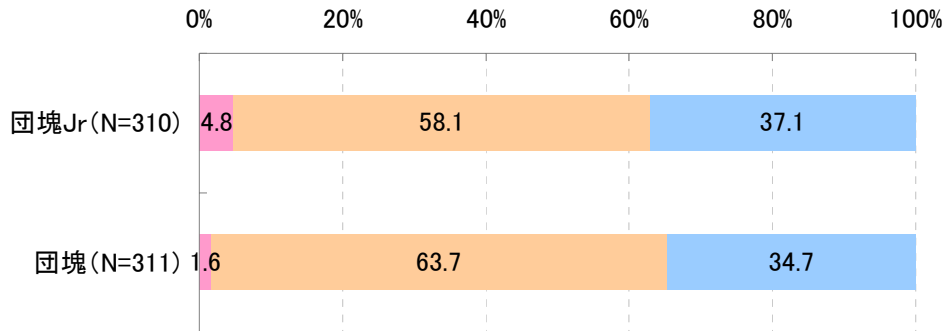
「団塊ジュニア調査」結果P.49.

親との会話が増え、親への理解が深まり、距離が短くなったと感じ、父親へも母親へも感謝の気持ちを持っている。年齢的にも経験をつんだ子供たちは親との関係が改善されてきているわけだろう。＜団塊度＞の低かった親の子供は親への評点が低く、昔も今も、しこりが残っている可能性がある。

団塊世代と団塊ジュニア世代とはつかず離れずの支援関係が生まれるだろう。

親から子どもへの支援期待(子への支援の気持ち)(SA)

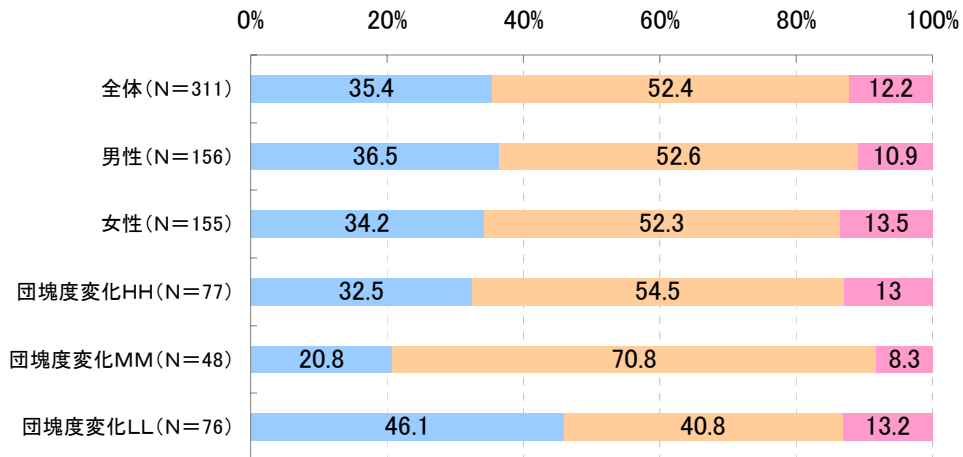
- 結婚しても親からは積極的に支援してもらいたい
(結婚しても親は積極的に支援した方がよい)
- 結婚しても支援が必要なときは支援してもらいたい
(結婚しても支援が必要なときは支援した方がよい)
- 結婚したら親からの支援は必要ない
(結婚したら親は支援しない方がよい)



「団塊世代調査」結果P.35 および「団塊ジュニア調査」結果P.57

孫の世話への考え方(SA)

- 基本的に断わる
- 条件付で世話を引き受ける
- 無条件で世話を引き受ける



「団塊世代調査」結果P.35

団塊世代の団塊ジュニア世代への「支援意向」と団塊ジュニア側からの「支援要望」はほぼ同じで、約6割である。それは孫の世話を通じての協力関係となるだろう。新拡大家族関係の構築がなされていくということだ。

A. 団塊世代の価値観調査結果

1 団塊世代の価値観とは

●団塊世代は日本ではじめて民主教育を受けて育った世代だ。したがって〈団塊的価値観〉の内容は、「非暴力主義」＝「話し合いでの解決」と「個性主義」＝「家父長制度からの脱却」を中心とし、戦後復興から高度成長時代へ進んだ55年体制の中で、会社人間として家庭を取り込んでいくための倫理的フレームの中心的価値観となった「男女性別役割分業」。その結果としての「会社人間の肯定」。そして、楽天的な「努力すれば結果はついてくる」という成長への自信。これら5つが団塊世代の子育て期の中心的価値観であったことは先行する研究から整理された。先行研究として団塊世代の世代的特徴をよく整理しているものには、東京女性財団(1998年)「男性の自立とその条件をめぐる研究-団塊世代を中心に」『東京女性財団研究報告書』、長尾三郎(1983年)「団塊世代-まかりとおる!!」日本を動かすミドルパワー」、NHK放送文化研究所「日本人の意識」、鈴木征雄(2004年)「団塊世代の特性」『樋口美雄他「団塊世代の定年と日本経済」』などがある。

●団塊世代の価値観・生き方を団塊Jr.の価値観・生き方と比較する。また、団塊世代の生き方・価値観は、子育て真っ最中であった団塊Jr.の末子が中学生の頃(およそ15年前)と比較して、団塊世代自身のどのような変化を見せているのか。団塊世代の価値観がJr.の成長にポジティブな影響を与えたのか、そうでないのか。それらの課題へこれら5つの価値観を検討することによって、発見的解決をすることが本調査研究の中心的課題である。

●こうした調査課題に対応するために、〈団塊度〉という操作変数を構成した。

●〈団塊的価値観〉は団塊世代がその子育て期に多かれ少なかれ、共通して抱えていた価値観である。〈団塊度〉が高い人は低い人と比べると、よりいっそう団塊世代の特徴を強く持っていると仮定する。また、逆に〈団塊度〉が低い人は同じ団塊世代に属していたとしても、余り団塊世代的ではない、と仮定する。

●〈団塊度〉とは5つの変数、すなわち、「男女性別役割分担意識」「目標達成志向」「個性化志向」「民主的解決志向」「仕事優先意識」の総合的な合成と考える。したがって、それぞれの変数への賛成度を合計し(5点～25点の範囲)ヒストグラムを見て、HIGH,MIDDLE,LOWグループを決定した。〈団塊度H〉は126s、〈団塊度M〉は95s、〈団塊度L〉は90sであった。

具体的な質問としては、以下のような操作変数で定義した。

Q1) 昔のことになりますが、あなたの子供(1975～1979年生まれの子供)が中学生だった頃、次の1-5の意見に対し、あなたは、それぞれどの程度賛成あるいは反対でしたか。※1975～1979年生まれの子供が複数いる場合は、その中で一番下の子供についてお答え下さい。

変数1: 男性は外で収入を得るため働き、女性はしっかりと家庭を守るのがよい

変数2: 目標のために努力すれば、成果はついてくるものだ

変数3: 子供はそれぞれの個性を十分に発揮して育つのがよい

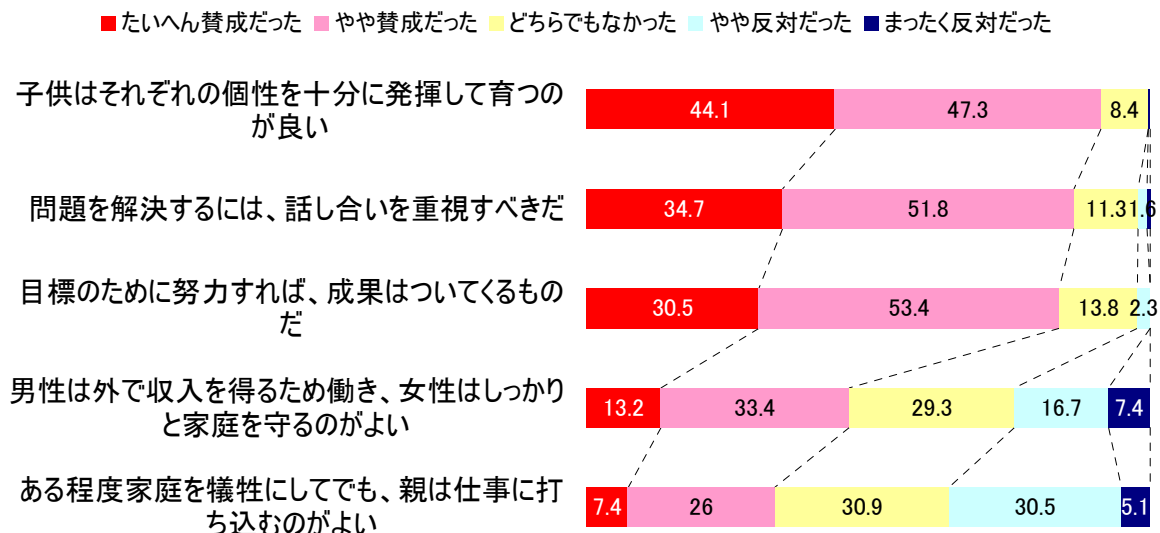
変数4: 問題を解決するには、話し合いを重視すべきだ

変数5: ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい

2 <団塊度>

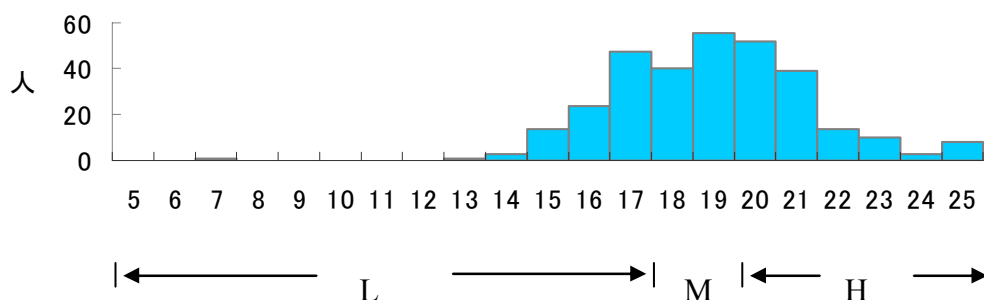
Q1) 昔のことになりますが、あなたの子供(1975～1979年生まれの子供)が中学生だった頃、次の1-5の意見に対し、あなたは、それぞれどの程度賛成あるいは反対でしたか。※1975～1979年生まれの子供が複数いる場合は、その中で一番下の子供についてお答え下さい。

<団塊的価値観: 子供が中学生の頃(N=311)団塊世代調査>



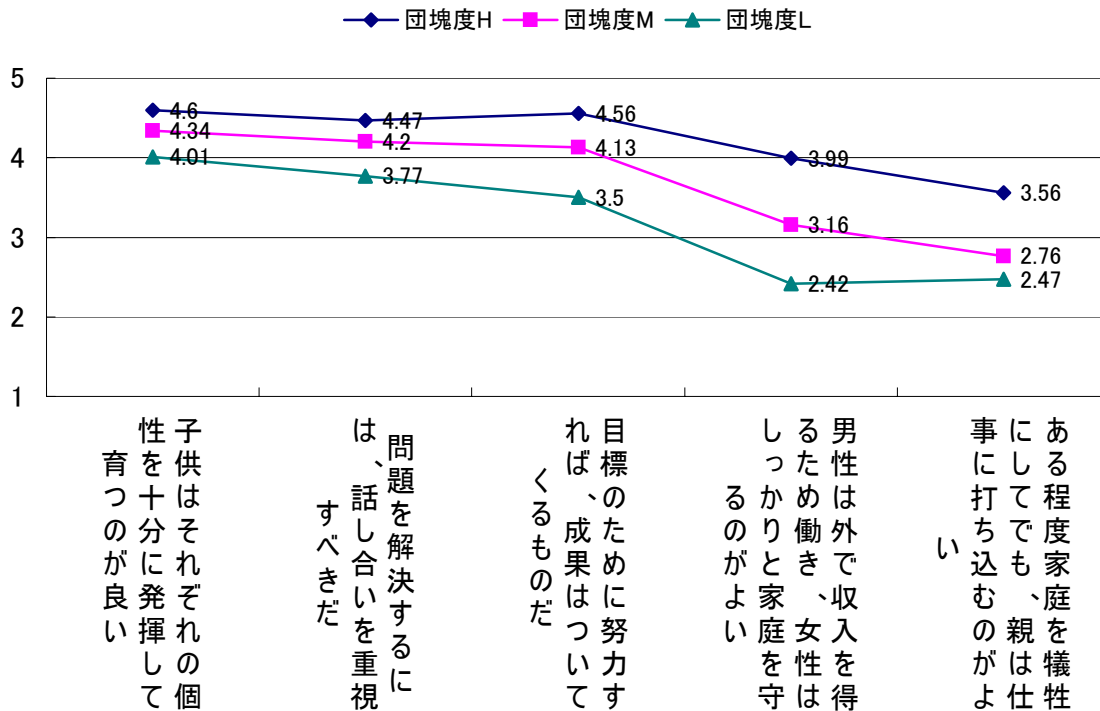
<団塊度>は上記の質問への回答「大変賛成だった」に5点、「やや賛成だった」に4点、「どちらでもなかった」に3点、「やや反対だった」に2点、「まったく反対だった」に1点を与え、5質問を単純に合計し、その合計値をその人の<団塊度>とした。

ヒストグラム



個人の合計得点の分布は上記のヒストグラムのもようであった。21点以上を<団塊度>Hとし、18-19点を<団塊度>M、17点以下を<団塊度>Lと分類した。ある変数で「反対」である変数で「賛成」であってもプラス方向、マイナス方向ではなく1次元上の得点の多少で分類されているので、H,M,Lとして問題は少ない。

＜団塊度＞による加重平均値の違い



どの質問においても、＜団塊度＞の高い、低いによって、同じ回答パターンであることがわかる。逆に言えば、＜団塊度＞の低い人が＜団塊度＞の高い人より平均値が上回ることはない。すなわち、ばらつきはあっても、この5つの尺度は1次元性を確保している。したがって合成変数としての＜団塊度＞は有効性がある。

3 団塊世代の価値観

●P15でも述べたが団塊世代は日本ではじめて民主教育を受けて育った世代だ。その内容は、「非暴力主義」＝「話し合いでの解決」と「個性主義」＝「家父長制度からの脱却」を中心とし、戦後復興から高度成長時代へ進んだ55年体制の中で、会社人間として家庭を取り込んでいくための倫理的フレームの中心的価値観となった「男女性別役割分業」。その結果としての「会社人間の肯定」。そして、楽天的な「努力すれば結果はついてくる」という成長への自信。これらが団塊世代自身の成長期の中心的価値観であったことは間違いない。

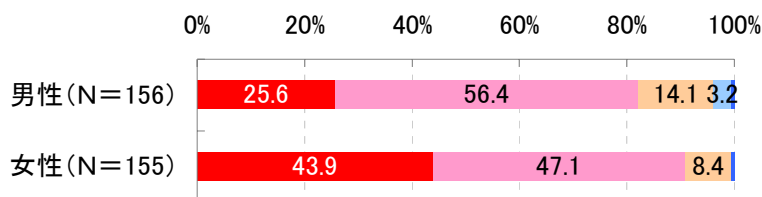
●確かに、「子供の個性」や「目標達成への努力」「話し合いによる解決」は、男女ともに「たいへん賛成だった」が多く、8割以上が「賛成」していた価値観だ。しかし、自分たちが子供の教育をする年代となった時、「仕事優先」や「男女性別役割分業」については必ずしも諸手を挙げて賛成という性格のものではなかったようだ。

●男女別に「性別役割分業」「仕事優先」への賛成度をみると、いずれも男性で「賛成だった」割合が高いが、女性はむしろ「反対だった」割合が高いくらいだ。団塊世代の女性をすべてが専業主婦願望の女性だったと見る事は難しい。

4 団塊世代の価値観の性差

問題解決には話し合い(SA)

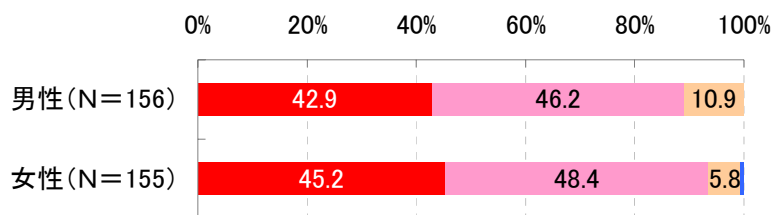
■たいへん賛成だった ■やや賛成だった ■どちらでもなかった ■やや反対だった ■まったく反対だった



「話し合い志向」は男性より女性に多い志向だ。しかし、男性でも8割の賛成率があり、代表的な団塊世代の価値観のひとつだろう。

子どもの個性(SA)

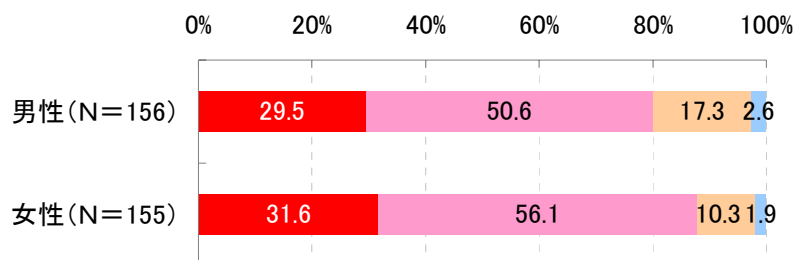
■たいへん賛成だった ■やや賛成だった ■どちらでもなかった ■やや反対だった ■まったく反対だった



「子供の個性志向」も同様に代表的な団塊世代の価値観だ。男性・女性問わずに賛成率が9割ある。

目標達成には努力(SA)

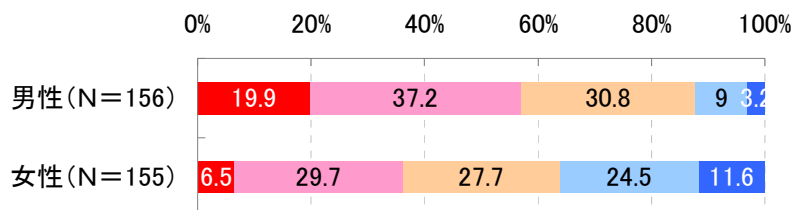
■たいへん賛成だった ■やや賛成だった ■どちらでもなかった ■やや反対だった ■まったく反対だった



「目標達成志向」ないし「成果確信志向」=がんばれば将来は確実である、という価値観も賛成率が高い。

男性は収入を得るために働き、女性は家庭を守る(SA)

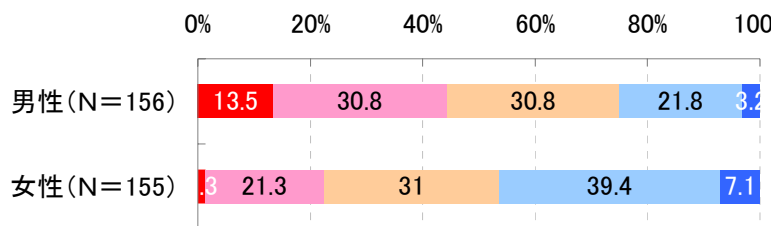
■たいへん賛成だった ■やや賛成だった ■どちらでもなかった ■やや反対だった ■まったく反対だった



「性別役割分担志向」については男女差が見られる。女性では賛否ほぼ半々である。

仕事優先(SA)

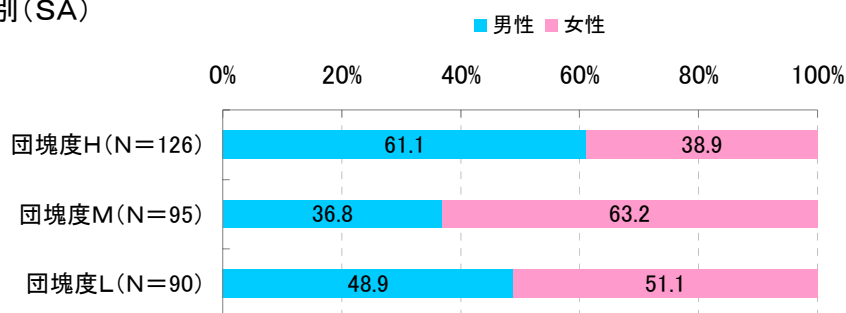
■たいへん賛成だった ■やや賛成だった ■どちらでもなかった ■やや反対だった ■まったく反対だった



「仕事優先志向」については、男性と女性の「賛成率は逆転する。

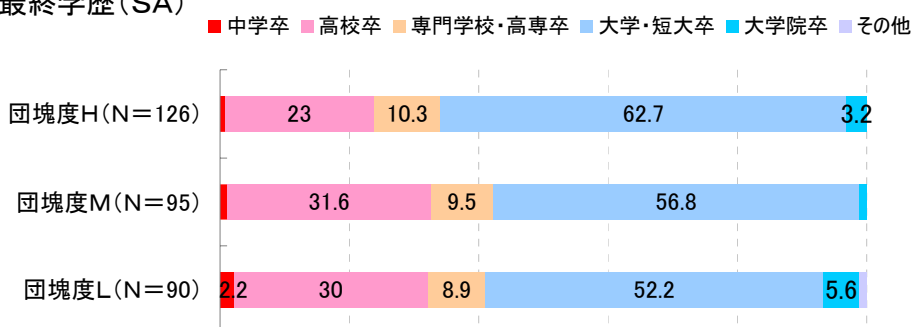
5 <団塊度>別プロフィール

性別(SA)



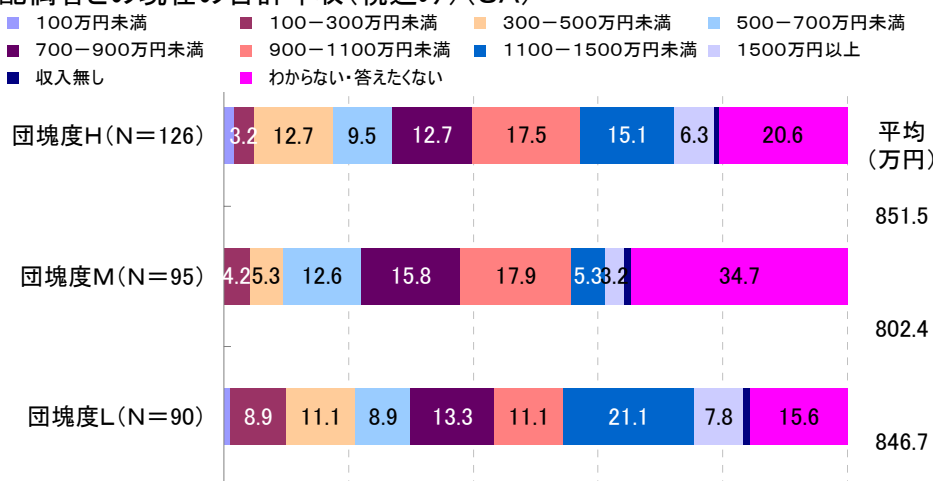
<団塊度>Hは男性に多く、<団塊度>Mは女性に多い。<団塊度>Lは男性女性ほぼ半々。

最終学歴(SA)



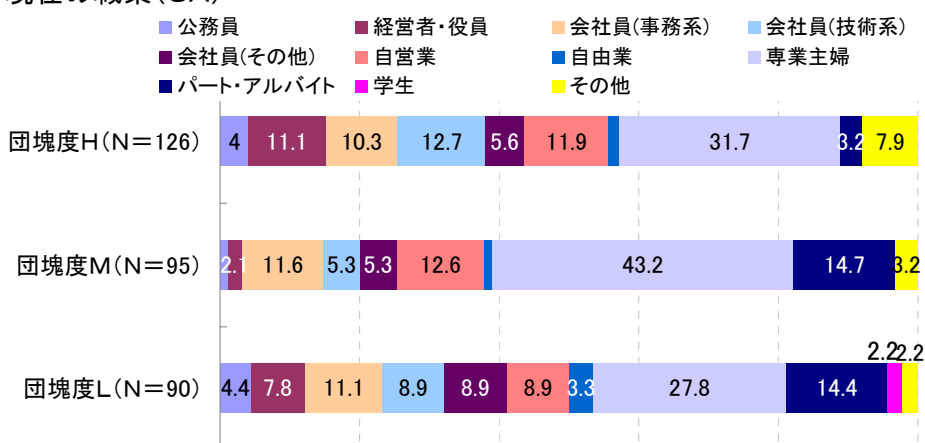
<団塊度>Hは大学卒以上が多いが、男性を多く含んでいるためであろう。逆に<団塊度>Mは高卒がやや多いが女性を多く含んでいるからであろう。

配偶者との現在の合計年収(税込み)(SA)



現在の配偶者合計年収は平均値で見て、一般調査では700万円台のところ、本調査では800万円台であって、やや高めである。<団塊度>別にはHとLがMと比較して高めである。

現在の職業(SA)

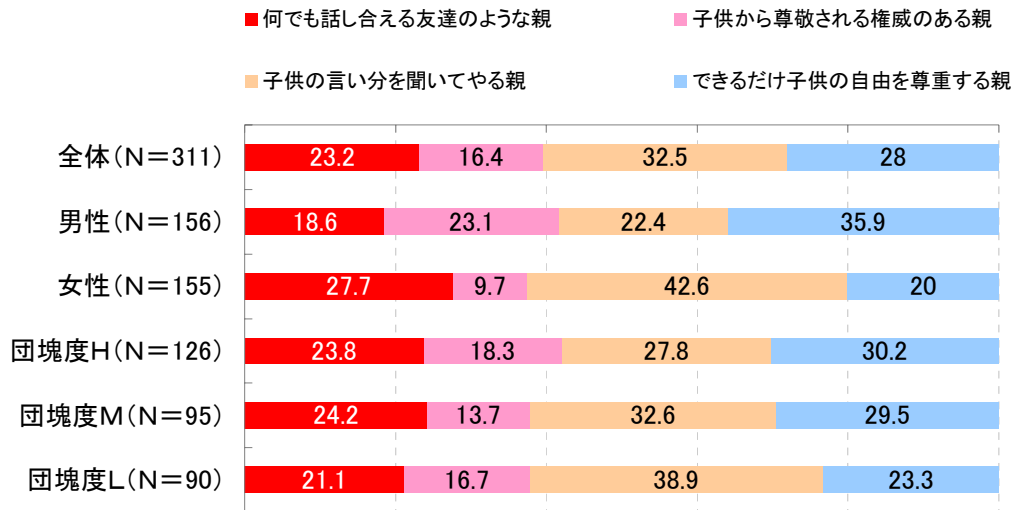


現在の職業では<団塊度>Hでは経営者・役員が多く、パートアルバイトが少ない。<団塊度>Mは女性を多く含むため、専業主婦・パートアルバイトも多い。<団塊度>Lでは相対的に専業主婦が最も少ない。

6 どのような親になりたいと思っていたか

Q3)Q1で答えた子供が中学生だった頃、あなたはどのような親になりたいと思っていましたか。その頃の考え方に最も近いものを1つお知らせください。

どのような親になりたいと思っていたか (SA)



●全体としては「子供の言い分を聞いてやる親」33%、「できるだけ子供の自由を尊重する親」28%、「何でも話し合える友達のような親」23%、「子供から尊敬される権威のある親」16%となっている。

●男性では「できるだけ子供の自由を尊重する親」の割合が高く、「子供から尊敬される権威のある親」の割合もそれについている。女性では「子供の言い分を聞いてやる親」または「何でも話し合える友達のような親」が多い。

■団塊の母親は、＜友達親子＞志向が強く、団塊男性は＜自由尊重＞志向が高いと指摘されることが多いが、その傾向は確かに検証されるようだ。

7 生活目標

Q4)Q1で答えた子供が中学生だった頃の、あなたの生活目標に近い項目を1つお知らせください。

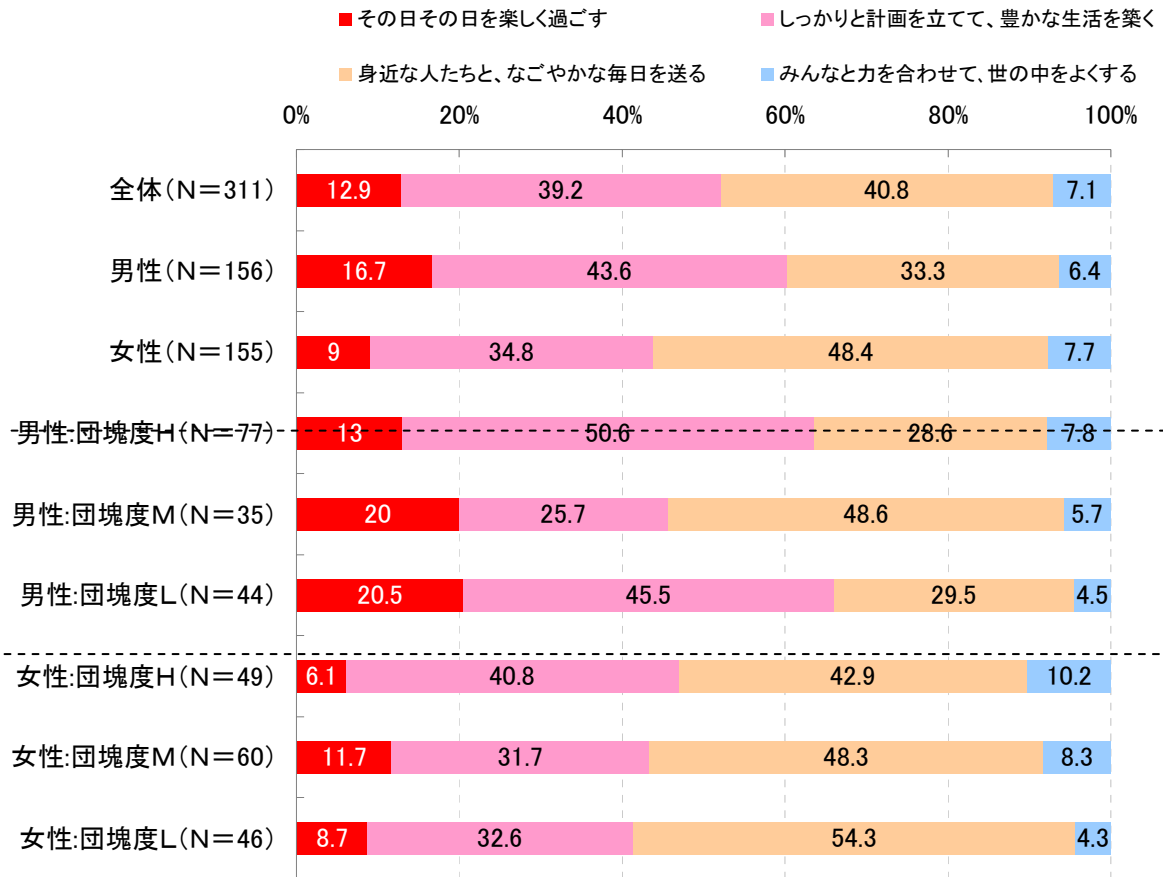
●その頃の親自身の生活目標は「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」41%、「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」39%が主要なものだった。

●男性では「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」が44%と最も多く、女性では「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」が48%と最も多い。

●男性を＜団塊度＞別に見ると、＜団塊度＞HでもLでも「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」の割合が高いのが特徴的だ。＜団塊度＞Mでは「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」が多い。女性では＜団塊度＞Lでとくに「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」が多い結果となっている。

■NHK放送文化研究所の「日本人の意識」データによると団塊世代男性の1988年当時(団塊世代男性が39—42歳当時:末子中学生の頃)の生活目標は＜愛志向:「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」＞37%、＜利志向:「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」＞34%、＜快志向:「その日その日を楽しく過ごす」＞20%となっている。本調査でも傾向としては、これに近い。男性ではやや＜利志向＞が高く、＜快志向＞が少ない結果である。

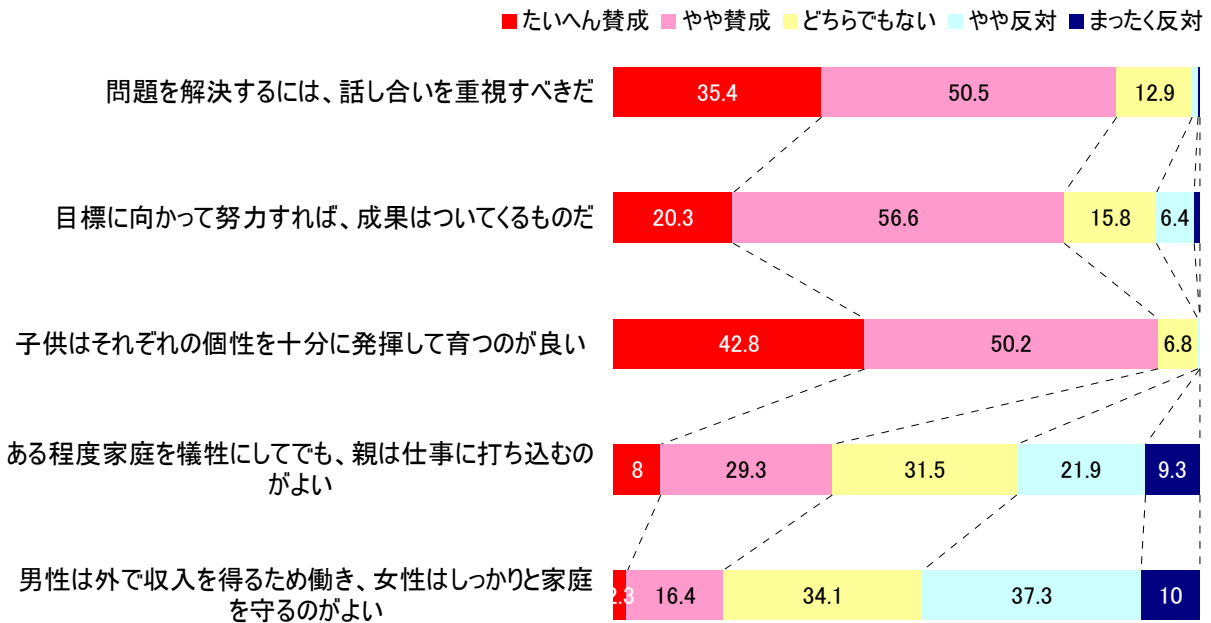
生活目標(SA)



8 団塊世代の価値観変化

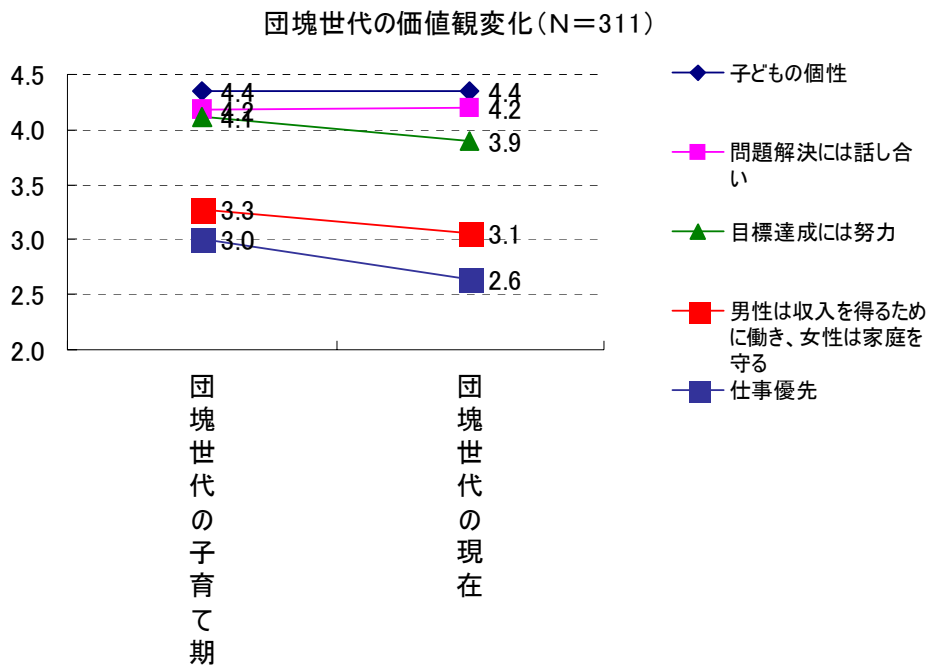
Q7)現在、あなたは次の1-5の意見について、どの程度賛成あるいは反対ですか。

<団塊的価値観-現在>



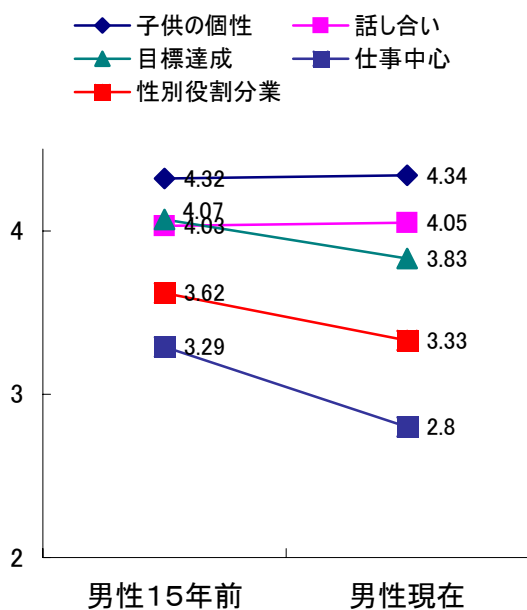
■ 子供生育期に対し、現在では団塊度はどのように変化しているだろうか。現在も＜団塊的価値観＞は維持されているのだろうか。あるいはどの＜団塊的価値観＞に変化がおきているのだろうか。

● 全体として、＜団塊的価値観＞のうち、「個性志向」「たいへん賛成」44.1%⇒42.8%および「話し合い志向」34.7%⇒35.4%は過去から変わらず維持されているが、「目標達成志向」30.5%⇒20.3%へ、「性別役割分担志向」13.2%⇒2.3%へ、と大幅に減少し、かつ「仕事中心志向」の「反対小計」は35.6%⇒47.3%は大きく増加している。

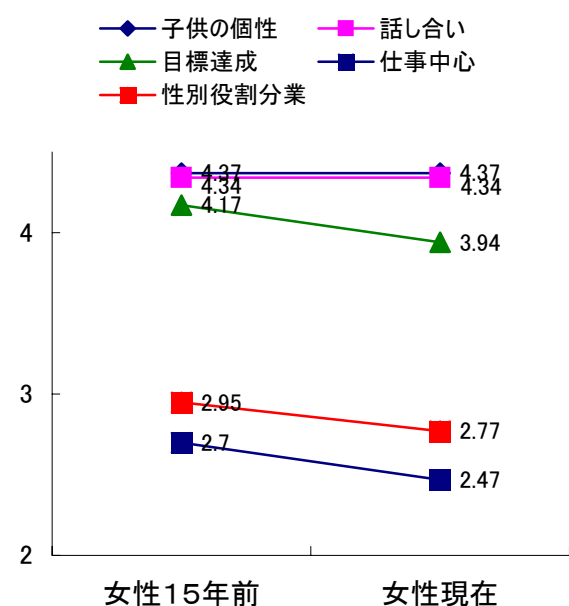


加重平均値で見ても同様の変化が見られる。団塊世代が今も維持しているかつての価値観は「子供の個性志向」と「話し合い志向」の二つである。また、減少したとはいえ、「目標達成志向」は今もって高い水準であり、全体としてはポジティブな志向性は失われてはいない。おそらく、失われた層と維持している層とに分断されている可能性が高いと思われる。男性より女性で仕事に関する価値観を支持する人が減少している。

＜男性の価値観変化＞



＜女性の価値観変化＞



■過去と現在で団塊的価値観はどのような変化をしているのか。

●<性別役割分業意識>については、男性、女性ともに大きく減少している。特に女性では4割以上が反対に回っている。それに比べ男性は、まだ、逆に4割程度が「男性は外で収入を得るために働き、女性はしっかりと家庭を守るのがよい」と考えている。

●<目標達成志向>については、現在、男性・女性ともに減少してはいるものの、それでも依然として8割近くが、賛成している価値観だ。団塊世代の中心的価値観の一つとして、努力・勤勉は存在しているといっていいただろう。

●<個性化志向>は男性・女性ともに最も強く支持されている価値観だ。「子供はそれぞれの個性を十分に発揮して育つのがよい」と考えて育ててきたし、今もそう信じている。コアになる考えの一つといえるだろう。

●<話し合い解決志向>は、「問題を解決するには、話し合いを重視すべきだ」として、非暴力的解決が戦後の一貫した民主主義教育の根幹だった。しっかりと変化なく支持されている。特に女性には強く支持されている。

●<仕事優先意識>は極端に減少している。現在、男性でも26%程度しか賛成者はおらず、女性では10%余りだ。

■こうした変化には、時代的、年代的、世代的な原因があるだろう。

■<性別役割分業意識>は会社人間として、「ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい」という<仕事優先意識>をささえ、高度成長期に世帯形成を行った団塊世代の基調として、多くの専業主婦を生んだが、高学歴女性には、男女雇用均等法以降、不満が蓄積していたに違いはない。末子が手がかからなくなって、パートやアルバイトをふくめ、50%以上の女性が就業している現在、当然減少する価値観だといえるだろう。

■<目標達成志向>は「一億総中流」に達した後も、信念として団塊世代の生き方を支えてきた未来志向の考え方だ。この信念が団塊Jrの生き方にプラスに働いているのなら団塊世代の存在意義は大きかったといえるだろうし、ネガティブに作用したのなら、団塊世代の生き方もまた、否定されてくるかもしれない。

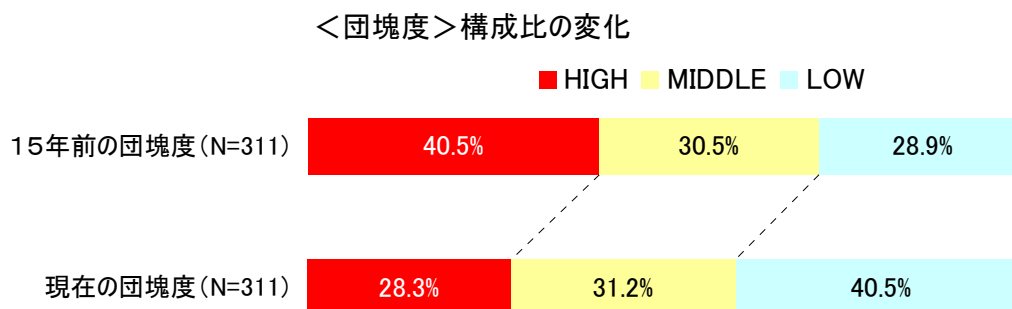
■<個性化志向>も減少しない団塊世代の代表的信念だ。どのような年代、どのような時代にあっても、個人の尊厳は保たれるべきであって、政治や経済活動の中で道具のように扱われるべきではない、という考え方は普遍的なものといえる。

■<話し合い解決志向>は父親が暴力を振るうことを極端に嫌う反家父長制の思想であった。戦後憲法教育が最初に浸透した世代として団塊世代は存在する。団塊Jrへこの思想が継承されているかどうか、近代家族をリードした団塊世代の評価を決めていくのではないか。

■<仕事優先意識>は、<性別役割分業意識>と表裏の関係にある。このふたつの考え方がともに減少したのは理由があることだ。高度成長によって中流を達成し、バブルの崩壊によって企業戦士はリストラの対象となる。<仕事優先意識>に変化が生まれるのは男性においても当然のことだ。

9 現在の〈団塊度〉

団塊世代の価値観が変化すれば、〈団塊度〉も当然変化する。同じ操作変数で現在の〈団塊度〉を見ると、当然〈団塊度〉Hの人は減り、Lの人が増加している。団塊世代らしさを失いつつあるのだ。



■ 団塊的価値観への賛成率がこれだけ減少している以上、〈団塊度〉も当然減少する。したがってこれからは〈団塊度〉ではなく、〈団塊度の変化パターン〉を構成し、その人たちのプロフィールを見てみたい。現在も、なお〈団塊的〉である人、〈団塊的であることをやめた人〉とはどのような人なのであろうか。

10 〈団塊度の変化パターン〉

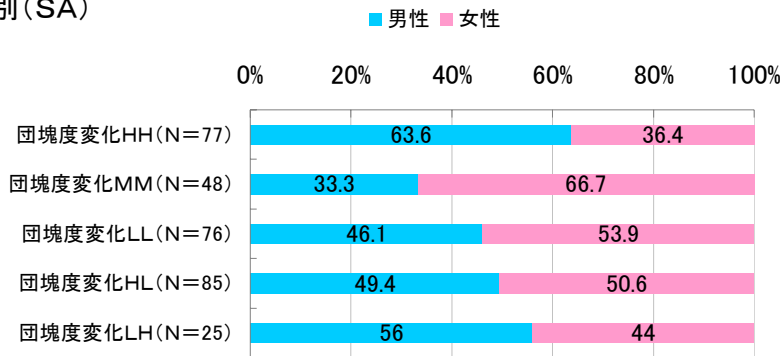
- 現在、〈団塊度〉の変化に基づく、団塊世代の構成比は以下のようにになっている。
- 15年前に〈団塊度〉が高かった126サンプルのうち、49人(39%)は団塊らしさを減少させ、〈団塊度〉が中だった95人のうち36人(38%)が同様に団塊らしさを減少、11人は(11.6%)が逆に団塊的となり、〈団塊度〉がもともと低かった90人中76人(84%)が同様に低いという結果である。
- 全体の構成比では、
- 〈団塊度〉を高いまま保っているグループは25%、〈団塊度〉を中で保っているグループは16%、〈団塊度〉を低いまま保っているグループは25%。つまり、過去も現在も余り考え方を変えていない人は66%いるわけだ。これに加え〈団塊度〉を下げたグループ28%、〈団塊度〉を上げたグループ8%となっている。

		現在の団塊度		
		H (N=88)	M (N=97)	L (N=126)
15年前の団塊度	H (N=126)	77 61.1% 24.8% HH	35 27.8% 11.3%	14 11.1% 4.5% HL
	M (N=95)	11 11.6% 3.5%	48 50.5% 15.5% MM	36 37.9% 11.6%
	L (N=90)	0 0% 0% LH	14 15.6% 4.5%	76 84.4% 24.5% LL

度数
クロス%
全体構成
比%

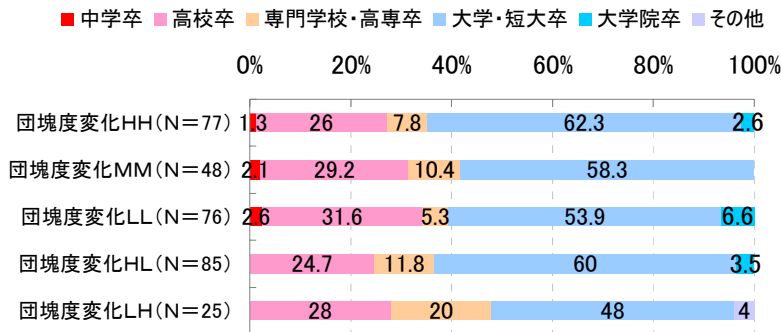
11 <団塊度>の変化パターン別プロフィール

性別(SA)



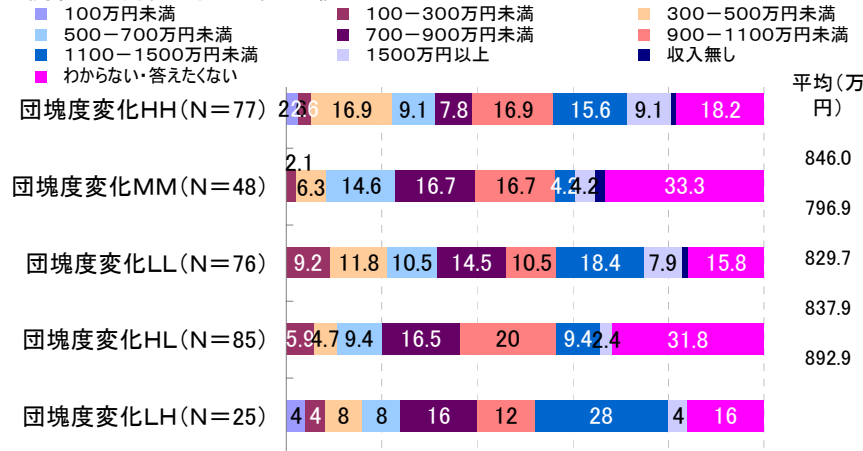
● 性別には、<団塊度>HHで変化のないグループは男性が多い。<団塊度>MMで変化のないグループには女性が多い。<団塊度>HLと団塊度を減少させたグループには男性も女性もそれぞれほぼ半数ずつ含まれている。

最終学歴(SA)



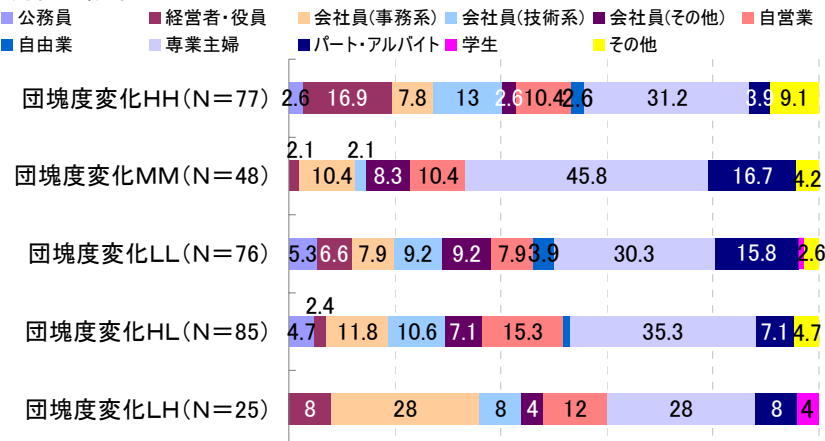
● 学歴別にはHHのグループとHLのグループに大学卒が多い傾向がある。HHではなく、HLへと変化した大学卒がいると解釈することも可能だ。

配偶者との現在の合計年収(税込み)(SA)



● 配偶者合計年収では、<団塊度>LHすなわち<団塊度>が向上した人の平均年収が893万円と、最も高く、ついてHH、HL、となっている。<団塊度>LLでは合計年収300万円未満は9%余り存在している。

現在の職業(SA)



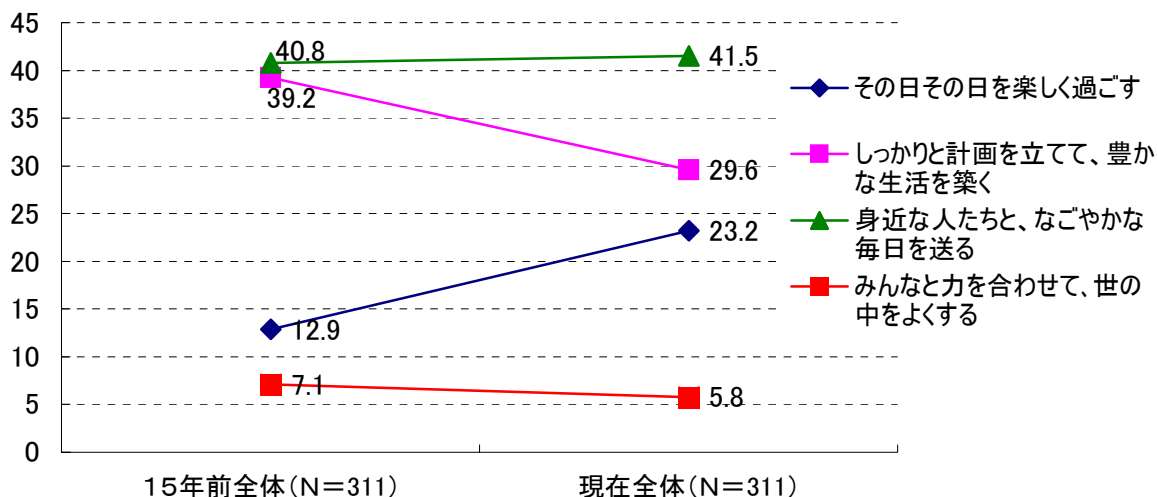
● 専業主婦が多いのは、<変化M⇒M>グループ。会社役員が多いのは、<変化H⇒H>グループ。事務系会社員が多いのは、<変化L⇒H>グループ。

12 現在の生活目標

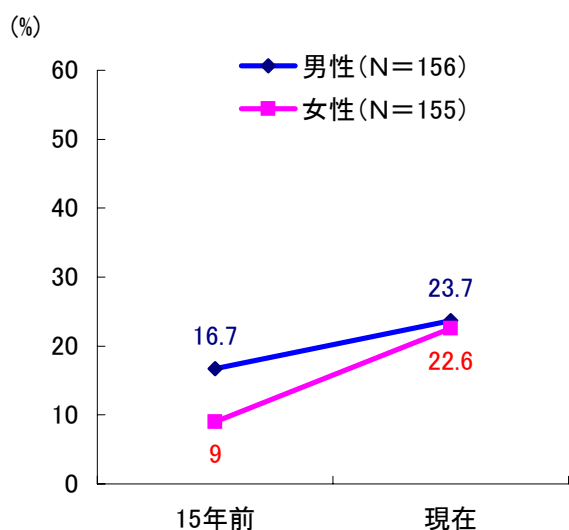
Q8)あなたの現在の生活目標に最も近い項目を1つお知らせください。

■<団塊度>の変化に関連して、生活目標はどう変化したのだろうか。団塊世代の価値観変化を補完する意味でやはり15年前との比較をしよう。

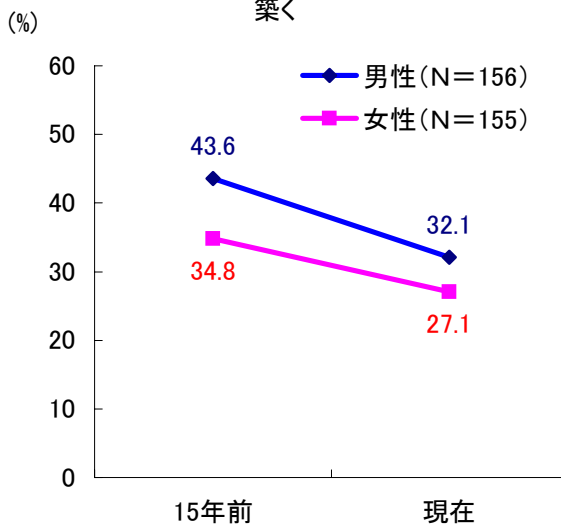
生活目標の変化



その日その日を楽しく過ごす



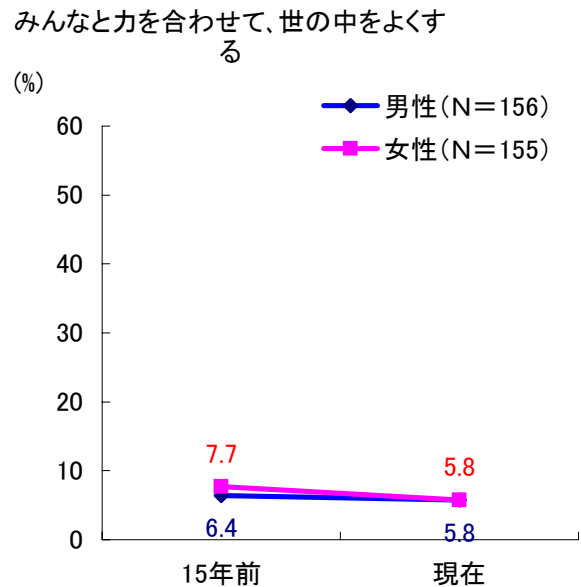
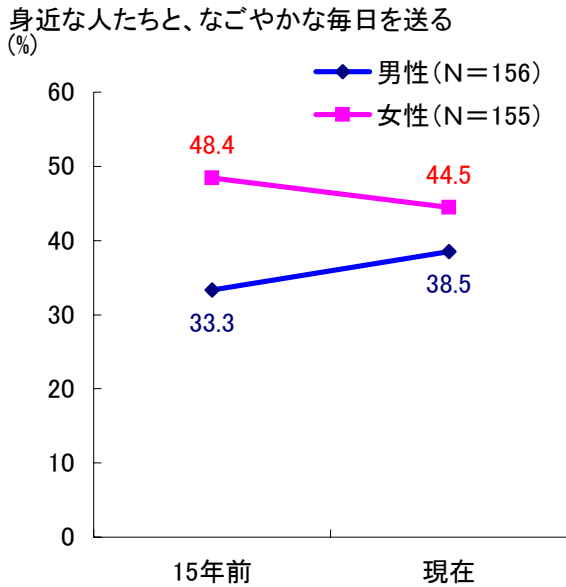
しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く



●男性・女性別に見てみよう。

●男性では、<愛>志向:「身近な人たちとなごやかな毎日を送る」ことを生活目標とする人は、5%ほど増加し、<利>志向:「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」人を抜いて、1番の目標となっている。<快>志向:「その日その日を楽しく過ごす」も増加しているが、第3位の目標だ。ここへきて、家庭へ帰ろうという意識の男性が増えたことを示している。団塊世代といえども、時代・年代の変化によって、変わってきているわけだ。

●女性では、<愛>志向が最も多い生活目標だが、やや減少している。また、<利>志向も減少して、反対に<快>志向の増加が著しい。ここへきて、子供も独立し、「身近な人たち」は巣立ったわけだし、「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」ことはできてしまった。だから「その日その日を楽しく過ごす」ということになる。



●現在の生活目標をすこし詳しく見てみよう。

●全体としては、「身近な人たちとなごやかな毎を送る」という目標を持つ人が最も多く、42%を占める。過去の構成比と変わらないレベルだ。次いで「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」30%、15年前よりも9ポイントも大幅に減っている。「その日その日を楽しく過ごす」という人は現在23%だが10ポイントも大幅に増加している。「みんなと力をあわせて、世の中をよくする」は変化なしで、6%。

●「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」という<利>志向が減り、<快>志向が伸びている。

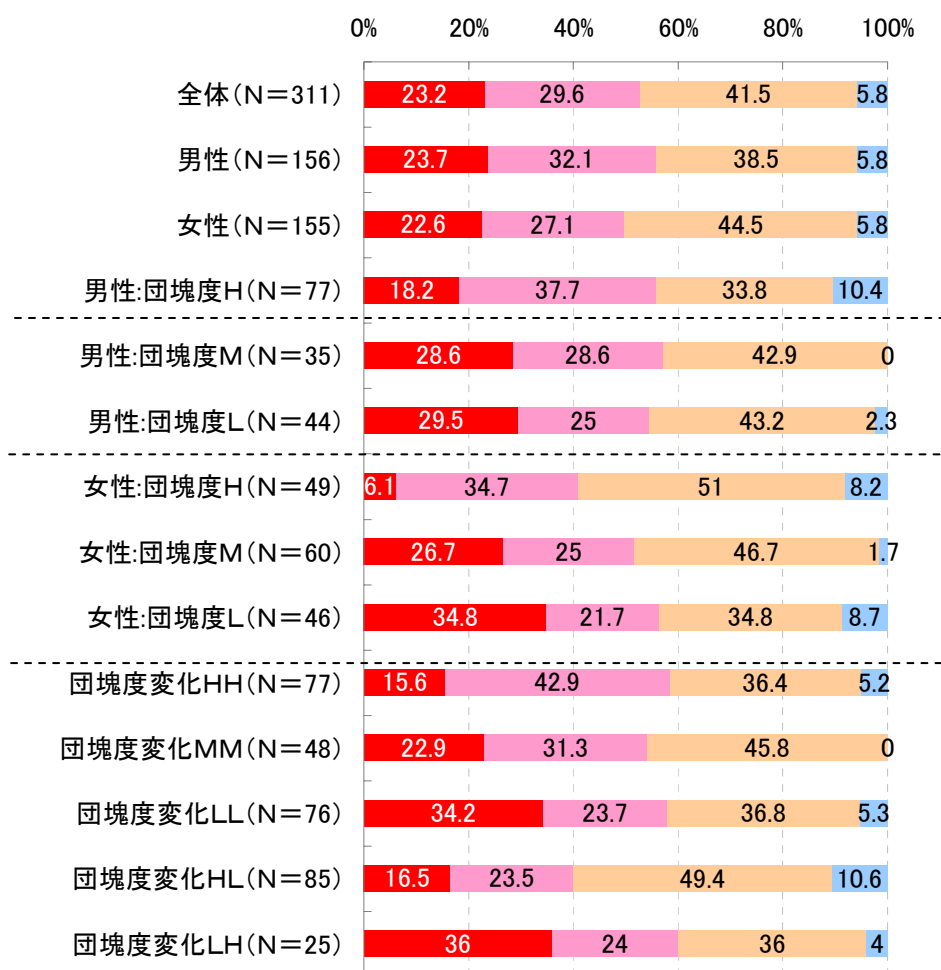
●<団塊度>別に見てみると、<利>志向が高いのは、男性・女性ともに<団塊度>のHの人で、H>M>Lの順でその志向性は減る傾向がある。逆に、<快>志向は<団塊度>Lの人に多く、<利>とは逆に、L>M>Hの順で減る傾向だ。

●<愛>志向:「身近な人たちとなごやかな毎を送る」については、男性では<団塊度>での差は見られないが、女性では、<団塊度>のHに人たちが支持する生活目標だ。<団塊度>H>M>Lの順で支持されている。

■<団塊度>の変化パターン別にも同様のことが言える。すなわち過去も現在も<団塊度>H⇒Hという中核団塊層はあいかわらず<利>志向であり、<団塊度>M⇒MIは<愛>志向、<団塊度>L⇒Lは<快>志向といえるだろう。<団塊度>がH⇒Lへと変化したライフスタイル変化層は<愛>志向を強めるが、<利>志向は最も少なく、<快>志向もすくない。やる気をなくし、楽しいことをするでもない有様はリストラされたサラリーマンを想像させられる。逆にLからHへ変化した層は<快>志向を強めているが、従来の団塊世代のもつ価値観とは異質な感じがする。むやみな働き蜂ではなく、リラックスした自分なりの生活を目標としているからではないか。

現在の生活目標(SA)

- その日その日を楽しみ過ごす
- しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く
- 身近な人たちと、なごやかな毎日を送る
- みんなと力を合わせて、世の中をよくする



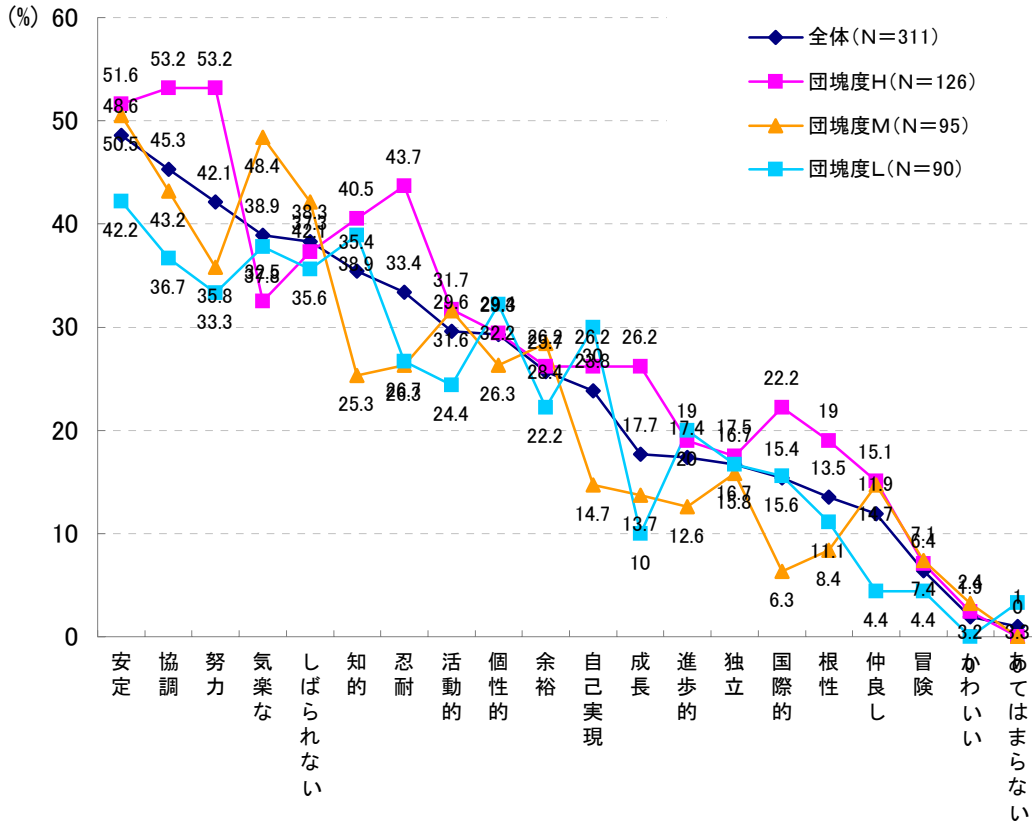
13 自分の生き方を表す言葉

Q9)自分の生き方を、少しでも表現していると思う言葉をすべてお知らせください。

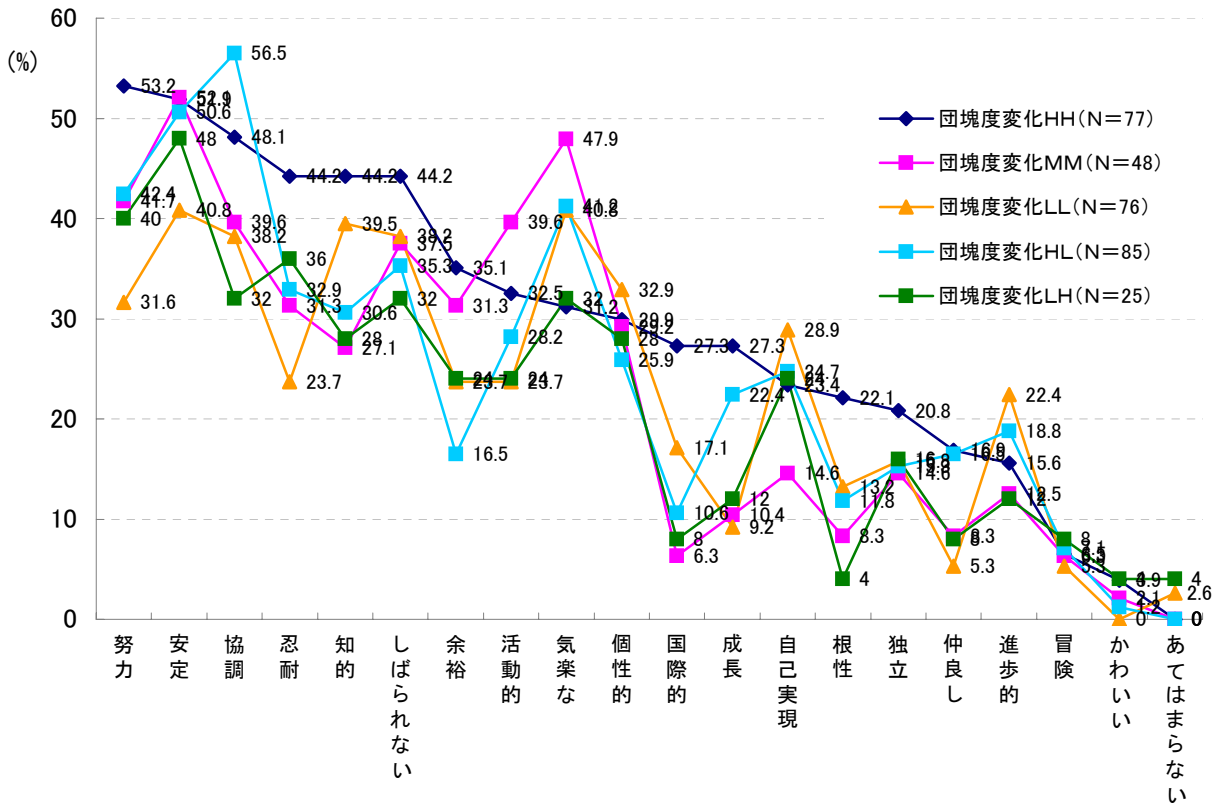
■全体として、団塊世代の生き方をあらわす言葉として対象者が選択した言葉のトップ3は「安定」「協調」「努力」だ。安定的な生活を目指し、周りと協調し、努力してきた人生を歩んできた、と考えているとおもわれる。

- <団塊度>Hの生き方を示す言葉は、協調・努力・安定・忍耐、であって、気楽な生き方ではない。
- <団塊度>Mの生き方を示す言葉は、安定・気楽な・しばられない、が多く、知的、進歩的、自己実現は少ない。
- <団塊度>Lの生き方を示す言葉は、知的・個性的・自己実現・進歩的であるが、安定、協調、努力は少ない。
- <団塊度>Hの生活目標は<利>志向であり、<団塊度>Mは<愛>志向、<団塊度>Lは<快>志向であったことと対応しているように思われる。
- 男性の生き方は、努力、忍耐、知的、個性的、自己実現、独立などが上げられている。
- 女性では、安定、強調、気楽な、活動的、仲良しなどだ。

自分の生き方を表す言葉 (MA)



自分の生き方あらず言葉 (MA)

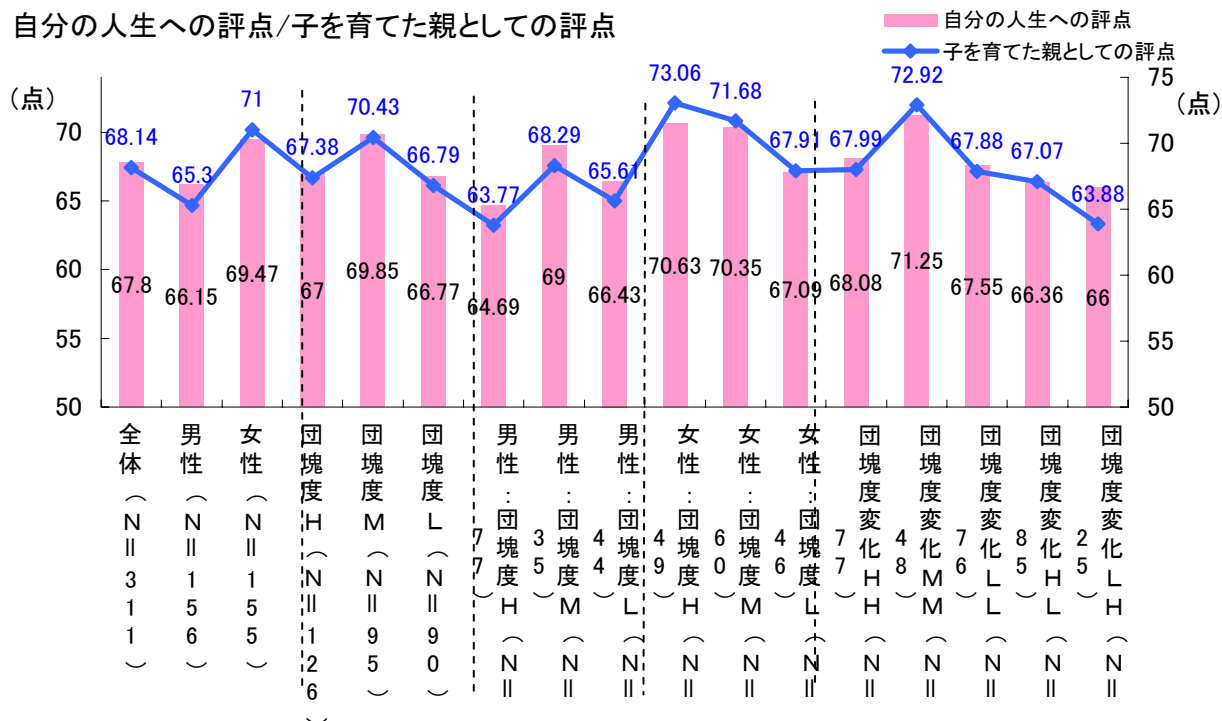


14 自分の人生への評点/子を育てた親としての評点

Q10)現在、ここまでの自分の人生を振り返ってみて、あなたはご自分の人生に何点をつけますか。理想の人生を100点満点として、数字をご記入ください。

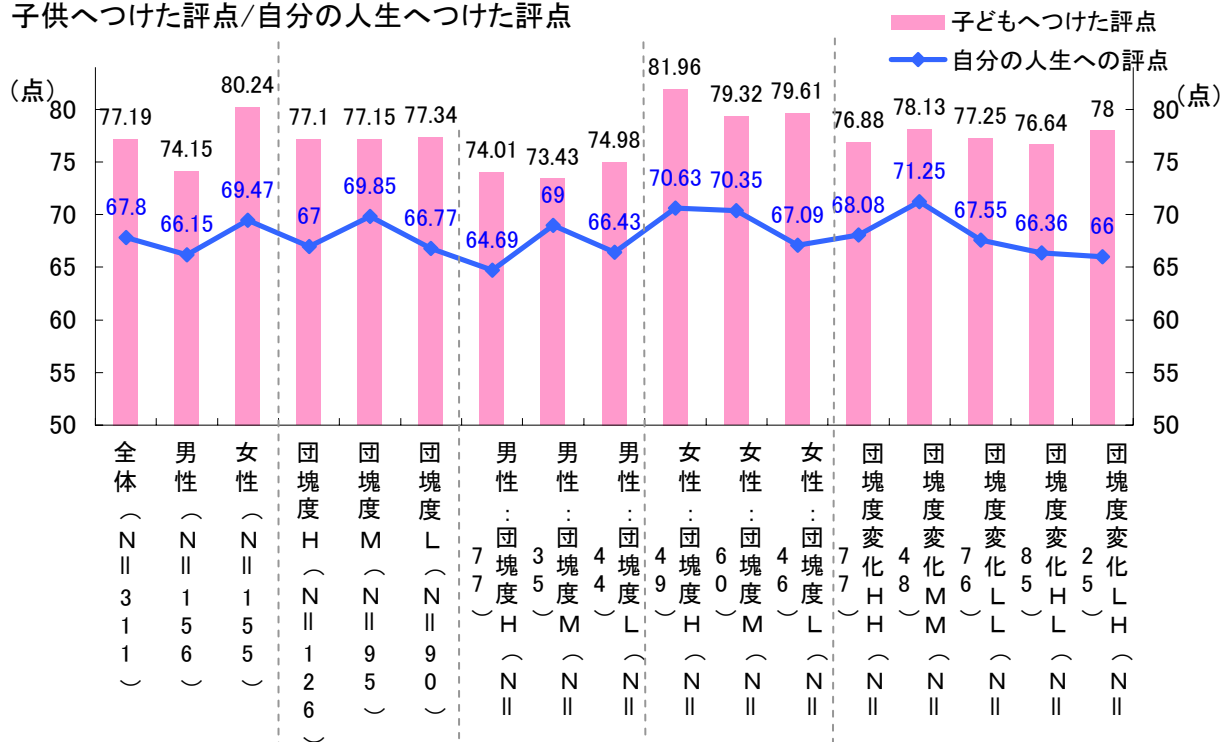
Q15)それでは、子供を育てた親としての自分には何点をあげますか。理想の親を100点として数字でお知らせください。

自分の人生への評点/子を育てた親としての評点



Q13)あなたは、ご自分の子供へは現在のところ、100点満点中何点をあげられますか。

子供へつけた評点/自分の人生へつけた評点

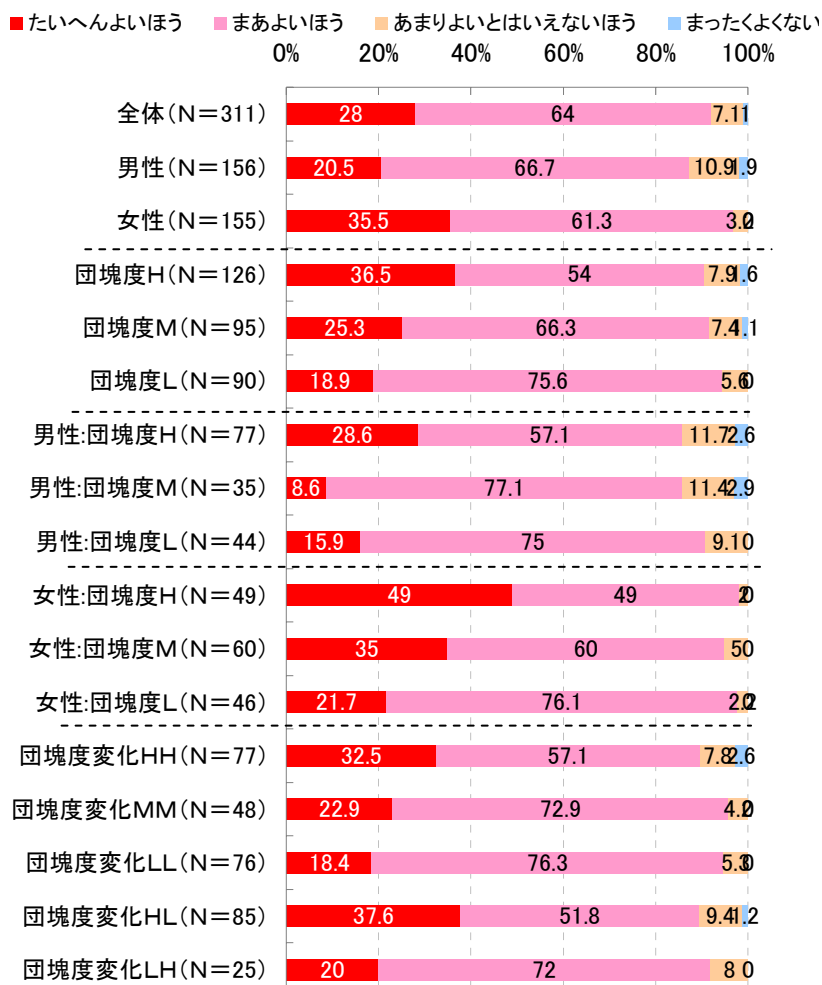


- 全体としては、＜自分の人生への評価＞は68点、＜子を育てた自分の人生への評価＞としても68点。
- ＜自分の人生への評価＞と＜子を育てた自分の人生への評価＞との相関係数は $r=0.96388$ と、非常に高い。
- 男性・女性で比較すると、＜自分の人生への評価＞も＜子を育てた自分の人生への評価＞も女性が高い。
- ＜団塊度＞で見ると、＜団塊度＞Mの人の＜自分の人生への評価＞が高く、男性の＜団塊度＞Mの人も同様に高い。がんばりすぎず、そこそこに角も立てず、子も育て上げたし・・・という点数か。女性が最も含まれるグループである。
- 子供へつけた点数は、自分の人生への評価よりも10ポイント程度高くなっている。子供への評価はどの親でも甘いということだろう。
- ＜子供への評価＞と＜自分の人生への評価＞との相関係数はそれほど高くない。 $R=0.5542$ 。子供は親の力だけではなく、自立して人生をやっている。自分の人生はこの程度であったが、子供はよくやっている、ということか。
- ＜子供への評価＞は男性・女性でみると、女性が高く、特に＜団塊度＞Hの女性が高い結果となっている。

15 子どもとの現在の関係

Q12)あなたと、ご自分の子供との関係はよいほうですか、それともよくないほうですか。複数子供がいる場合は、すべての子供の平均したものを教えてください。

子どもとの現在の関係(SA)

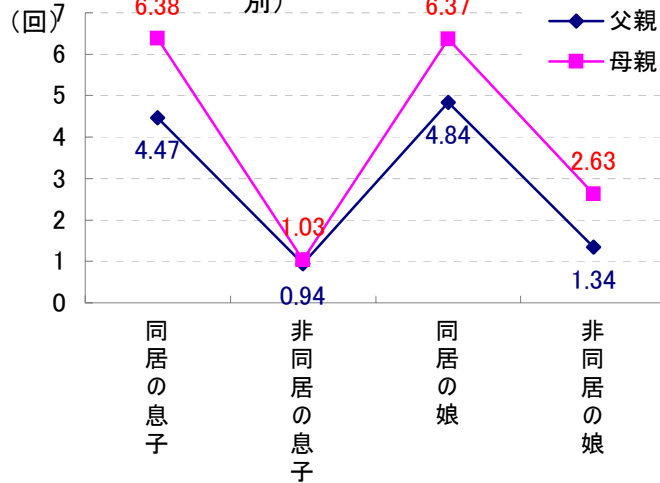


- 全体としては9割の対象者が「よい」としている。
- 男性＝父親と女性＝母親とでは、父親と比べると、母親のほうが「たいへんよい」(36%)としている人が相対的に多い。
- ＜団塊度＞別に見ると、＜団塊度＞H＞M＞Lの順で関係がよいと考えている人が多いといえるだろう。女性の＜団塊度＞Hのグループでそう考えている人が最も多い。＜変化H⇒L＞グループでもそう考えられている。がんばりすぎたことを反省したグループだからか。
- 実際に子供の方もそう思っているかは、団塊Jr調査のほうで確認することが必要だろう。

16 子どもとの会話の頻度

Q17)あなたはご自分の子供とどの程度会話をなさいますか。電話やメール、手紙などでもよく、挨拶程度の軽い会話も含めてください。複数子供がいる場合は、総合的に判断してお答え下さい。

子どもとの会話の頻度：週平均回数(父母別)

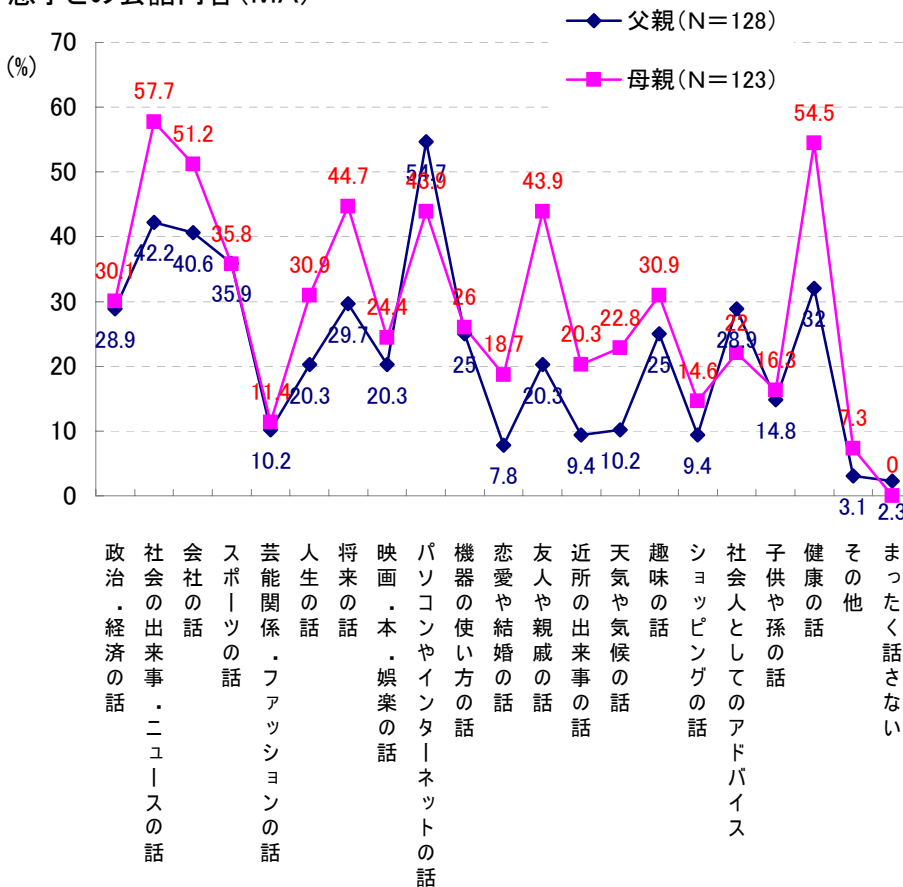


- 子供との会話の頻度は、全体として母親の方が父親より多く、息子より娘の方が多。しかし、母親といえども非同居の息子とは頻度は父親同様かなり少なくなる。
- <団塊度> 別には大きな違いはない。

17 子供との会話内容

Q19)「息子との会話」でよく話される内容を全てお知らせください。※息子が複数いる場合は、総合的に判断してお答え下さい。

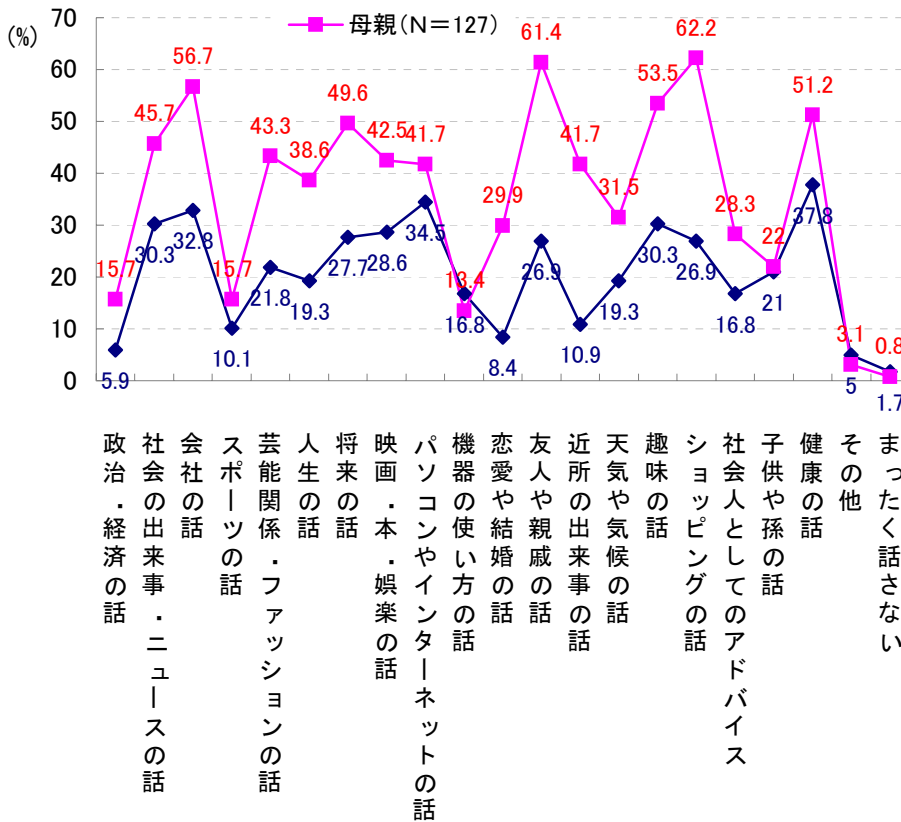
息子との会話内容(MA)



- 父と息子の会話内容は、「パソコンやインターネットの話」が最も多く、「社会の出来事」「会社の話」「スポーツ」などが次いでいる。
- 母と息子の会話内容は父親より幅広い。「社会の出来事」「健康の話」「会社の話」から「将来の話」「パソコン・インターネット」「友人・親戚」などが続く。

Q20)「娘との会話」で、よく話される内容を全てお知らせください。※娘が複数いる場合は、総合的に判断してお答え下さい。

娘との会話内容(MA) ◆ 父親(N=119)



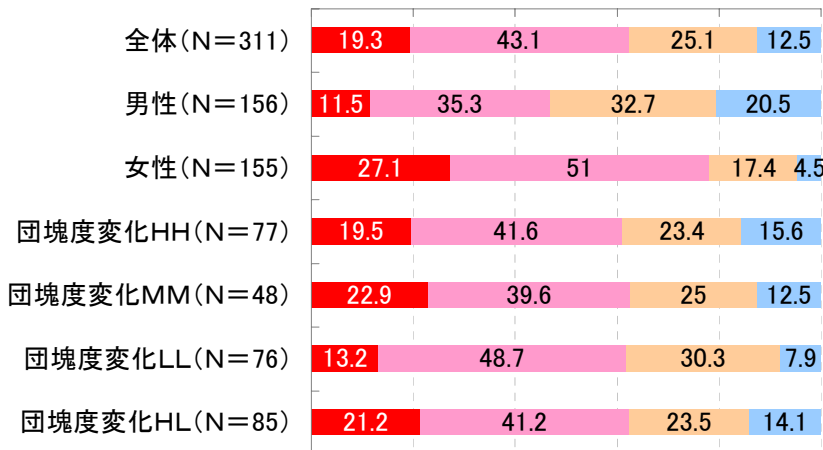
●父と娘の会話内容は、「健康の話」「パソコン・インターネット」「会社の話」「社会の出来事」などのほか、息子としない話題では「ショッピングの話」「映画・本・娯楽の話」「芸能・ファッション」も含まれる。
●母と娘の会話内容は幅広く、「ショッピングの話」「友人・親戚の話」「会社の話」「趣味の話」「将来の話」と続く。「スポーツ」「政治経済」「機器の使い方」を除くとあらゆる話が含まれている。

18 メールやインターネットによる子どもとのコミュニケーションの変化

Q20)携帯電話や携帯メールを含むメールやインターネットによって、子供とのコミュニケーションは、どの程度増えたでしょうか。

メールやインターネットによる子どもとのコミュニケーションの変化(SA)

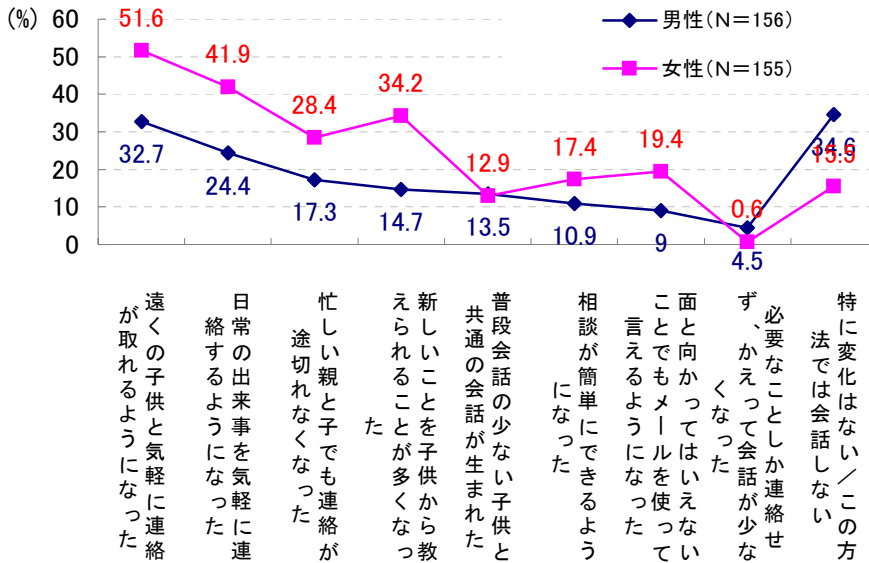
■ たいへん増えた ■ やや増えた ■ あまり増えていない ■ まったく増えていない



●メールやインターネットが親子のコミュニケーション増にどの程度貢献しているのか。
●全体として、6割の人が増加したとしている。とくに女性では8割近くが増加したとしている。「たいへん増えた」という女性は27%に上る。
●それに対し、男性では増加と増えていないとでは、およそ半々であって、「まったく増えていない」という人も21%いる。減少したということではないので、いずれにしろトータルでは増加したことになる。

Q21)携帯電話や携帯メールを含むメールやインターネットは親子の会話にどのような変化をもたらしたでしょうか。

子どもとの会話へもたらした変化(男女別)(MA)

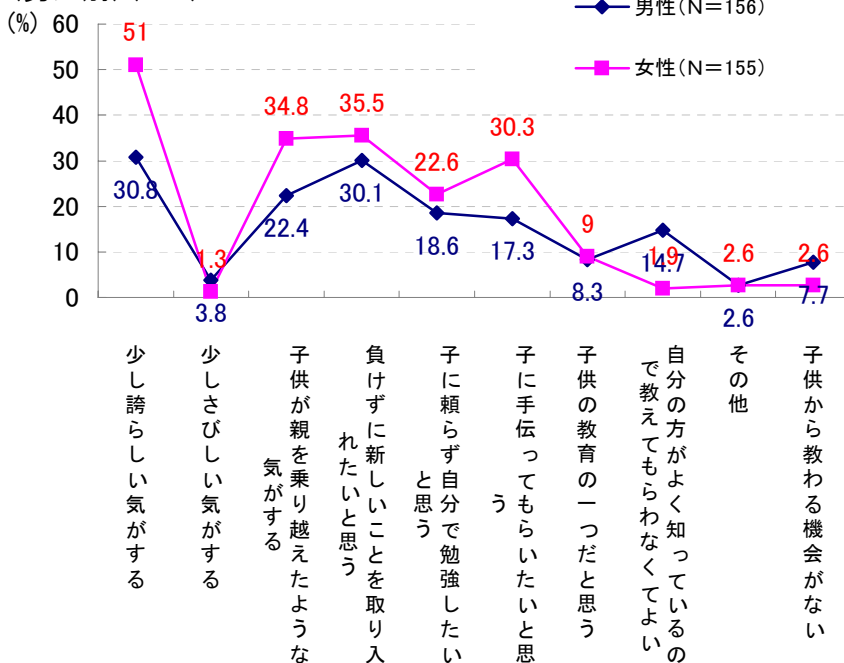


●男性と女性との程度の差こそあれ、「遠くの子供と気軽に連絡が取れるようになった」女性52%、男性33%。「日常の出来事を気軽に連絡するようになった」同42%、24%。「新しいことを子供から教えられることが多くなった」同34%、15%。「忙しい親子でも連絡が途切れなくなった」同28%、17%。
●男性は、「特に変化はない」が35%もいるが、女性では気軽・こまめに連絡を取る手段となっていることがうかがえる。

19 子どもから新しい技術を教えてもらうことについての意見

Q22)あなたは、新しい技術を子供から教えてもらうことについて、どのようなご意見をお持ちですか

子どもから新しい技術を教えてもらうことについて(男女別)(MA)



●親子の会話内容でも「パソコン・インターネット」に関して話題になることは多かった。さらに「新しいことを教えられることが多くなった」という変化もあった。新しい技術を子供に教えられることについて親はどう思っているだろうか。
●母親は「少し誇らしい気がする」「子供が親を乗り越えた気がする」「負けずに新しいことを取り入れたい」と一様に歓迎する意見だ。
●父親はさすがに少し、意地があるのか、「誇らしい気がする」も母親ほどではなく、「子が親を乗り越えた気がする」にも母親より少ない。「自分の方がよく知っているのので教えてもらわなくてもよい」(15%)という意見もあり、負けたくないということかもしれない。

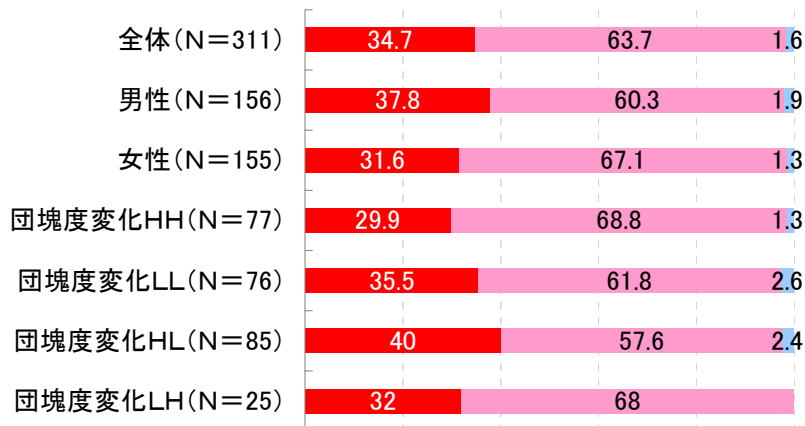
■パソコン・インターネットが親子関係に果たしている役割は、会話頻度の増加にとどまらず、親子関係に新しい秩序を生みつつあり、子が親を乗り越える一種の現代版通過儀礼ともいえるかもしれない。

20 結婚した子どもの支援への考え方

Q24)これからの親子関係についておたずねします。結婚した子供への支援はどの程度すべきだと思われますか。※既に子供が結婚している場合は、あなたの現在の状況ではなく、理想をお答え下さい。

結婚した子どもの支援への考え方(SA)

- 結婚したら親は支援しない方がよい
- 結婚しても支援が必要なときは支援した方がよい
- 結婚しても親は積極的に支援した方がよい

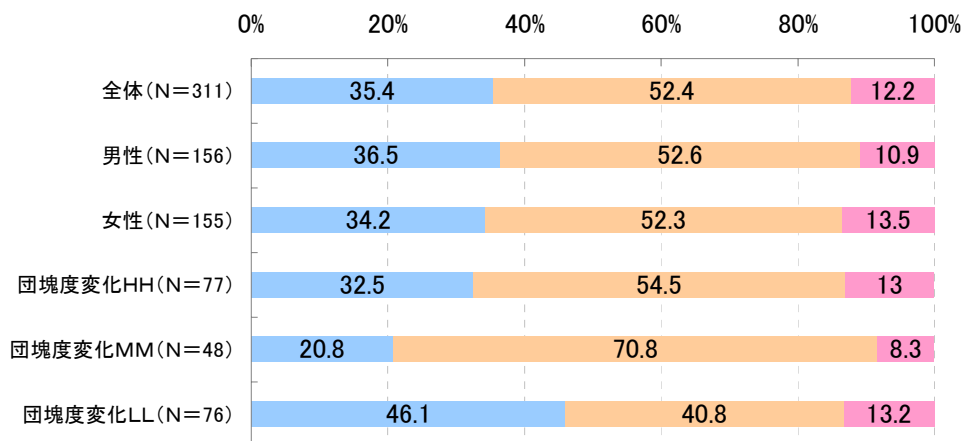


● 団塊世代は子供の世話になりたくないし、支援にも積極的ではないとよく指摘される。「支援しない方がよい」という人が35%というのはい多いのか少ないのか。しかし「支援が必要なときは支援した方がいい」という人が大勢を占めている。原則は「支援しない」ということなのだが、柔軟な対処を考えているということだろう。

21 孫の世話への考え方

孫の世話への考え方(SA)

- 基本的に断わる
- 条件付で世話を引き受ける
- 無条件で世話を引き受ける



● 孫の世話を共働きの子供に頼まれたら引き受けるかどうか。

● 基本的に断るという率は、結婚したら親は子へ支援しない方がよい、だとほぼ同率だ。しかし、無条件で引き受ける率も含めて、条件付で引き受けるという人が65%。やはりここは孫をきっかけとした、親子のいい三角関係が生まれるだろう。

B. 団塊ジュニア世代の 価値観調査結果

1 団塊ジュニア世代の価値観とは

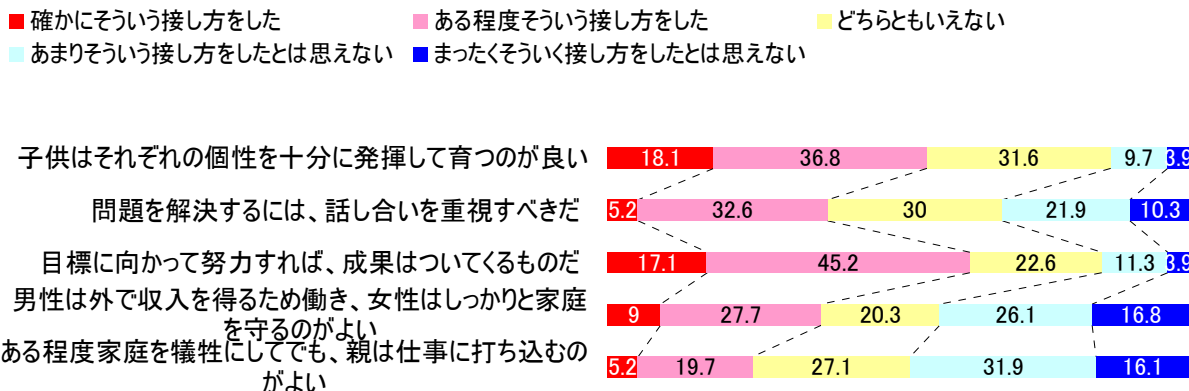
●団塊ジュニアは、団塊世代からよきにつけ悪しきにつけ父母として影響を受け、団塊世代の価値観に基づく教育を受けて育った世代である。いわば団塊的接し方が子世代の仕事観、結婚観、自分観などの価値観形成に影響を与えたはずである。もちろん、親の影響だけで子の価値観が形成されるわけではないが、子の価値観と親の価値観は相応の関連があるはずである。団塊ジュニア世代調査は団塊世代調査と共通質問フレームをもって、団塊ジュニアの価値観に光をあてるものである。

●そのために団塊世代調査で定義した〈団塊度〉と同様に、5つの〈団塊的価値観〉に関して、自分が中学生だった頃、親がその5つの価値観でどの程度自分に接したか、いわば団塊的接し方の程度をたずねた。団塊世代である親には、子供が中学生だった頃の〈団塊的価値観〉への賛成程度をたずねたのと、ワンセットで、子へは「確かにそういう接し方をした」「ある程度そういう接し方をした」「あまりそういう接し方をしたとは思えない」「まったくそういう接し方をしたとは思えない」「どちらともいえない」の5ポイントスケールで回答してもらい、それぞれ5点から1点までの得点をあたえ、5変数の合計によって、〈団塊的接し方度〉を計算した。ただし親の場合と違って、子には父母それぞれがいるので、父、母それぞれについて〈団塊的接し方〉を聞き、その合計によって5つのパターンを構成し、その5パターンを主要な分析ツールとした。

2 団塊的接し方

Q1)あなたが中学生だった頃、あなたの父親はあなたにどのような考え方で接しましたか。以下の1-5の考え方についてそれぞれあてはまるものをお答え下さい。

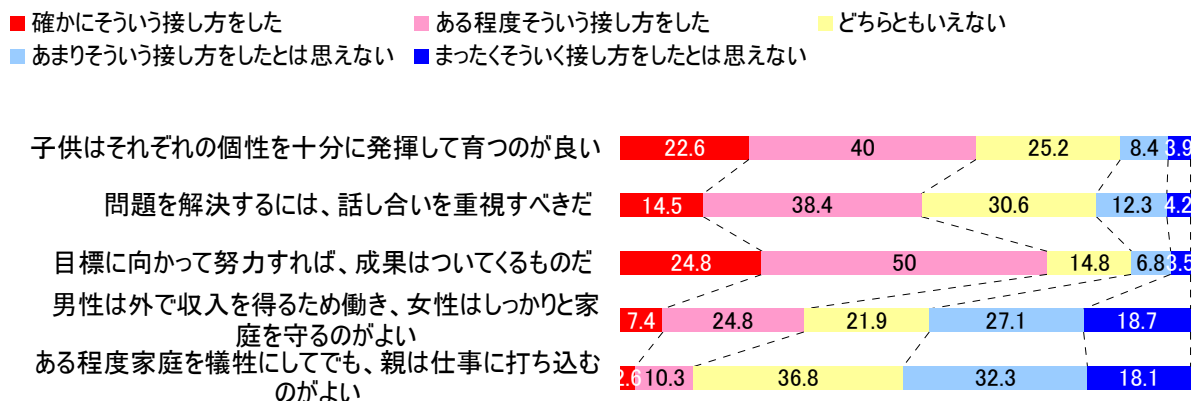
父親の団塊的接し方(全体N=310)



- <個性志向>に関しては、全体では、55%がそういう接し方をされたと回答している。
- <話し合い解決志向>に関しては、全体では38%。
- <目標達成志向>に関して、全体では、6割程度がそういう接し方をしたと受け止めている。
- <性役割分業意識>に関して、全体では、「男性は外で収入を得るために働き、女性はしっかりと家庭を守るのがよい」との考え方で接したという人は37%、そういう考え方で接したとは思えないという人は43%。女性の方がそう接しなかった割合は高い。
- <仕事優先意識>に関して、「ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい」という接し方は25%。

Q2)あなたが中学生だった頃、あなたの母親はあなたにどのような考え方で接しましたか。

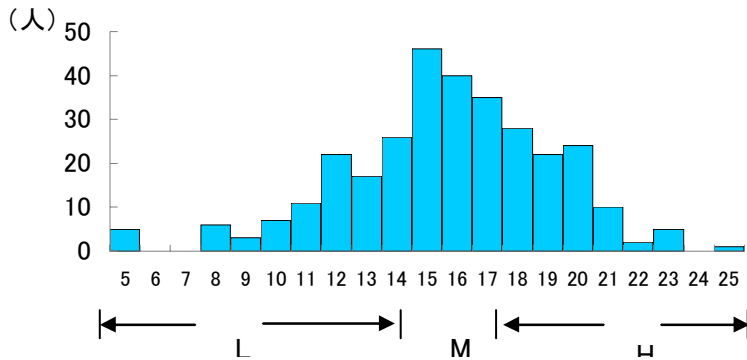
母親の団塊的接し方(全体N=310)



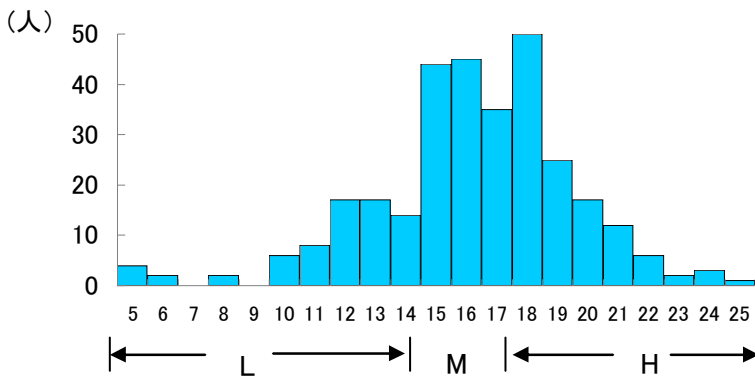
- <個性志向>に関しては、全体では、63%がそういう接し方をされた。父親よりも18%も多い。
- <話し合い解決志向>に関しては、全体で53%。父親からより15%多い。
- <目標達成志向>に関して、全体では、75%程度が「目標のために努力すれば、成果はついてくるものだ」という接し方をしたと受け止めている。父親よりも多い。
- <性役割分業意識>に関して、全体では、「男性は外で収入を得るために働き、女性はしっかりと家庭を守るのがよい」との考え方で接したという人は32%、そういう考え方で接したとは思えないという人は46%。
- <仕事優先意識>に関して、「ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい」という接し方は13%。父親からより12%も少ない。

3 団塊的接し方の5パターン

父親団塊的接し方ヒストグラム



母親団塊的接し方ヒストグラム



- 父親、母親ともに5-14点をLOW。15-17点をMIDDLE。18点-25点をHIGHと分類した。
- 団塊世代分析と同様に、団塊Jrも父母からの〈団塊的接し方〉に基づいて5類型を作った。
- 〈父母とも団塊的接し方H〉な子供はおそらく〈団塊度〉もHだろう。〈父母とも団塊的接し方M〉な子供は〈団塊度〉もMだろう。〈父母とも団塊的接し方L〉な子供は〈団塊度〉はLだろう。

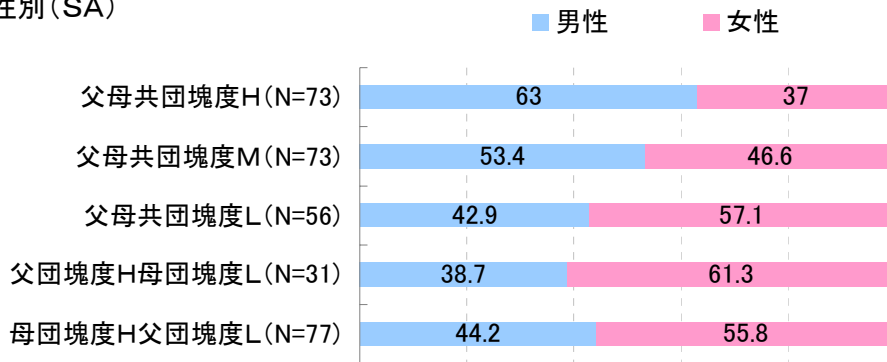
度数
クロス%
全体構成比%

		母親		
		H (N=116)	M (N=124)	L (N=70)
父親	H (N=92)	73 79.3% 23.5%	17 18.5% 5.5%	2 2.2% 0.6%
	M (N=121)	36 29.8% 11.6%	73 60.3% 23.5%	12 9.9% 3.9%
	L (N=97)	7 7.2% 2.3%	34 35.1% 11.0%	56 57.7% 18.1%

- この5類型の構成比は、〈父母とも団塊的接し方H〉は24%で〈父母共団塊度H〉と呼ぶ。〈父母とも団塊的接し方M〉は24%で〈父母共団塊度M〉と呼ぶ。〈父母とも団塊的接し方L〉は18%で〈父母共団塊度L〉と呼ぶ。〈父団塊的接し方H・母L〉は10%で〈父団塊度H母団塊度L〉と呼ぶ。〈父団塊的接し方L・母H〉は25%で〈母団塊度H父団塊度L〉と呼ぶ。

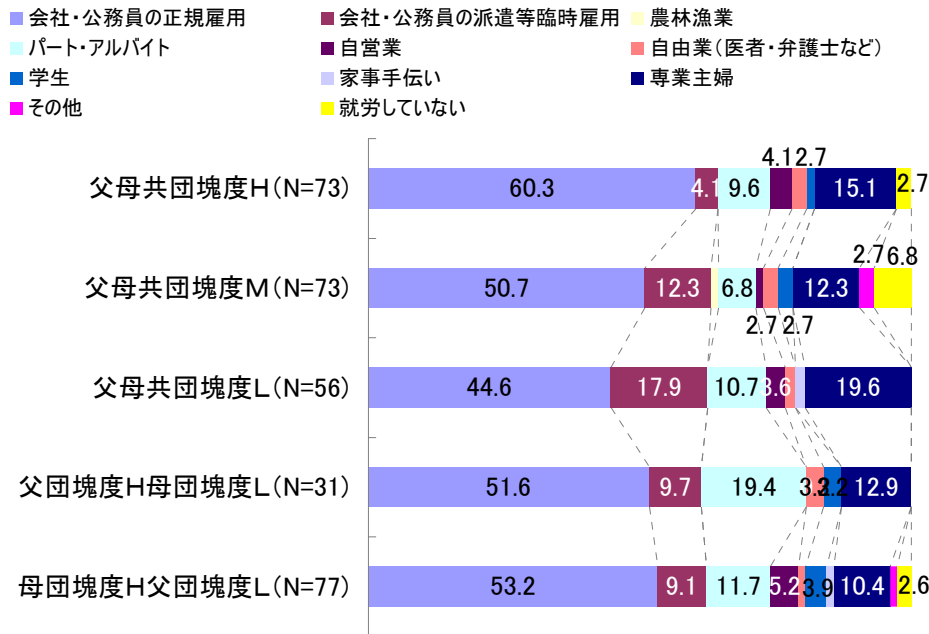
4 団塊的接し方別対象者プロフィール

性別 (SA)



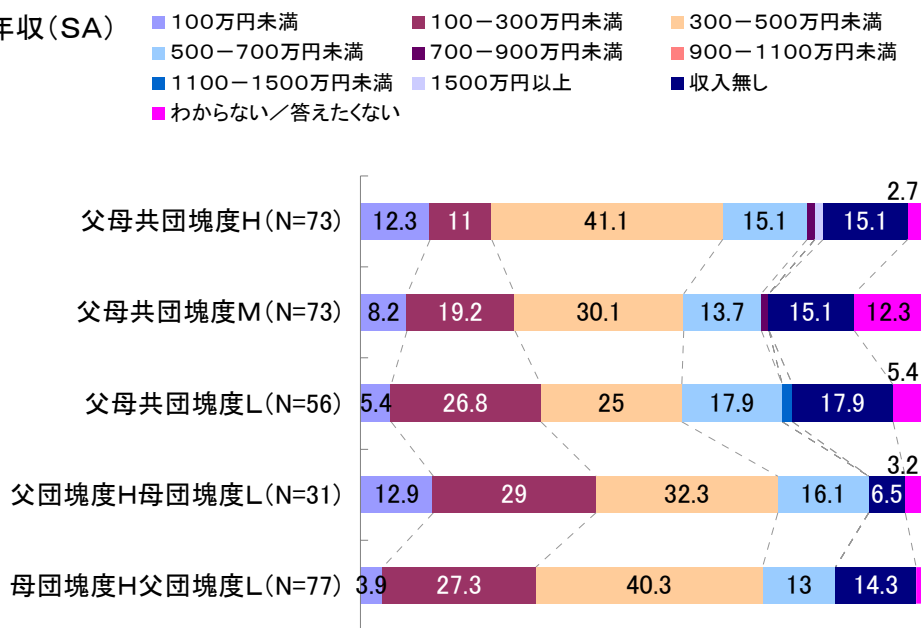
●<父母共団塊度H>グループと<父母共団塊度M>には男性が多く含まれ、その他のグループには女性の方が多い。

職業 (SA)



●正規雇用者は<父母共団塊度H>>><父母共団塊度M>>><父母共団塊度L>の順で少なくなり、逆に派遣・臨時雇用はこの逆に多くなる。パート・アルバイトは<父団塊度H・母団塊度L>だったグループに多い。

年収 (SA)



●100—300万円は<父母共団塊度L>>><父母共団塊度M>>><父母共団塊度H>という順。女性が最も多い<父団塊度H・母団塊度L>で最も多い29%。

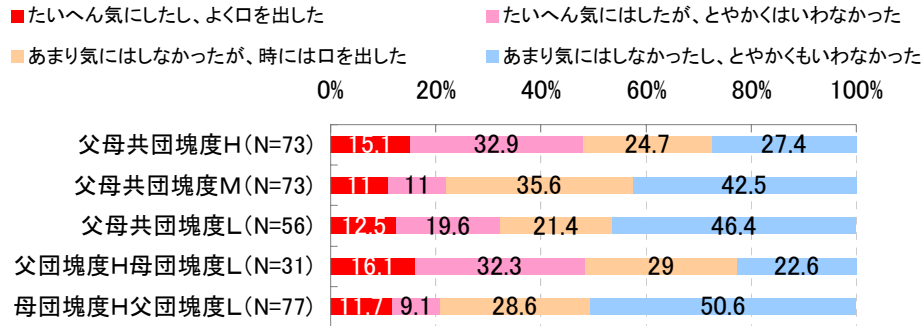
●300—500万円は<父母共団塊度H>>><父母共団塊度M>>><父母共団塊度L>の順。

●収入なしは、専業主婦とニートが含まれる。

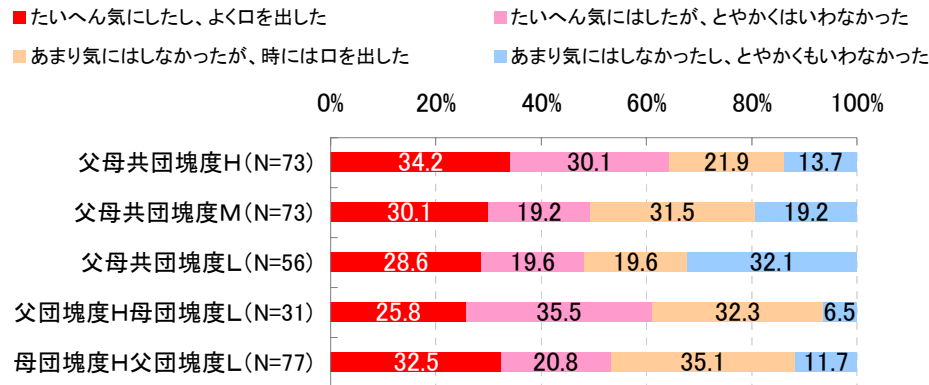
5 両親の点数や成績を気にした程度

Q3)あなたの進学のために両親は点数や成績をどの程度気になさいましたか。
父親と母親それぞれについてあてはまるものをお答え下さい。

両親の点数や成績を気にする度合：父親について(SA)



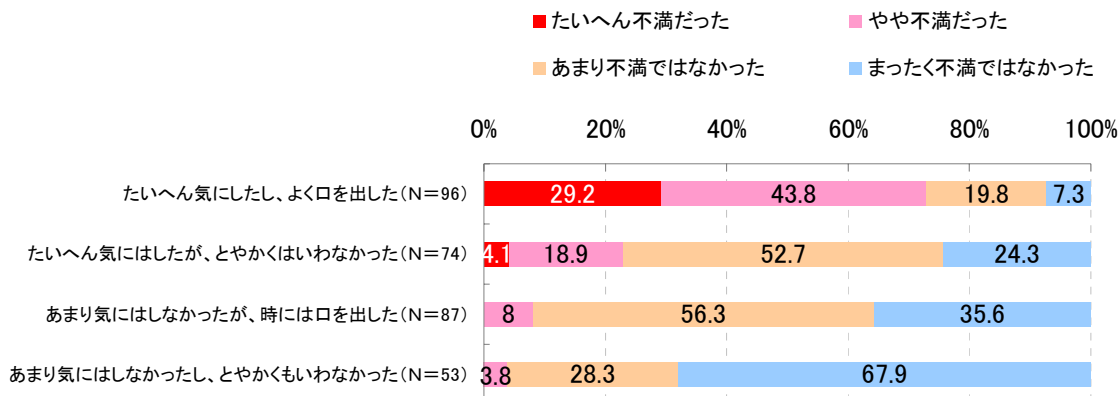
両親の点数や成績を気にする度合：母親について(SA)



●父親が点数や成績を「たいへん気にしたし、よく口を出した」という対象者は13%程度だ。「あまり気にしなかったし、とやかくもいわなかった」という人は40%もいる。
●「あまり気にはしなかったし、とやかくもいわなかった」という父親だった、という人は<団塊的接し方>L>M>H、の順。<団塊的接し方>が低い父親でおおい。
●親の態度に対する不満は、「口を出した親」に対する不満が大きいのはあきらかだ。

- 母親の方が、父親よりあきらかに点数や成績を「気にし、口を出して」いた。
- 口を出す母親への不満も、父親同様に高かった。
- 団塊の母親はそれほど「口に出した」つもりはなかったということだが、子供の方は「よく口に出した」と受け止めている。

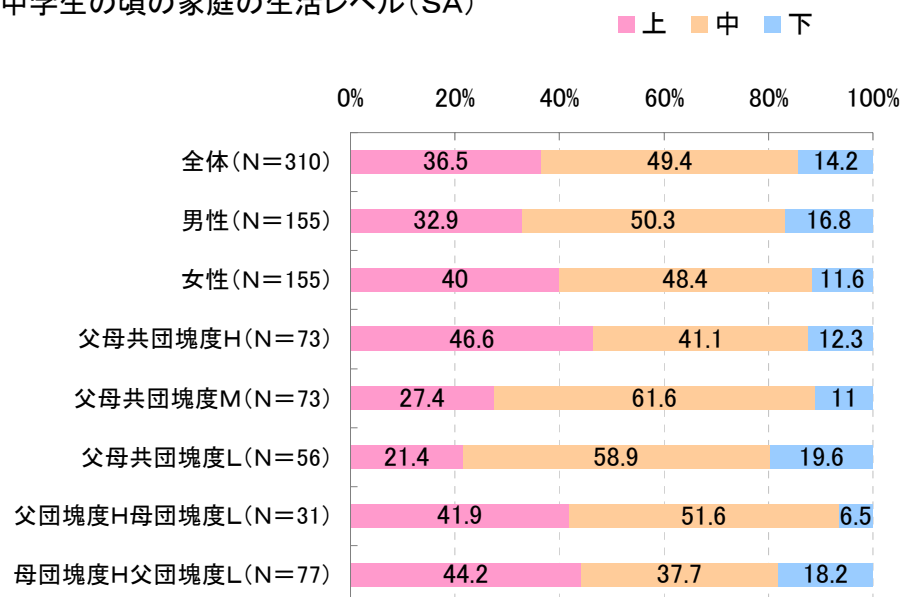
点数や成績の親の態度への不満度：母親について(SA)



6 中学生の頃の家庭の生活レベル

Q5)あなたが中学生だった頃、まわりと比べてあなたの家庭の生活レベルはどの程度でしたか。

中学生の頃の家庭の生活レベル(SA)

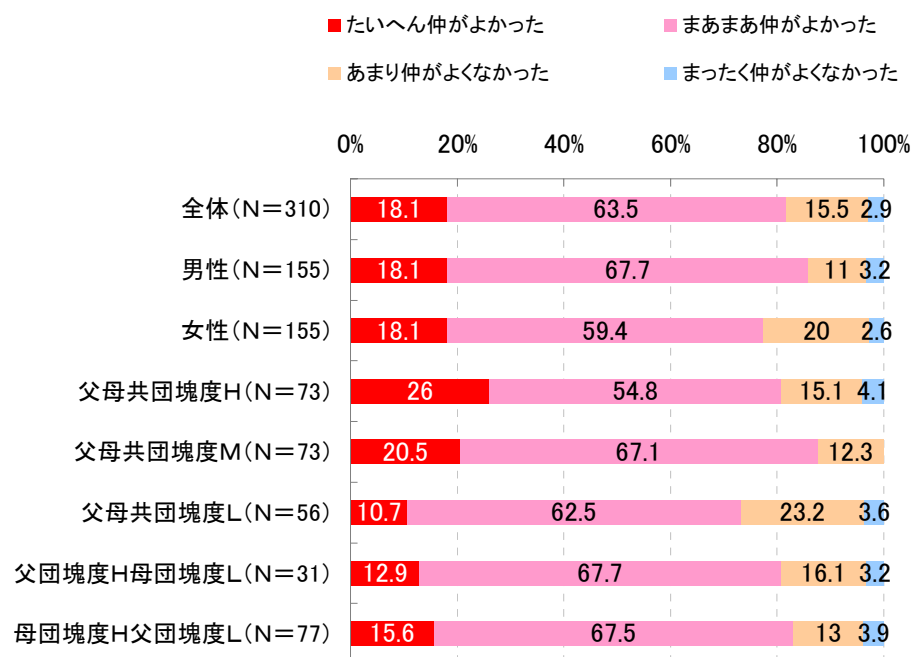


●「上」37%、「中」49%、「下」14%、と意識の上で、「上」の割合がたいへん高い。
 ●<団塊的接し方>別ではH>M>Lの順。
 ●生活レベル意識は、団塊世代と団塊Jrとではそれほど大きな意識の差が見られない。家財は普及し、中流をエンジョイしていた家族は、ほぼ共通の世帯生活レベル意識を持っていた。

7 中学生の頃の両親の仲

Q6)あなたが中学生だった頃、両親は仲がよかったですか。

中学生の頃の両親の仲(SA)

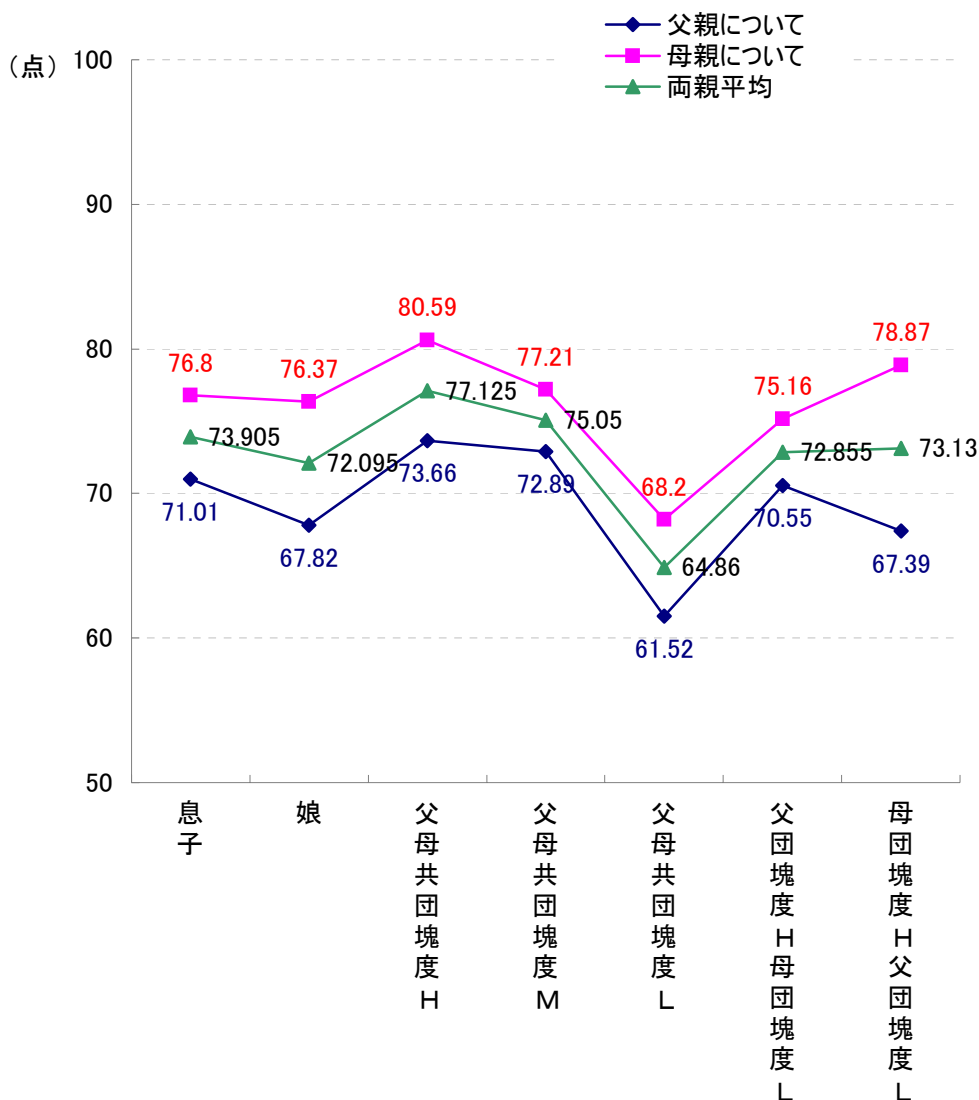


●子供たちは両親の仲を、「まあまあよかったです」としている。両親自身はそのころ、「たいへん仲がよかった」としている。小さな夫婦喧嘩でも子供たちには大きな喧嘩とも映ただろうし、現在の夫婦はその頃のことは美化・浄化されてしまっている可能性もある。
 ●ここでのポイントは親の<団塊度>のレベル別にも子の<団塊的接し方>でもH>M>Lの順で親の仲がよくなかったということだ。

8 中学生当時の両親への評点

Q7)FAあなたが中学生の頃の両親に、点数をつけるとすると、何点になりますか。
理想の両親を100点として、父・母それぞれに数字で点数を記入してください。

中学生当時の両親への評点(平均点)



●母親への評点は父親へ比べておよそ7~8点ほど高い。息子も娘も同様である。

●<団塊的接し方>についてみると、<父母とも団塊的接し方H>グループが最も高く、77点、ついで<父母とも団塊的接し方M>75点、<父団塊的接し方L・母H>が73点、<父団塊的接し方H・母L>73点、最も低い評価だったのは<父母とも団塊的接し方L>の65点である。

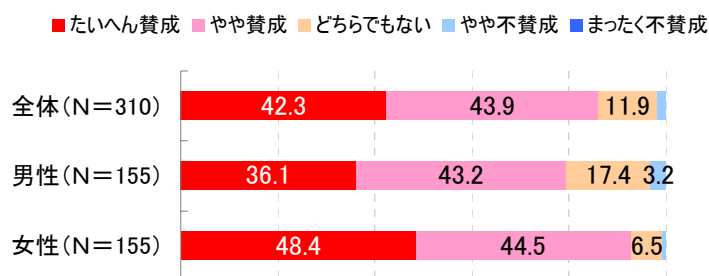
●<団塊的接し方>をされた子供たちのほうが、そうでない子供よりも高い評価を両親に与えていたということだ。

●<団塊的接し方>とは<団塊度>の指標の5変数であるから、<団塊度>が高かった両親の方が、そうでなかった両親より、子供たちにとってはよい両親だったといえる。

9 現在の団塊的生き方への意見

Q8) 現在、あなたは次の1-5の意見について、どの程度賛成あるいは反対ですか。

子どもの個性(SA)



● 団塊Jr.の「性役割分業意識」はたいへん薄い。不賛成トータルで4割以上もある。

● 「目標達成志向」は賛成トータルで7割あり、十分高い。団塊Jr.のフリーターやニートの側面だけを見てはいけないうらう。

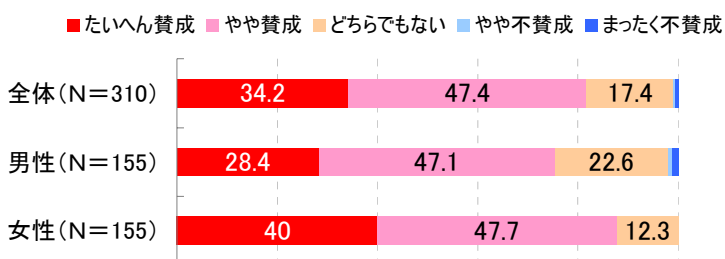
● 「個性化志向」は85%以上あり、ほぼ常識の世界と考えられる。特に女性は9割を越えている。

● 「民主的解決志向」もほぼ常識の考え方だ。8割以上である。

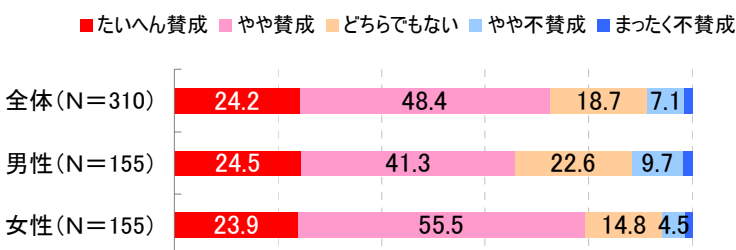
● 「仕事優先意識」は希薄だ。というより、「ある程度家庭を犠牲にしても、親は仕事に打ち込むのがよい」ということはまったくない、と考えてよいらう。特に女性は7割が反対である。

■ あとで団塊世代の現在の価値観とを比較して、団塊ジュニア世代は何を引き継ぎ、何を引き継がなかったのかを検討するが、団塊世代の価値観とよく似た価値観の部分もたくさんあることを指摘しておきたい。

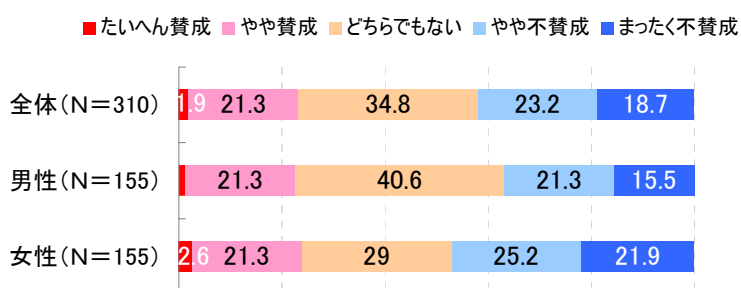
問題解決には話し合い(SA)



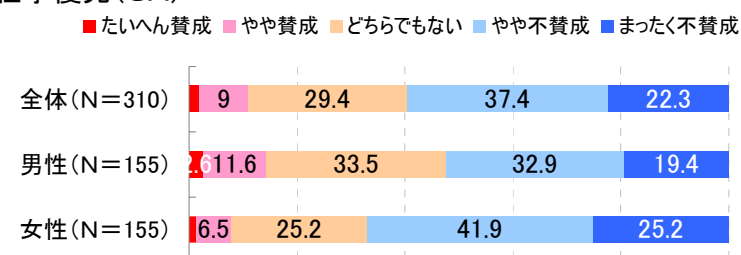
目標達成には努力(SA)



男性は収入を得るために働き、女性は家庭を守る(SA)



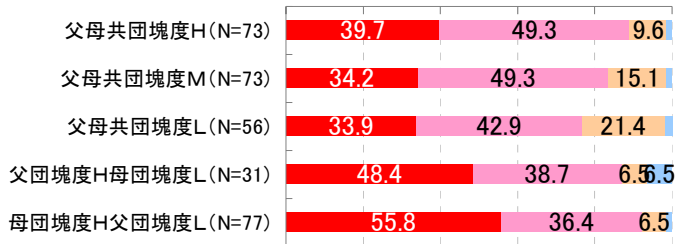
仕事優先(SA)



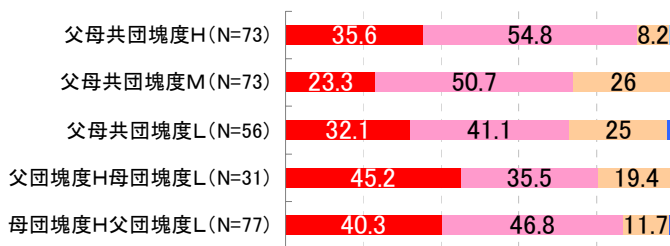
10 現在の団塊的生き方への意見(団塊接し方別)

子どもの個性(SA)

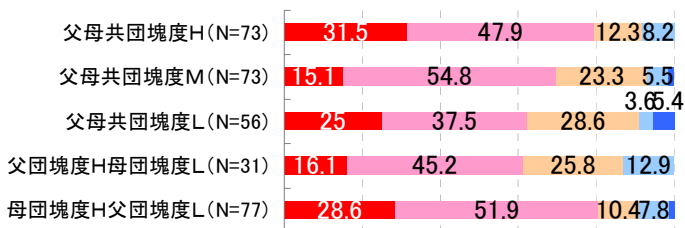
■たいへん賛成 ■やや賛成 ■どちらでもない ■やや不賛成 ■まったく不賛成
0% 20% 40% 60% 80% 100%



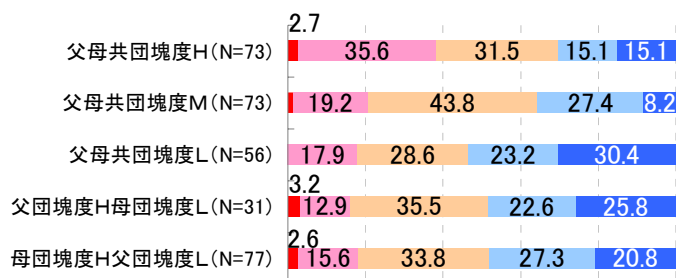
問題解決には話し合い(SA)



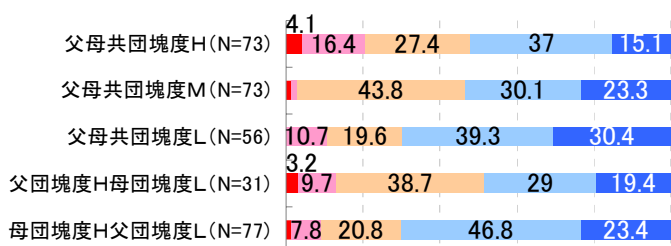
目標達成には努力(SA)



男性は収入を得るために働き、女性は家庭を守る(SA)



仕事優先(SA)



●どのようなく団塊的接し方>をされてきたか。そのような接し方をされた子供たちは、今どのように考えているか。<団塊的接し方>別に見よう。

●<父母とも団塊的接し方H>の子達は、現在も<団塊度>が高い考え方をしている。一方<父母とも団塊的接し方L>で育った子供達はやはり、<団塊度>は相対的に低い。

●<父母とも団塊的接し方L>の子達は最も<性役割分業意識>が低く、<仕事優先意識>も同様に最も低い。

●<子供の個性志向>は母親の<団塊度>が高かった子供において、個性志向がより高く、<話し合い志向>は父親の<団塊度>が高かった子供において、より多い。

●<目標達成志向>の強い子供が多いのは、父母とも<団塊度>が高い親の子である。

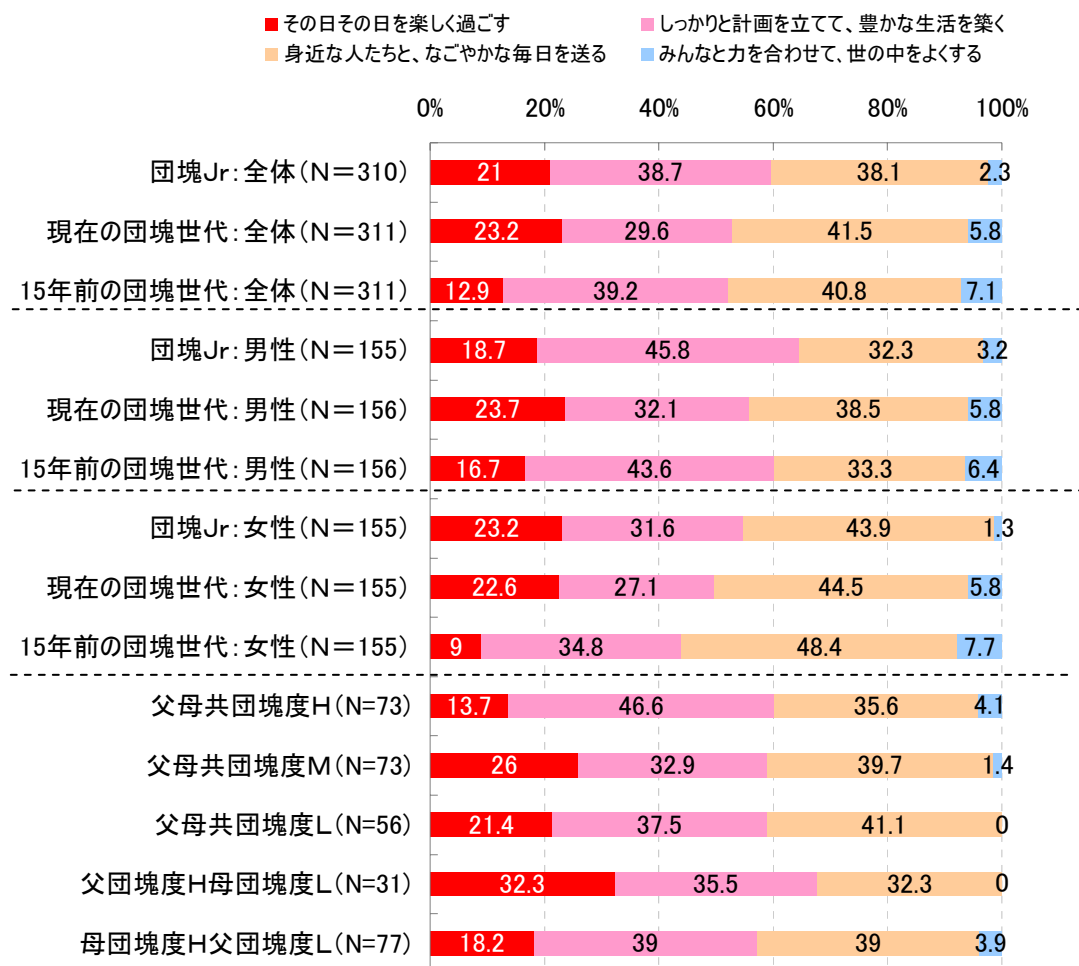
●<仕事優先志向>の低い子供は、<団塊度>の低い父母の子供または、母親の<団塊度>が高く、父親の<団塊度>が低い子供である。

11 生活目標の世代間比較

Q9)あなたの現在の生活目標に最も近い項目を1つお知らせください

この項目も団魂世代に質問しているので、比較を試みよう。

生活目標の世代間比較(SA)



●全体として主流の考え方は、団魂Jr.では「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」(39%)もしくは「身近な人たちとなごやかな毎を送る」(38%)である。団魂世代では、15年前と比べて「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」が10ポイント減少し、「その日その日を楽しく過ごす」が10ポイント増加する。これは年代的に子育てを完了し、安心しているからだろう。15年前の団魂世代といまの団魂Jr.を比較すると、時代背景やライフステージが違うので、理由は明確ではないが、<正>志向が5ポイント減少し、「その日その日を楽しく過ごす」<快>志向が8ポイント増加している。<利>志向には差がないので、確かに<快>志向に団魂Jr.の特徴がある。

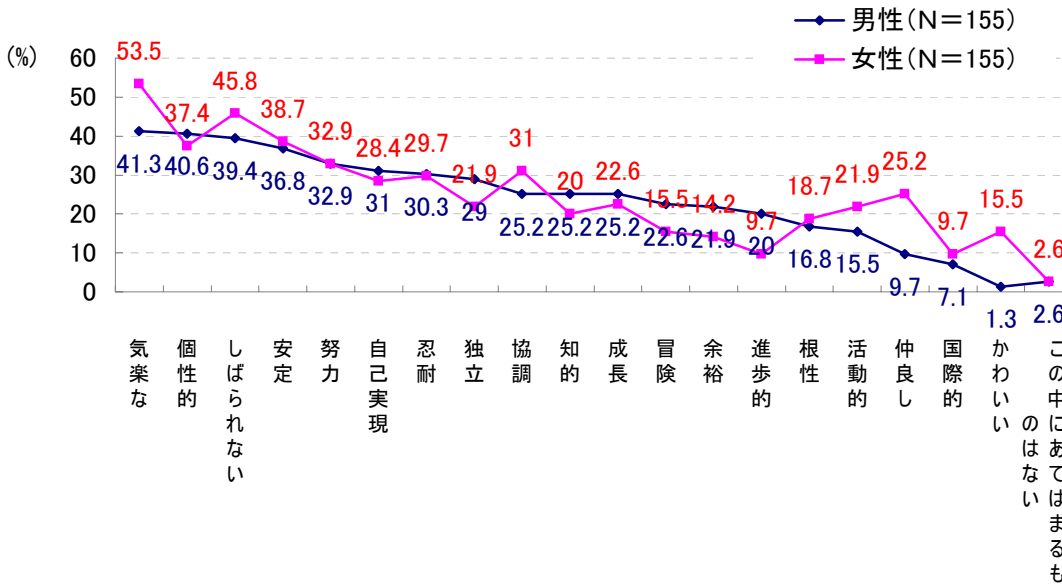
●性別に見ると、15年前の男性団魂と今の男性団魂Jr.とでは大きな違いがない。つまり、<利>志向がともに最も大きく、<愛>志向は相対的に少ない。その構成比も同じぐらいだ。不易の部分ではないか。一方女性を見ると、15年前と比べると<快>志向が14ポイントも増加する反面、<愛>志向(-4ポイント)、<利>志向(-3ポイント)<正>志向(-6ポイント)と減少している。女性の生活目標が大きく変わってきたといえるのではないか。

●<団魂的接し方>別に見ると、<父母とも団魂的接し方H>の子供たちは、「しっかりと計画を立てて、豊かな生活を築く」=<利>志向の割合が最も高く、<父母とも団魂的接し方L>の子供たちは「身近な人たちとなごやかな毎を送る」=<愛>志向が最も高い。<父母とも団魂的接し方M>の子供たちは<快>志向が相対的に最も高い。

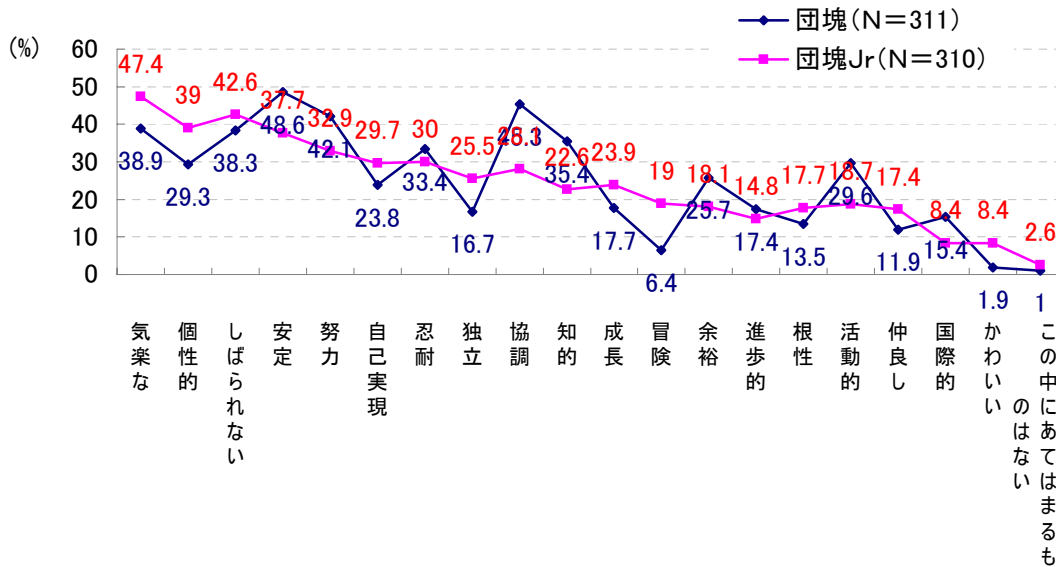
12 生き方を表現している言葉

Q10)自分の生き方を、少しでも表現していると思う言葉をすべてお知らせください。

生き方を表現している言葉(団塊Jr.の男女別)(MA)



生き方を表現している言葉(団塊・団塊Jr別)(MA)

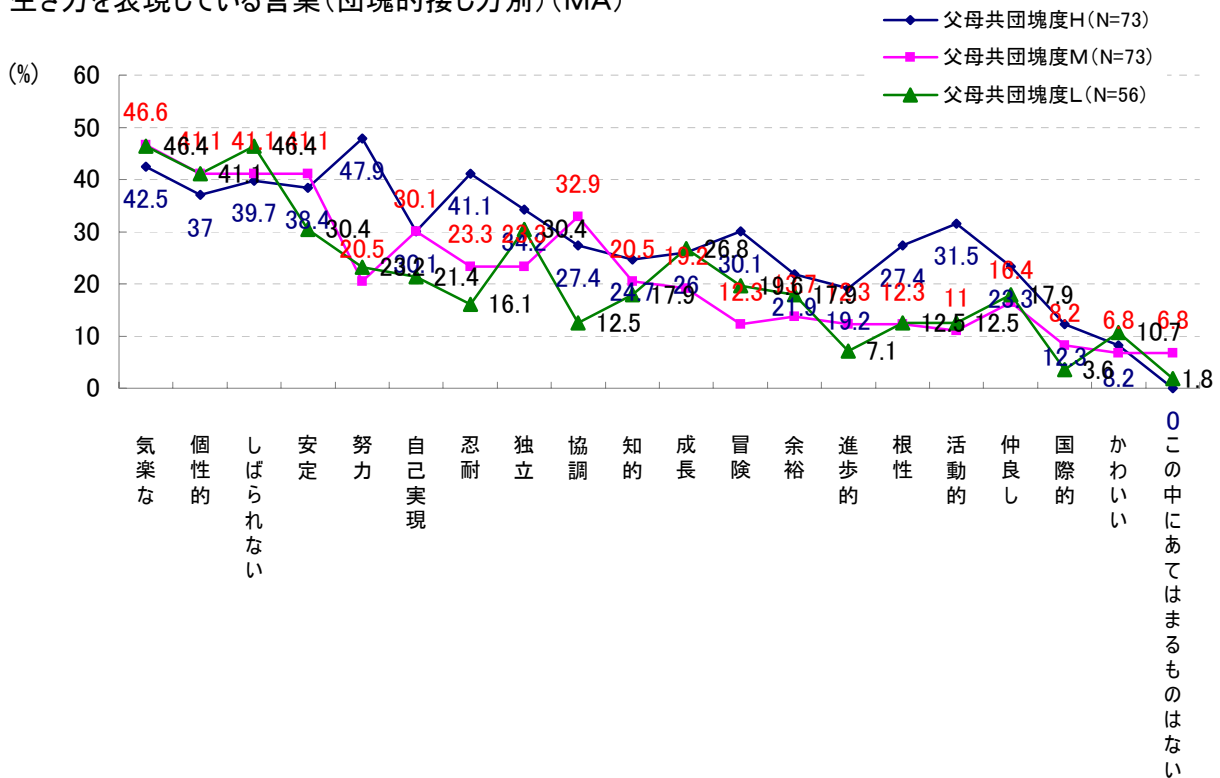


- 団塊Jr.男性のトップ7は「気楽な」「個性的」「しばられない」「安定」「努力」「自己実現」「忍耐」
 - 団塊Jr.女性のトップ7は「気楽な」「しばられない」「安定」「個性的」「努力」「協調」「忍耐」
- 男性と女性とでは順位は多少異なっているが、「気楽な」「しばられない」「安定」などの力を抜いた言葉が多くあげられている。自己実現・独立・成長・冒険などの力技の言葉は、どちらかといえば下位にあげられている。女性では特に「気楽な」「しばられない」が男性と比べても多くあげられている。

- 団塊Jr.と団塊世代とを比較すると、言葉の選択の違いが見られる。
- 団塊世代では「安定」「協調」「努力」「気楽な」「しばられない」「知的」「忍耐」がトップ7である。団塊世代が団塊Jr.と比べて、差が大きいのは「協調」「知的」「努力」「余裕」といったところだ。おそらく年代差だろう。団塊Jr.のほうが多いのは、「気楽な」「しばられない」「独立」「冒険」「自己実現」といった言葉だ。

13 生き方を表現している言葉－父母の〈団塊度〉別

生き方を表現している言葉(団塊的接し方別)(MA)



●〈父母とも団塊的接し方H〉だったグループでは、「努力」「忍耐」「冒険」「活動的」「根性」などの言葉が他のグループよりも多い。

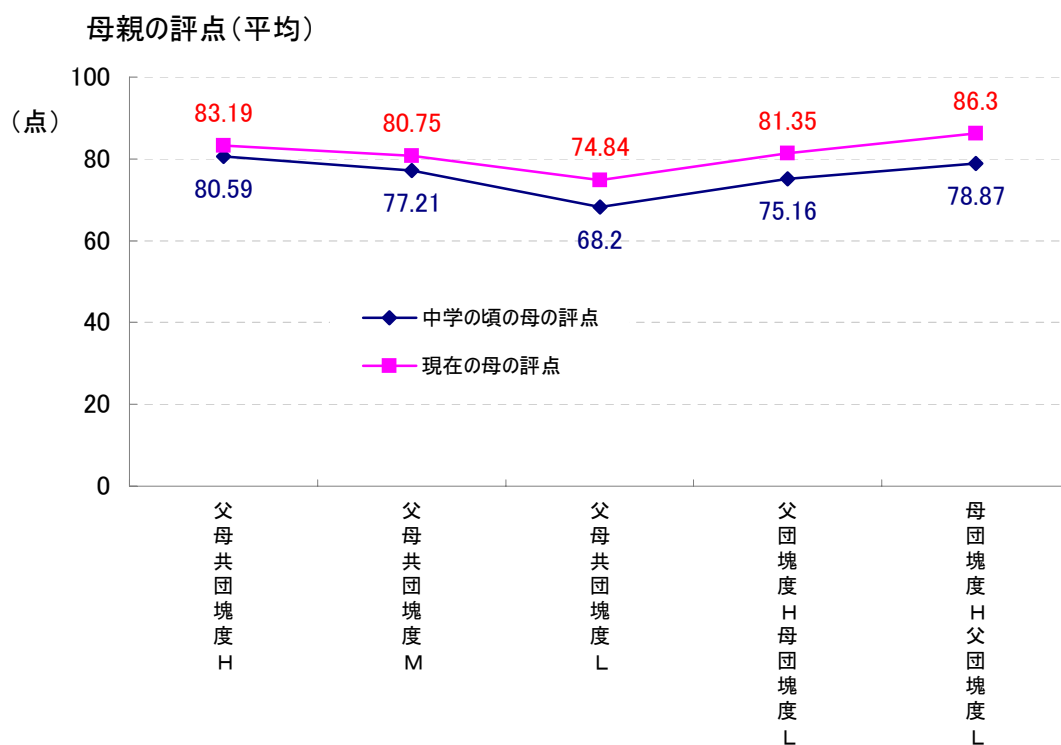
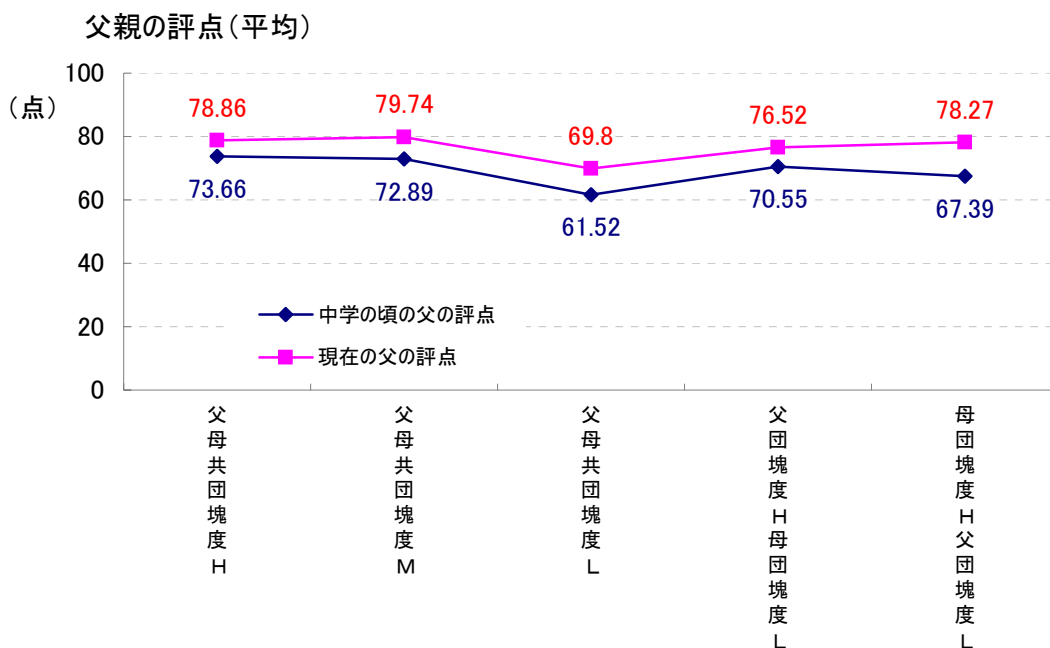
●〈父母とも団塊的接し方L〉だったグループでは、「しばられない」で最も多いが、「安定」「自己実現」「忍耐」「進歩的」といった言葉が少ない。

●〈父母とも団塊的接し方M〉だったグループでは、「気楽な」「個性的」「安定」「協調」が多いが、「努力」「冒険」が少ない。

前向きなく父母とも団塊的接し方H〉グループ、後ろ向きなく父母とも団塊的接し方L〉グループという印象である。

14 両親への評点(団塊接し方別)

Q11)ところで、現在の両親に点数をつけるとすると、100点満点で何点になりますか。数字でご記入ください。



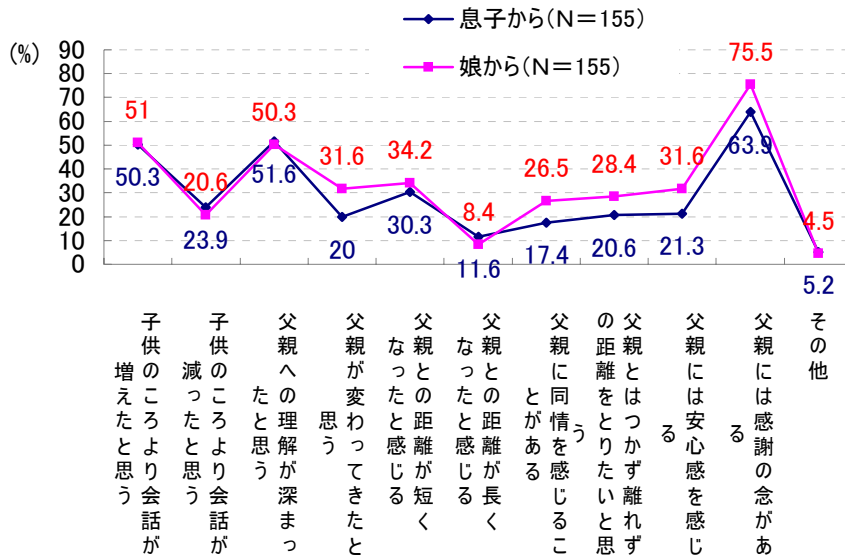
●父親への評点は<父母とも団塊的接し方H>で79点、<父母とも団塊的接し方M>で80点、<父母とも団塊的接し方L>で70点。<父母とも団塊的接し方L>を除けばそこそ良い点数である。子供の頃と比べて、点数はよくなる傾向にある。子供が成長すれば親のありがたみを実感するというとか。

●母親への評点は、<父母とも団塊的接し方H>83点、<父母とも団塊的接し方M>81点、<父母とも団塊的接し方L>75点。父親と比べて母親の方が点数がよく、やはり子供の頃と比べて、点数は向上している。<父母とも団塊的接し方L>だった子供は両親への評価は父母両方とも低い。両親が悪いのか、子供が悪いのか、それはわからないが。

15 父母との関係

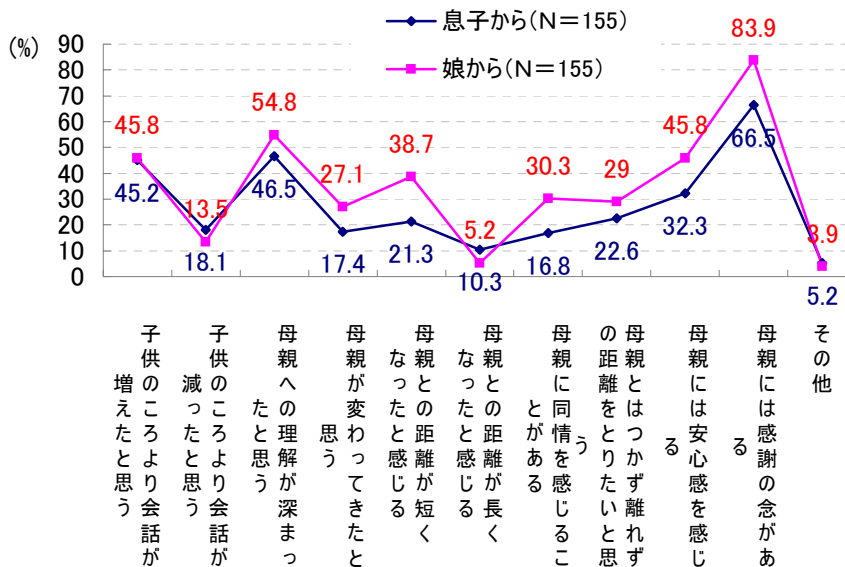
Q13)あなたと、あなたの両親との関係で、あてはまる項目を、
父親・母親それぞれについてすべてお知らせください。

父親との関係について(SA)



●「父親には感謝の念がある」とする子供は「息子」64%、「娘」76%もあり、基本的に7割程度は良好な親子関係といえるのではないかと。また、「子供の頃より会話が aumentado と思う」50%程度にたいし、「子供のころより会話が減ったと思う」は20%強であって、会話も復活していると思われる。それは、「父親が変わってきたと思う」よりも、自分の「父親への理解が深まったと思う」からだ。また時には「父親に同情を感じることもある」という意見もある。

母親との関係について(SA)



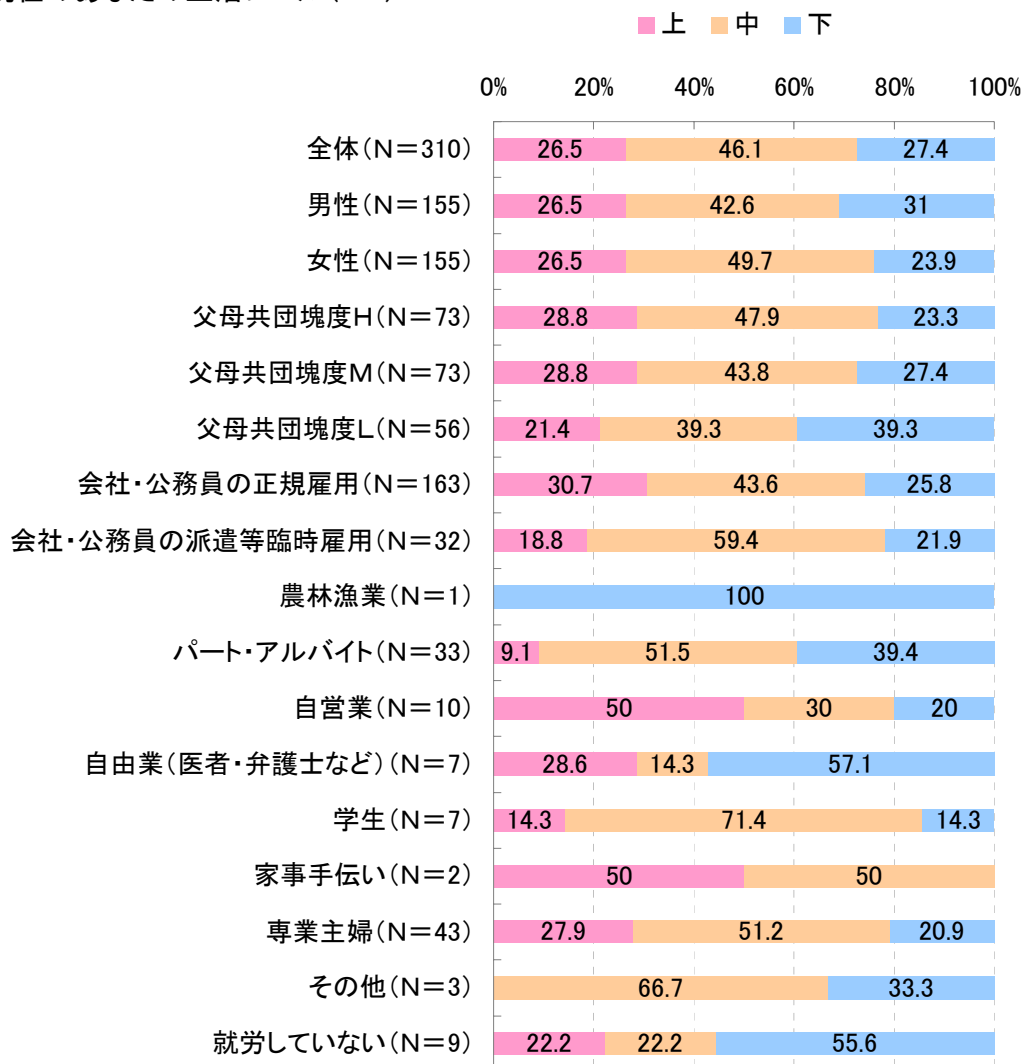
●「母親には感謝の念がある」とする子供は「息子」67%、「娘」84%もあり、基本的に7割程度は良好な親子関係といえるのではないかと。また、「子供の頃より会話が aumentado と思う」45%程度にたいし、「子供のころより会話が減ったと思う」は15%強であって、会話も復活していると思われる。それは、「母親が変わってきたと思う」よりも、「自分の「母親への理解が深まったと思う」からだ。その結果「母親との距離が短くなったと感じ」「母親には安心感を感じる」が、また時には「母親に同情を感じることもある」という意見もある。

●<団塊的接し方>別に見ると、最も両親に「感謝の念を」持っているのは<父母とも団塊的接し方M>のグループだ。父や母との会話が「増えた」というのは<父母とも団塊的接し方H>のグループ、また父母との距離が「短く」なったのもこのグループ。関係改善がすすんだのだろう。特に父親との関係が改善されたようだ。<父母とも団塊的接し方L>では、相対的に父母との関係は最もよくない。「会話」「理解」「距離」「同情」「安心感」「感謝」の点で、低い結果である。

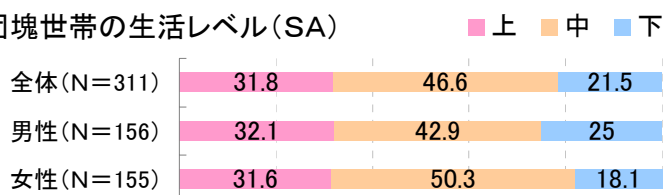
16 現在の生活レベル意識

Q14)現在、まわりと比べてあなたの生活レベルはどの程度だとお考えになりますか。

現在のあなたの生活レベル(SA)



現在の団塊世帯の生活レベル(SA)



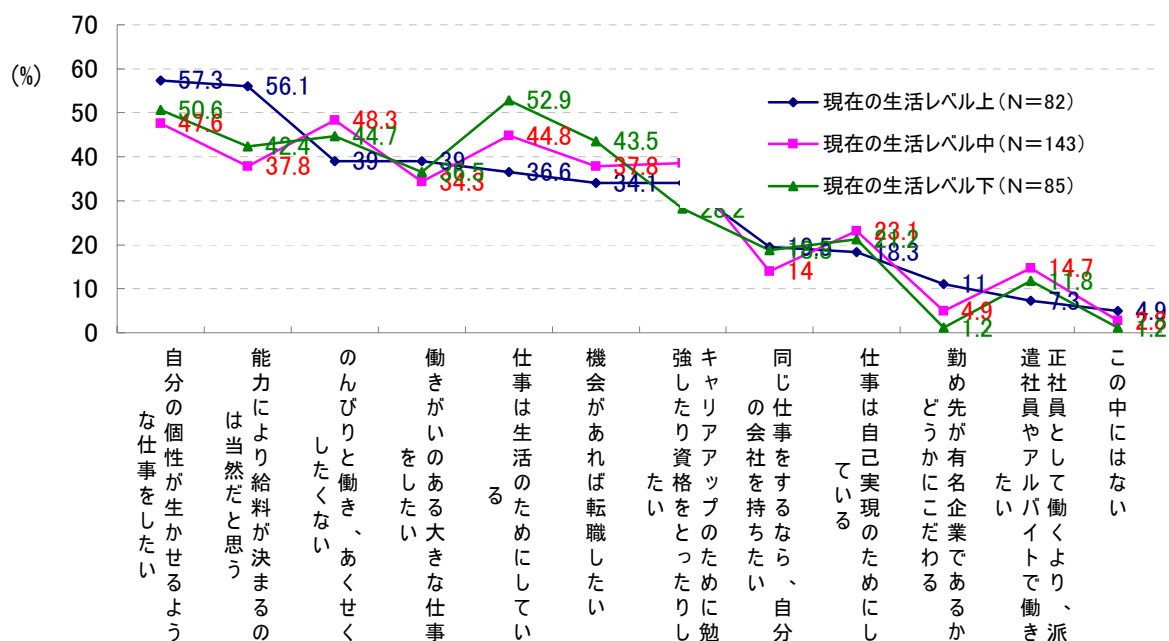
●団塊Jr.の生活レベル意識は団塊世代の世帯の生活レベル意識と比べて、「上」27%vs32%、「中」46%vs47%、「下」27%vs22%と、団塊Jr.の生活レベルは団塊世代世帯より「下」が多い。生活レベル意識は回りと比べて相対的なものなので、意識の上で、団塊Jr.の方が「下流」感を持っている人が多いと考えられる。

●「下」の多いグループは「父母とも団塊的接し方L」「パートアルバイト」「自由業」「就労していない」である。＜父母とも団塊的接し方L＞には年収300万円未満が32%と最も多い。

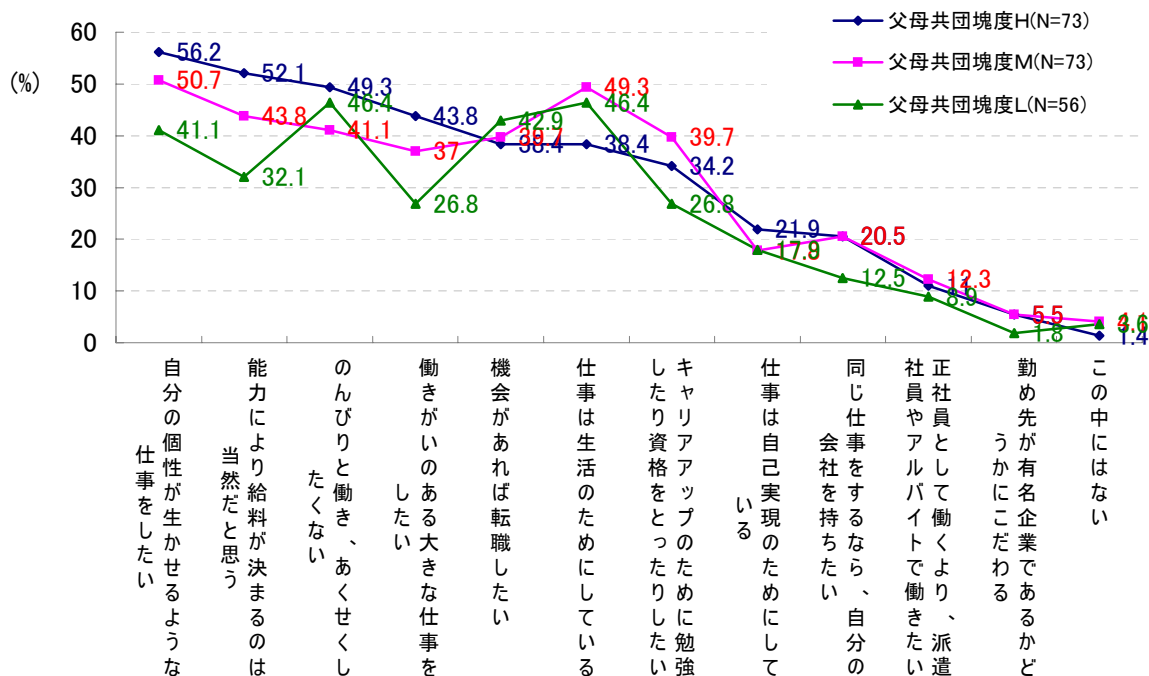
17 仕事についての考え方

Q15)あなたは仕事についてどのような考えをお持ちですか。あなたのお考えに近いものを全てお知らせください

仕事についての考え方(現在の生活レベル別)(MA)



仕事についての考え方(父母の団塊度別)(MA)



- 生活レベル意識別に、仕事観をみる。
- 「上」は「自分の個性が活かせるような仕事をしたい」「能力により給料が決まるのは当然だと思う」という人が多く、逆に「のんびりと働き、あくせくしたくない」という人は相対的に少ない。
- 「中」は「のんびりと働き、あくせくしたくない」と考える人が多く、逆に「自分の個性が活かせるような仕事をしたい」「能力により給料が決まるのは当然だと思う」という人は相対的に少ない。しかし「キャリアアップのために勉強したり資格をとったりしたい」とは考えている。
- 「下」は「仕事は生活のためにしている」とし、「機会があれば転職したい」と思っているが、「キャリアアップのために勉強したり資格をとったりしたい」という人は少ない。

○父母の団塊度別に見てみる。

○＜父母とも団塊的接し方H＞の子は「自分の個性が活かせるような仕事」「働き甲斐のある大きな仕事」を希望し、「能力により給料が決まるのは当然」という意識が高い。

○＜父母とも団塊的接し方M＞だった子は、「仕事は生活のためにしている」という意識が高く、「キャリアアップのために勉強したり資格を取ったりしたい」と考えている。

○＜父母とも団塊的接し方L＞だった子は、「のんびりと働き、あくせくしたくない」が「機会があれば転職したい」「仕事は生活のためにしている」という意識が高い。

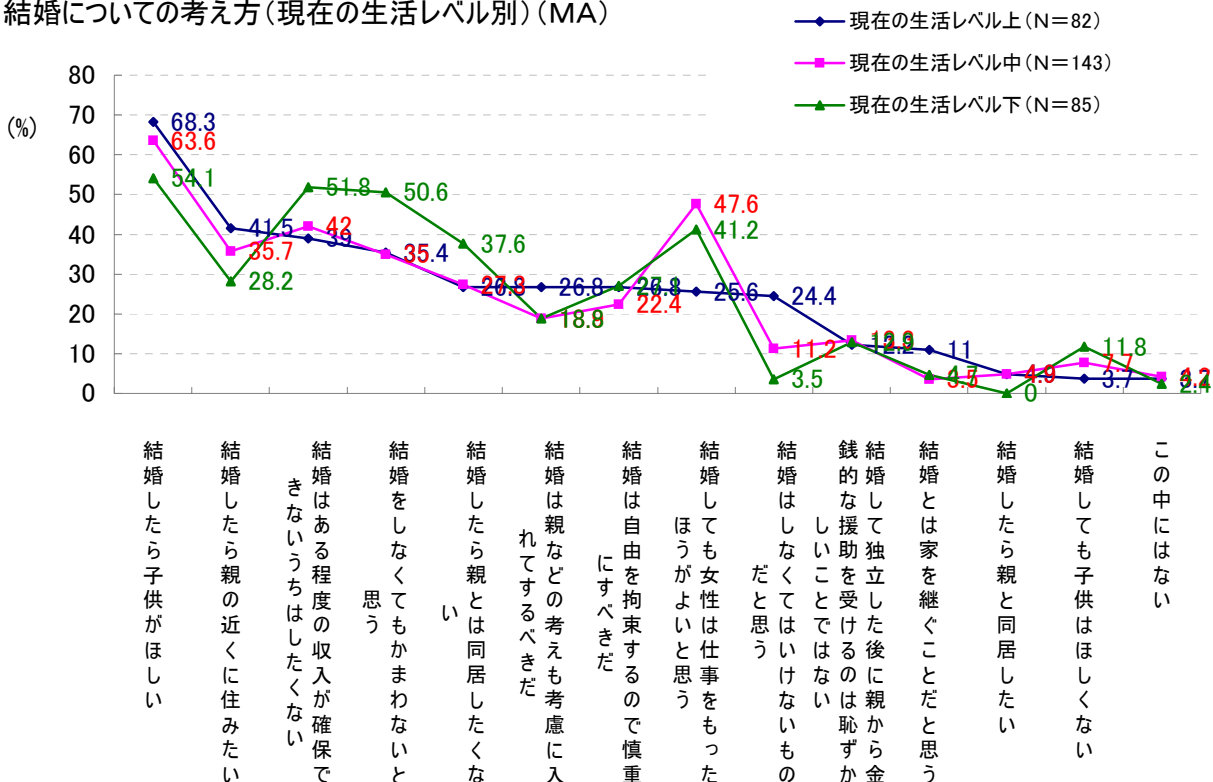
■団塊度が高い親からは能力主義的で個性重視の大きな仕事を望む子が育ち、＜団塊度＞が低い親からはのんびりと生活のための（収入をうるための）仕事をして、転職願望のある子が育つ。＜団塊度＞が中程度だった親からは、その中間だがキャリアアップ志向の子が育っている、といえそうだ。

18 結婚についての考え方

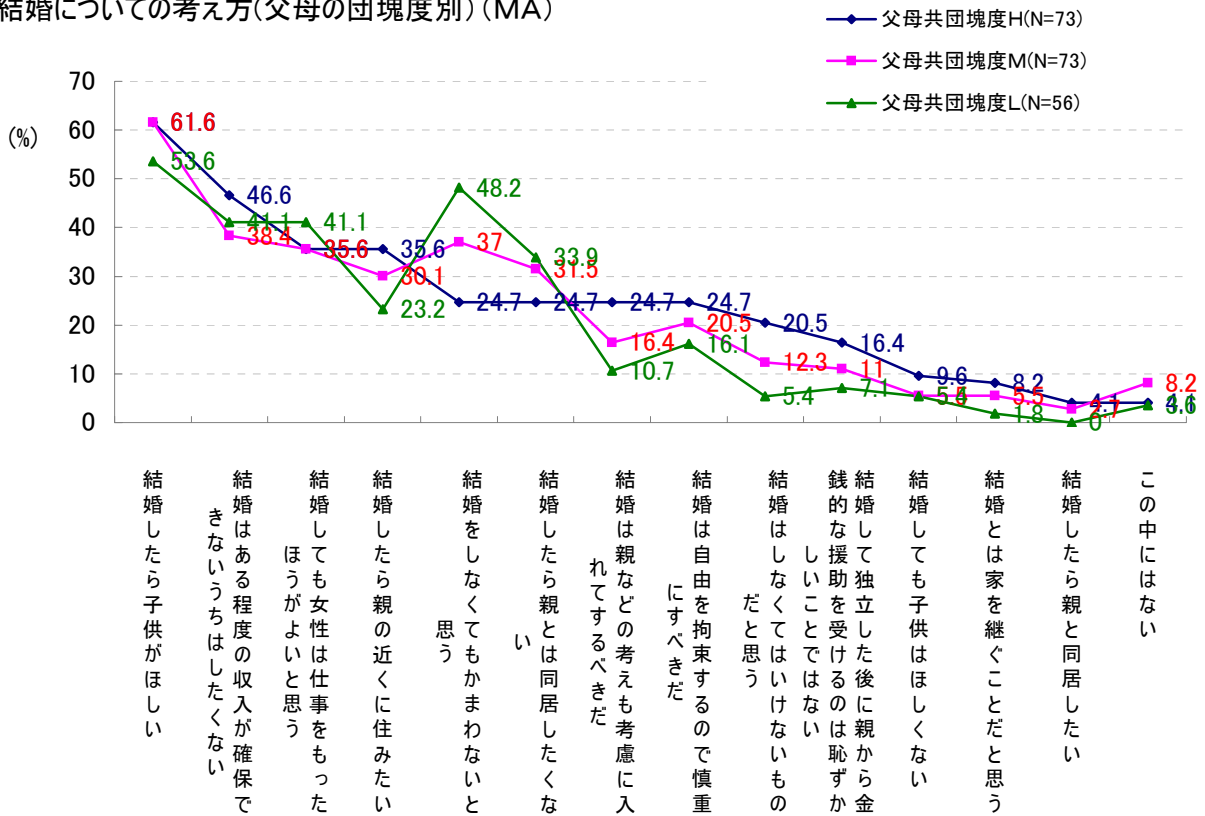
Q16)あなたは結婚や恋愛についてどのようなお考えをお持ちですか。

あなたのお考えに近いものを全てお知らせください。

結婚についての考え方(現在の生活レベル別)(MA)



結婚についての考え方(父母の団塊度別)(MA)



●「生活レベル意識」別に検討しよう。

●「上」は「結婚したら子供がほしい」「結婚したら親の近くに住みたい」「結婚は親などの考えも考慮に入れておくべきだ」「結婚はしなくてはいけないものだと思う」という考え方が多い。親との関係がよく、親が手本になっているとも考えられる。

●「中」は「結婚したら子供がほしい」が「結婚しても女性は仕事をもったほうがよいと思う」と考える。結婚するには片方だけの収入ではやりきれないので、共稼ぎ志向とも言える。

●「下」は「結婚はある程度の収入が確保できないうちはしたくない」し、「結婚をしなくてもかまわないと思う」「結婚したら親とは同居したくない」という考え方が多く、逆に「結婚はしなくてはいけないものだと思う」「結婚したら親の近くに住みたい」という考え方は少ない。結婚できないかもしれない、と考えている人が多く、できなくても仕方ないとも考えている。親との関係はあまりよくなく、手本にはできないうちと考えている傾向がある。

○親の＜団塊度＞別に見てみよう。

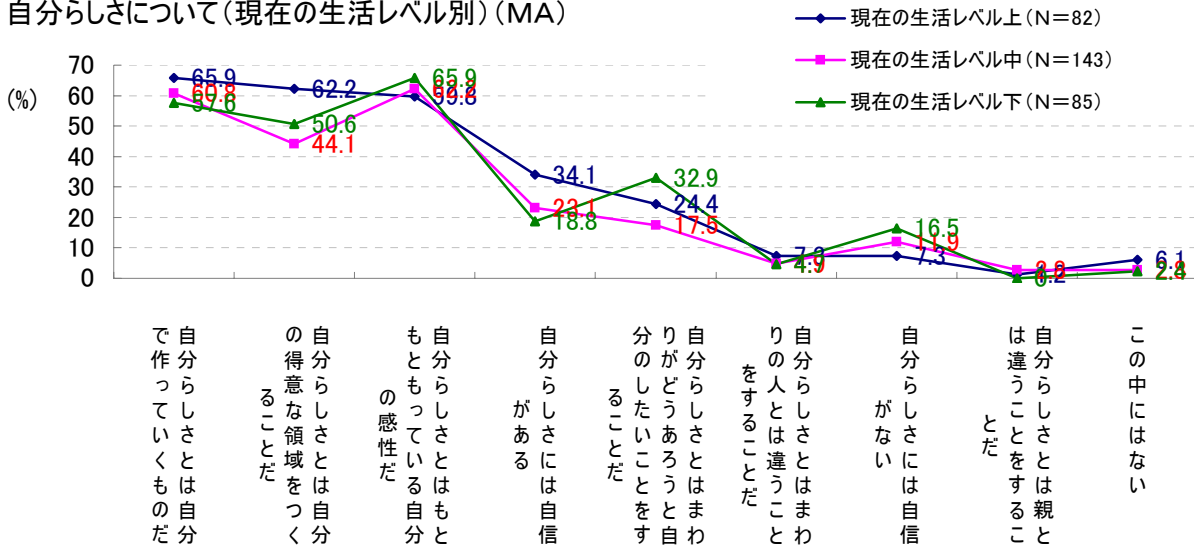
○もっとも特徴的なのは、「結婚をしなくてもかまわないと思う」という意見に対する反応だ。＜父母とも団塊的接し方L＞だった子は「結婚できなくてもよい」と考える率が最も高く、反対に＜父母とも団塊的接し方H＞だった子は最も少なく、「結婚はしなくてはいけないものだ」という意見に賛成する率が高い。＜父母とも団塊的接し方M＞はその中間。結婚に対する自信は経済的なことから、手本となる親のあり方にも左右されていると考えられる。

19 自分らしさについて

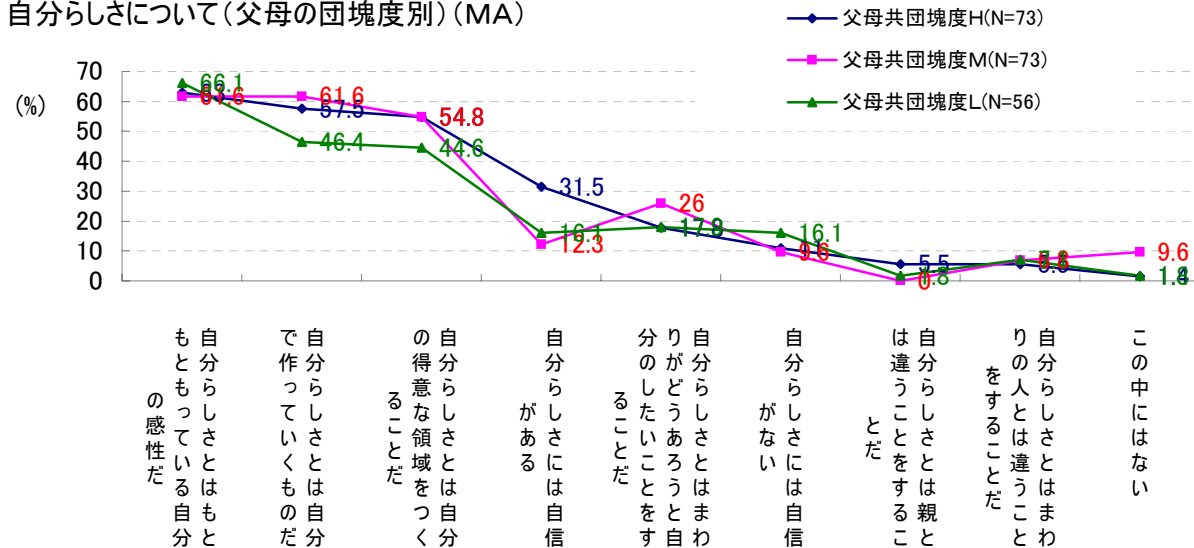
Q17)あなたは自分らしさについてどのような考えをお持ちですか。

あなたのお考えに近いものを全てお知らせください。

自分らしさについて(現在の生活レベル別)(MA)



自分らしさについて(父母の団塊度別)(MA)



●現在の生活レベル「上」は「自分らしさとは自分で作っていくものだ」「自分らしさとは自分の得意な領域をつくることだ」という考え方で、さらに「自分らしさには自信がある」としている。

●「中」は「自分らしさとはもともと持っている自分の感性だ」という人がやや多いが、「自分らしさとは自分の得意な領域をつくることだ」という人は相対的に少なく、また「自分らしさとはまわりがどうであろうと自分のしたいことをすることだ」と考える人も少ない。

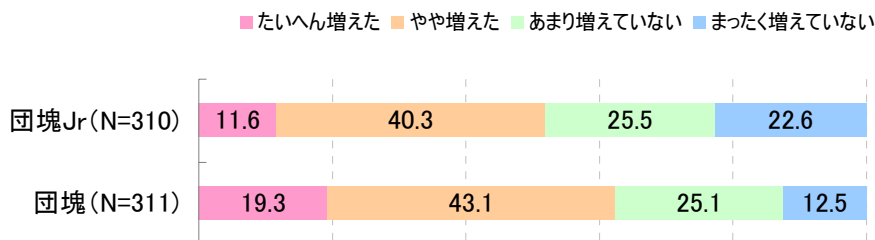
●「下」は逆に「自分らしさとはもともと持っている自分の感性だ」であり、「自分らしさとはまわりがどうであろうと自分のしたいことをすることだ」と考えているが、「自分らしさには自信がない」人たちである。

○自分らしさというものが何であれ、もともと持っているものか、あるいは自分で作っていくものか、親の<団塊度>別にこの考え方は違っている。<父母とも団塊的接し方H>だった子と<父母とも団塊的接し方M>だった子は自分らしさは自分で作っていく、あるいは自分の得意な領域をつくることだと考える傾向にあり、<父母とも団塊的接し方L>だった子はもともと持っている感性だと考える傾向がある。

20 両親とのコミュニケーション-団塊Jrと団塊との間で

Q20)携帯電話や携帯メールを含むメールやインターネットによって、子供とのコミュニケーションは、どの程度増えたでしょうか。

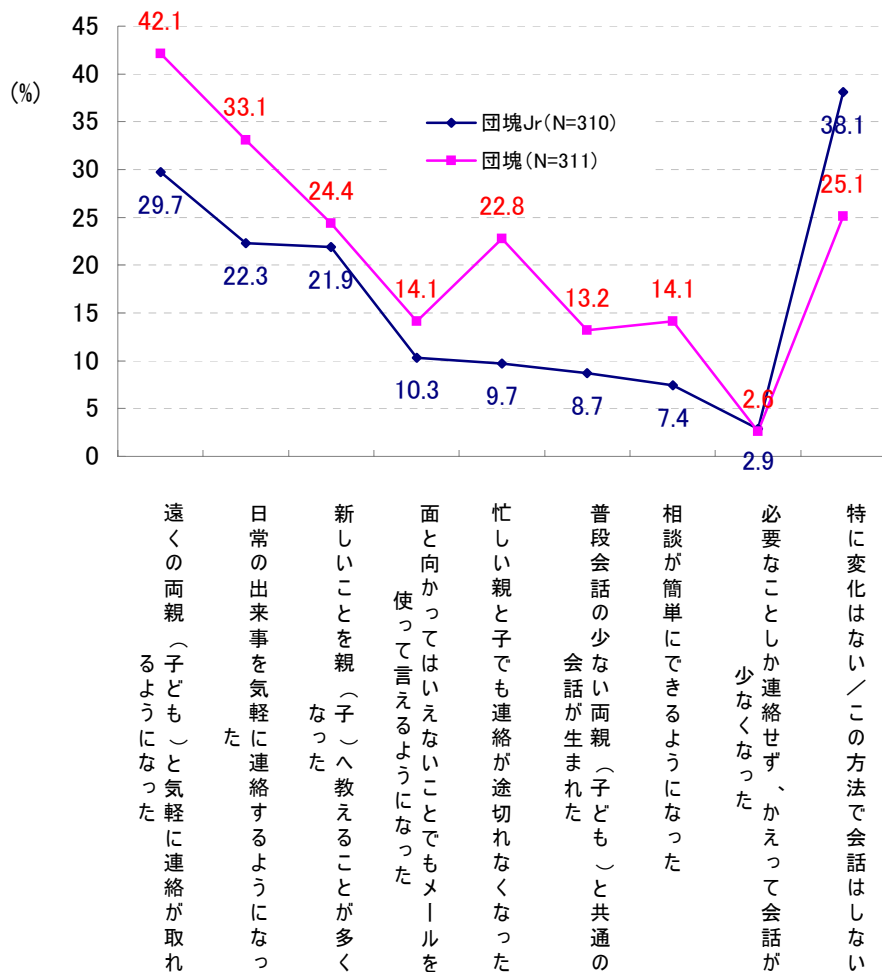
メールやインターネットによるコミュニケーション頻度 (SA)



●メールやインターネットは団塊世代と団塊ジュニア世代との間のコミュニケーションを促進しているだろうか。5割から6割の人は増えたと認識している。親世代の方が「増えた」と思っている人が多い。

Q21)携帯電話や携帯メールを含むメールやインターネットは親子の会話にどのような変化をもたらしたでしょうか。

メール、インターネットによる親子の会話の変化 (MA)



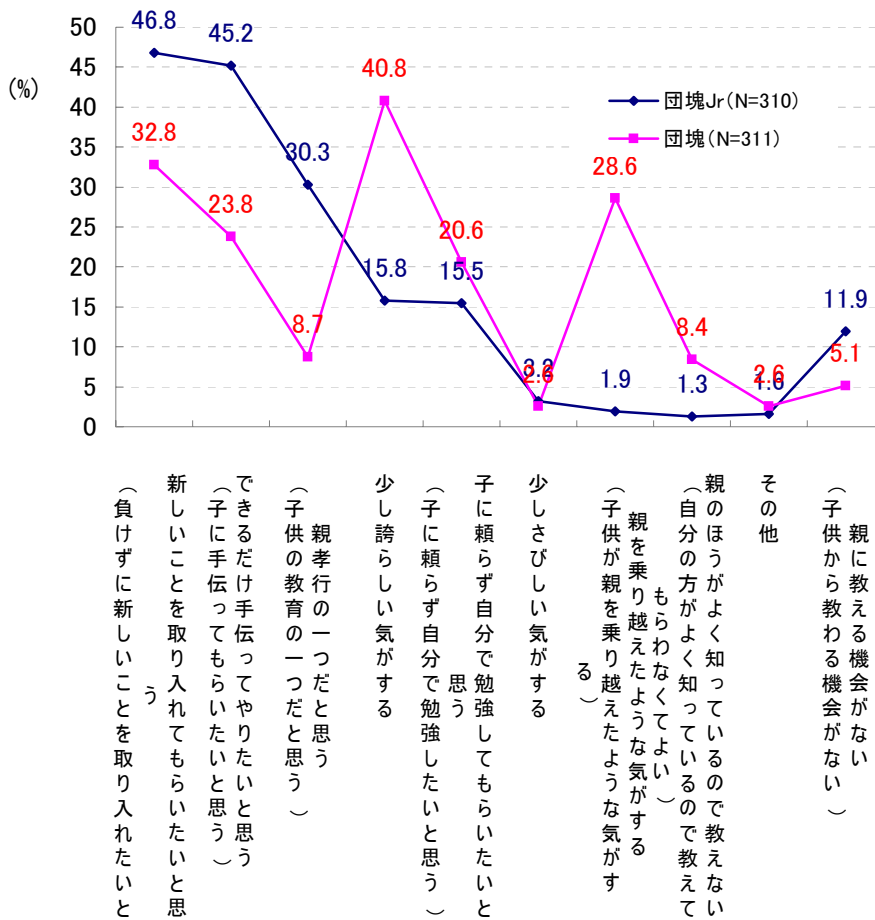
●メール・インターネットは「遠くの子供（両親）と気軽に連絡でき」「日常のことも話せるようになり」、親子の会話の促進に変化をもたらしている。

●「特に変化はない」「メールやインターネットでは会話はしない」という人を除けば、子供も6割は会話内容に変化があったとしているし、親も7割が変化があったとしている。それは会話頻度のみならず、友達親子として何でも話せる関係を生み出しているひとつの背景といえるだろう。

21 親へ新しい技術を教えることについての意見

Q22)あなたは、新しい技術を親へ教えることについて、どのようなご意見をお持ちですか。

メール、インターネットなど新しい技術を親へ教える
(子から教わる)ことへの意識(MA)



新しい技術を教えたり、教えられたりすることはインターネットが盛んになってから、よく親子関係で見られる現象だ。

従来は親は子の先を行き、子は親を乗り越えるのに師弟関係のように何年もかかったわけだが、ITはむしろ子供の方が技術革新を早く吸収し、親へ教えることが多い。

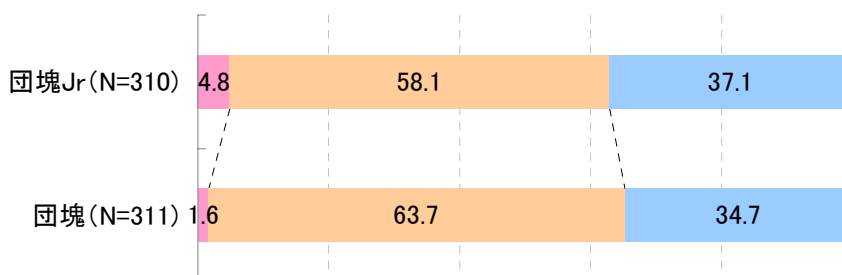
時代的交代と年代的な交代とが同時進行で起こっているとも言える。団塊世代はこの通過儀礼をどう受け止め、団塊ジュニア世代はどう受け止めているのか。団塊ジュニア世代は「親孝行のひとつとして」「新しいことを取り入れてもらいたい」と「できるだけ手伝ってあげたい」と考えている。団塊世代は「子供が自分を乗り越えたようで」「少し誇らしい」としている。

22 結婚後の親からの支援について

Q24)これからの親子関係についておたずねします。結婚後、親からの支援はどの程度期待していますか

親から子どもへの支援期待(子への支援の気持ち)(SA)

- 結婚しても親からは積極的に支援してもらいたい (結婚しても親は積極的に支援した方がよい)
- 結婚しても支援が必要なときは支援してもらいたい (結婚しても支援が必要なときは支援した方がよい)
- 結婚したら親からの支援は必要ない (結婚したら親は支援しない方がよい)



団塊世代の子供への支援の気持ちと団塊ジュニア世代の支援を期待する気持ちには、ほとんど食い違いがない。支援をしてもらいたいのにしてくれない、とか支援したいのにその希望がないとか、の食い違いがなく、「結婚しても支援が必要なら支援する(してもらおう)」という是々非々の親子関係が確立している。

C. 事前調査-

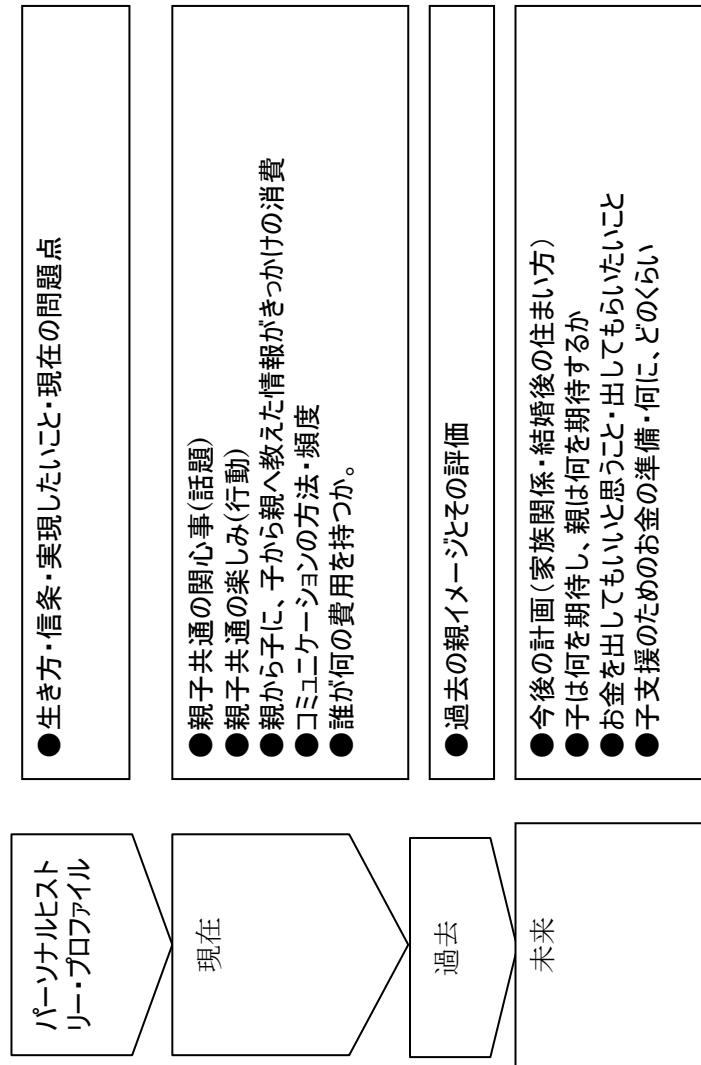
グループインタビュー

<調査概要>

I インタビューの目的

本研究におけるグループインタビューは、本調査のための仮説抽出のために行われた。そのため、団塊世代と団塊ジュニア世代の共通性・異質性を親子関係中心に具体的に情報収集を行った。
 フレームとしては、大きく現在の状況と将来の予想とに分け、過去の親子関係は大きくは取り上げない。現状を説明するための過去の親子関係は、ほかに年代や時代背景が要因としてあるため、十分な説明ができないと予想されるからである。

II グループインタビューのフレーム

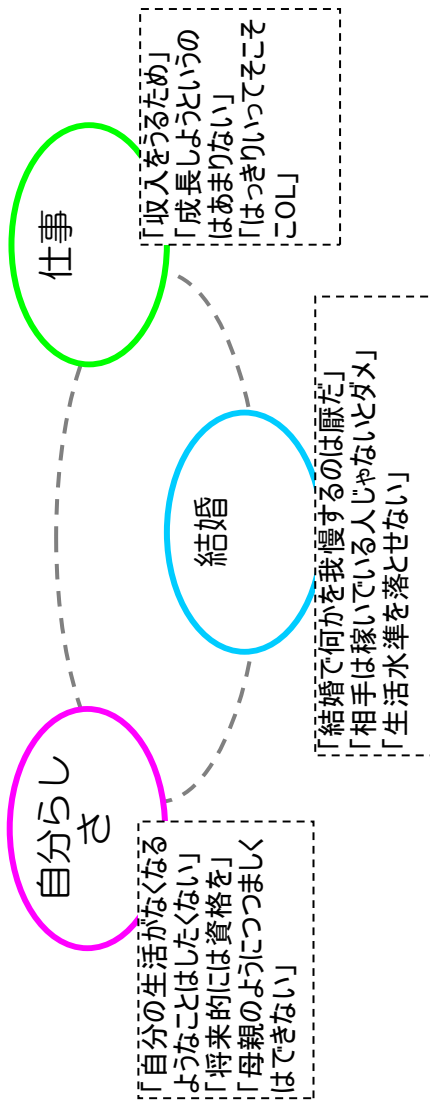


III 実査

- ① 対象者条件： 団塊世代56-58才、首都圏在住、主にサラリーマン世帯。男女各3名計6名 団塊ジュニア26-30才、首都圏在住、親どちらかが56-58才。同上人数。
- ② 日時： 8月22日18:30団塊世代、8月23日18:30団塊ジュニア世代。
- ③ 場所： 読売広告社GILルーム
- ④ 実施： (株)パワーウィングス

1 団塊Jrの「仕事観」「自分らしさ観」「結婚観」

団塊Jrは、モノが揃った豊かな生活水準にあって、～しななければならない、という目的意識が少なく、「仕事」についても収入を得ることさえできれば、自分を高めたり、がんばることに大きな意味を見出さない。また「自分らしさ」といっても資格をとることであり、のんびりマイペースであったり、もう一つはつきりという気持ちはない。「結婚」も現在の生活水準を落とすまで、ゼロからスタートという出せないのだろう。



<仕事観>

- 今の仕事はおもしろくないし、ずっと今の仕事をやる気はない。少し前まで生活費を稼ぐために仕事。
- 物を買うためのお金を得るために仕事をしている。成長しようという気はない。
- 食べるための手段というのが本音。しかし、目標を達成するために覚えたり、新しい商品開発ができるという喜びはある。
- 自分を成長させる場。大きな会社に入ったので親がすごく喜んだ。はつきりした自分の道筋を決めるまで辞められない。
- 仕事は嫌だと思っただ事はなく、毎日楽しい。主に収入を得るために働いているという感覚。はつきり言ってそこそこOL。
- 結婚前は自分のスキルアップのための仕事を選びたいと考えていたが180度変わった。家事もやらないといけない。

<自分らしさ観>

- 最近将来的に資格をとって独立して仕事をしたい。将来的に試験を受ける可能性がある間はそのうちを優先したい。
- 頑張ればかりいと疲れるので、適当にのんびり。毎日徹夜や残業をして自分の生活がなくなることほしたくない。
- かわいくしななければいけないとは思わない。思いやりがある人は周りから見てもいいと思う。
- 旦那さんの給料だけでつまみやくやってきた母親とかの生活は理解できない。
- 株式投資。自分がこれからずっと勉強できると思うのでやり始めた。余り欲張らずにやっている。

<結婚観>

- 子供ができたら別だが、結婚で何かを我慢するならそれは嫌だ。
- 縛りがある事もある意味で幸せなのではないかと思いついてきた。
- 結婚したら仕事は辞めたいので稼いでいる人じゃないとダメ。
- 自分で稼ぐ喜びを知ってしまったと、生活水準を落とせない。
- 貯蓄とか将来へのお金の意識が向いてきた（既婚女性）

<3つの価値の優先順位>

	自分	結婚	仕事
自分探し派	⇒ 1	2	3
のんびりマイペース派	⇒ 1	3	2
父からの自立派	⇒ 2	1	3
努力派	⇒ 1	2	3
母娘仲よし派	⇒ 1	2	3
共働き実施派	⇒ 2	1	3

2 結婚に対する団塊世代と団塊Jrの考え方のギャップ

娘を持つ父親として25歳までには結婚させねばならない、など高度成長期の労働力確保のために近代家族形成制度としての結婚は、団塊世代にあっては倫理的にも上位の枠組みとしてあった。母親も、結婚して子供を持つことがアメリカのホームドラマを実現する夢だった。また、高卒で東京へ出てきて会社人間としてや専業主婦として、苦勞して大学へもやっただ娘・息子には安定的な生活を構えるために、ぜひ早く結婚してもらいたかった。

「30歳にもなってまだ独身なのは心苦しい」
 「なかなか理解できない」
 「しかし、押し付けたくはない。自主性に任せるというスタンスで来た」
 「口出しはしない」

GAP

「結婚のことを急がせないで欲しい。」
 「結婚のことを訊ねるのはセクハラと同じだ。」
 「十分楽しんでからでも遅くない。」
 「将来のことを考えたら、プラス面もマイナス面も十分吟味する必要がある。」

今日、成熟期にあって、労働と就労の意味は代わりつつある。また拡大再生産としての結婚の意味は、失われつつある。あくせく働くより、スマートに暮らすことが優先され、将来への漠然とした不安は若年層にも多い。自己犠牲や縛りを伴う結婚より、MEISMの独身の方が気楽なことも確かだ。したがって、独身時代の生活水準を落とさずに結婚生活をするとしたら、玉の輿か共働きしかない。となれば、婚期も遅くなる。決して結婚したくないわけではないが、あまり急がないでいい。

<団塊Jr>

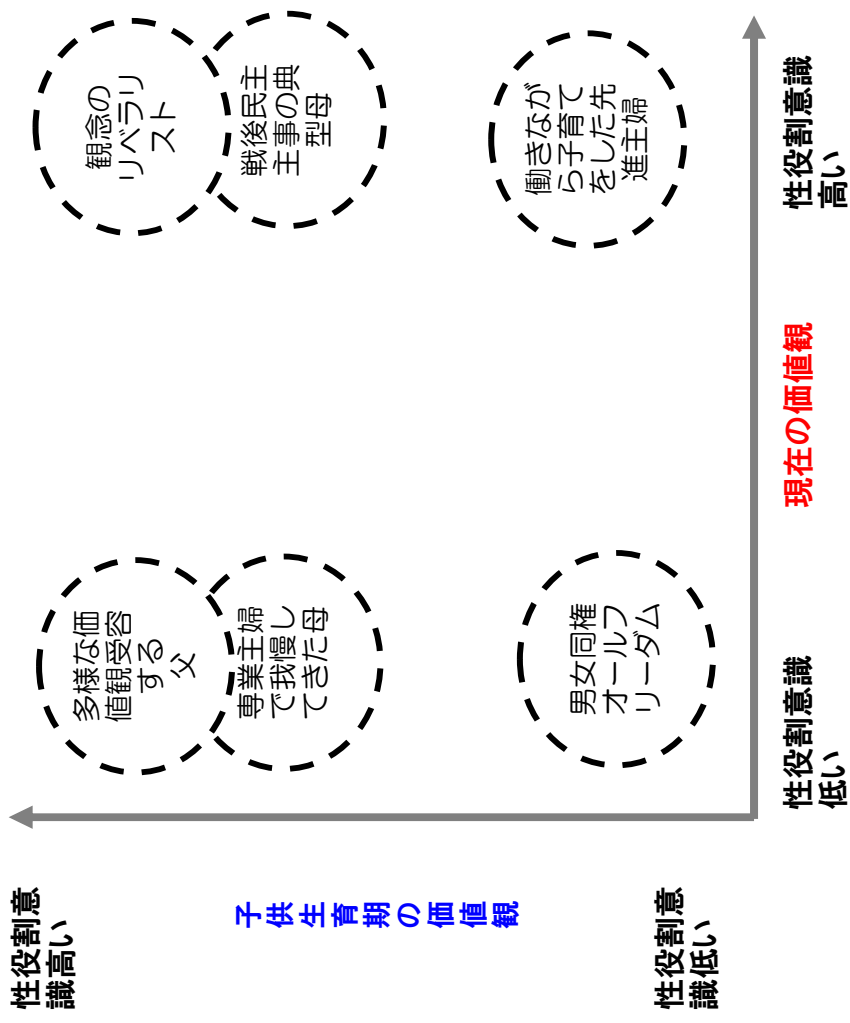
- 一般的な形として結婚して、子供がいてというのは理想かなと思うし憧れる。反面、縛られたくないので葛藤している。 男
- 彼女と結婚したくないとは思ってない。どちらかと言うと、子供を育ててみたい。 男
- 結婚したくなかった理由は、結婚すると少なからず縛りがあるからと思っていたからだ。独身と同じようにはできない。 男
- 結婚したいとは思わないし、まだ当分いい。生活レベルは結婚しても落とさない。 女
- 何でも買って、お腹いっぱいになったら家庭に入ってもいいかなと思う。つましくやってきた母親の生活は理解できない。 女
- 結婚し貯蓄とか将来へのお金の意識が向いてきた。物も欲しいが、先を考えると優先順位が変わってきた。 女
- 両親も離れているし育児は2人でやりたいと思ってるので、旦那に時間の余裕ができるまで子供は作らない。 女
- 今のお小遣いをだんさんから毎月もらうのが嫌。結婚しても専業主婦にはなりたくない。 女
- いい人というのは、突然わかるわけではない。マイナス面もちゃんときと見ないといけないから慎重になる。 女

<団塊世代>

- 娘が25歳までに結婚しないと男の責任が立たないと思っていた。男親としては心苦しい。 男
- 親の口出しはよくないという。気持ちとしては早くしてもらいたいし、我々にはなかなか理解できない。 男
- 子供にあまり押しつけないとは思わなかった。結婚もおまえが決めた事ならいいんじゃないかというスタンスでいた。 男
- 子供2人には早く結婚して欲しかった。大学出て仕事で面白かったので、自分は一生1人でいくと言っていた。 女
- 一度は親のために結婚してやらなくちゃいけないという感じで結婚して、全然うまくいかずに離婚したらしい。 女
- 息子に結婚の事を聞くのが嫌がる。私や主人とは考えが違う。お金も出さないけど、結婚には口も出さない。 女

3 団塊世代の性役割分業への考え方一過去と現在

団塊の世代は「男は仕事・女は家庭」という性別役割分業によって、近代家族を形成してきた世代だ。昔の成功を約束すると信じた価値観と、今、感じている性役割意識はどうか、変化したのか、しないのか。これによかったのか悪かったのか。子供達が育ちあがり、手から離れようとするとき、どう評価しているのか。いくつかのパターンがありそうだ。性役割への考え方のギャップを生み、この自分探しのパターンにも影響しているように思われる。

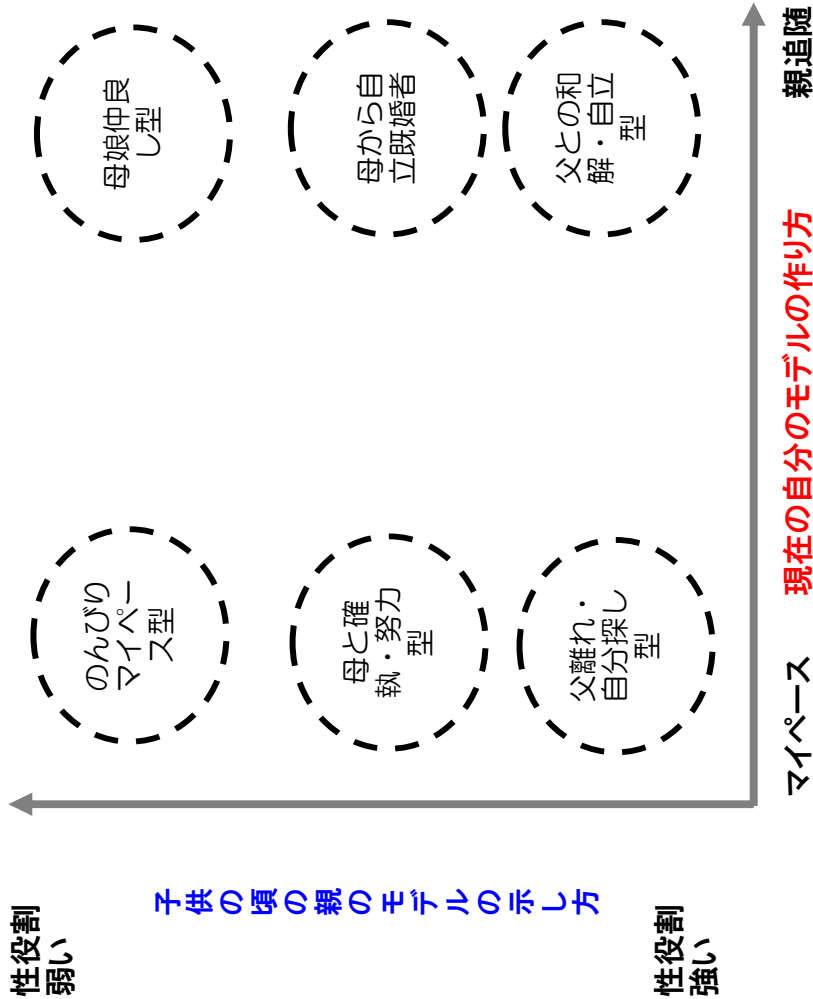


< 団塊世代のタイプ >

男 女 同 権 リ ー ダー オ ー ル ダ ム	妻は働いているので、自分が日中にいる時は昼飯を作って一緒に食べる。うちは役割分担はない。収入は私も一定の額を入れて、妻も入れている。
多 様 な 価 値 観 受 容 する 父	7カ所のホムドムを見て会話が飛びひかう家庭が理想だった。世界中いろいろ行くと価値観が違うので、物事を見る時も多面的に見るようになる。最後は自分で判断する。男が働いて女が家庭を守るという考えは今の子供にはあまりない。
観 念 の リベラ リスト	会社人間で、息子とのコミュニケーションはほとんど妻経由で、直接話す事はあまりなかった。全共闘はやってなくて、ノボリだったが大学闘争の世代。自分も立身出世は考えなかった。
働 き ず け 母	男女は対等だが同質ではないと思う。仕事をしながらもちゃんと子育てしてきたつもりなので、何でもかんでも男女同権は嫌い。
戦 後 の 民 主 主 義 的 女	専業主婦でよかったと思っっている。人がやってくれるから自分もというのでは絶対にやめましようと言った。自分が何を求めているかであって、人がやってくれるから私もというのはい。
我 慢 心 持 ち 母	高度成長で父親の帰宅が、2時、3時が当たり前で母子家庭のようだった。専業主婦で子供とどっぷり一緒だったのだから働くお母さんがうらやましい。

4 団塊Jrと「自分さがし」—親との関係

未婚の団塊Jrは、見方を変えるといまだに自分探しをしている自立していないモラトリアムであるともいうことができるだろう。なぜそうなのか、仮説的には子供のころの親の性役割モデルの中に一因があるのかもしれない。GIでは十分に探ることには出来ないが、あるパターンはあるように思う。



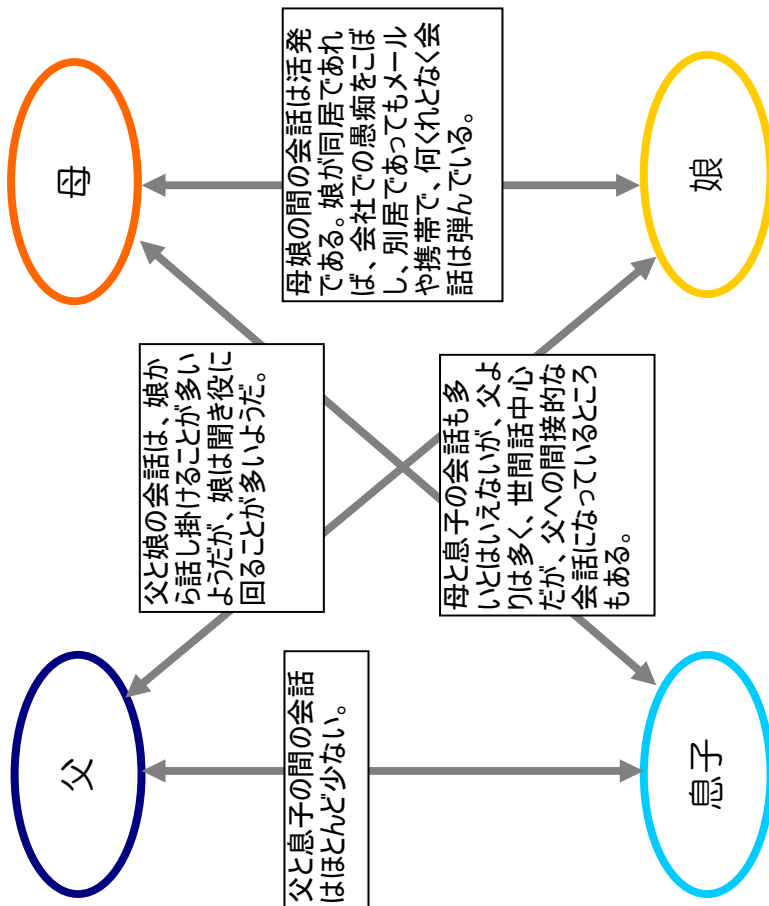
<団塊Jrのタイプ>

父離れ・自分探し型	両親はすごく仲が悪かった。家族で一緒にどこか行った事もあるが、余りいい思い出がない。父とは際り合いのけんかをすることがあるが、ほんとは話したいのだと思う。小柄でもあまり頑固だが最近かわいそうに感じることもある。 父：30点 母：50点
イのぺんぺん型	もともと親は余り押しつけがましくはなかった。教育は全く干渉されなかった。どうせ自分自身で生きるから自分自身で道を選びなさいという感じ。性格を言葉で表すと、父は忍耐強い感じ。もう少し自己主張があってもいいのではないかと思う 父：80点 母：85点
解・父との自立型	父親が母に手をあげていたのを見てしまった。10歳ぐらいの時だが鮮烈に覚えていて。自分は子供の頃は細くて厳格な父親に相当虐げられてきた。ちよっと屈折したのを母親が緩和してくれた。 父：40点 母：70点
母と確執・努力型	母は自分の思ったように育てたい。まじめな道を歩んでほしいと思っている。母は高卒。いい学歴とか周りからどう見られるかを気にしている。思いやりがある人は周りから見てもいいと思う。 父：70点 母：50点
母娘仲良し型	父親がJRの運転士だったので、踏み切りで手を振ると、警笛で返事をしてくれた。母とは常に話題がつかない。 父：90点 母：90点
父からの既婚自立型	母は1人っ子で育児も大変でずっと専業主婦だった。父の仕事もすぐに軌道に乗らなかったのだから家は大変だった。母は父とよく喧嘩していた。母は理想が高い人だったが、期待にこたえられなかった。 父：50点 母：70点

(注) 点数は子供の頃の親について、現在つけた点数。

5 団塊世代と団塊Jrとの会話内容

団塊世代と団塊Jrとの間の会話が、この世代だから活発であるということはない。成人した息子や娘へ教育的な話題が少なく、差し障りなく余計な口出しにならないような話題が中心だ。しかし、共通の話題がないわけではない。近所の話題であり、親戚の話題であり、ニュースであり、食べ物のお話であり、あるときには昔の家族旅行のお話である。



<団塊Jr>

- 話題は、政治、野球、仕事の話はいいさない。
- 話題は、野球、競馬。近所の話とか、近くの同級生の結婚話とか...
- 父自体が寡黙なのでテレビを見て話をするが、テレビとか他の物がないと話題もない。
- 妹に子供がいるので姪や甥の話が多い。自分の事は昔から余り話さない。
- 最近どうなのかとか父から話してくる。疲れてくると無口になるので、おまえ何かあったのかと聞いてくる。
- 母とは会社がいるいるあるので愚痴を聞いてもらってる状態。会社でこんな事があったとか私がいっつと一方的に話す。
- 父とは政治の話をふると、あいつは悪いやつだとか話してくるのて相づちを打つ。年金問題とか、まじめな堅い話が多い。
- 母とは常に話題が付きにくい。趣味とかがすごく似てると言われる。一般的な女の子っぽい会話も家庭でも続いている感じ。

<団塊世代>

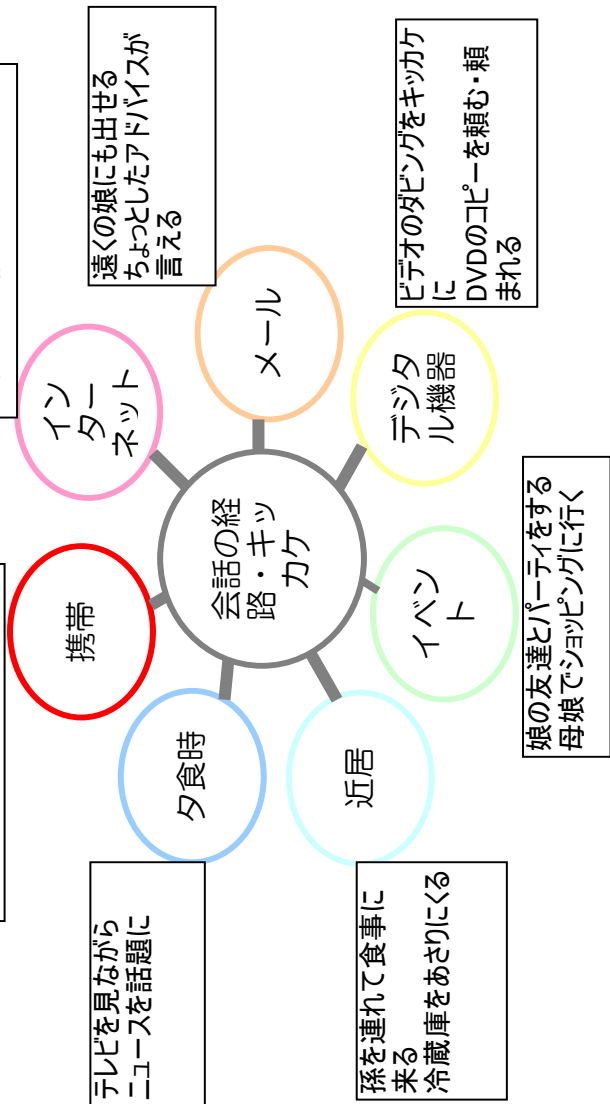
- テレビを見ながらニュースの話題とか、娘とはよく話す。
- 次女はずっと1人離れて暮らしているので次女の話題で話す事もある。
- 息子とは余り話さない。女房経由で職場の悩みとかを聞く。時々顔を合わすとどうだというぐらい。
- 息子とは、趣味などの話題は余りない。照れくさく会話にはならないが、職業人の先輩としてアドバイスをすることはある。
- お互いに干渉するのが好きじゃないので無事を確認するぐらい。
- 長男は電話してもほとんどいないし、メールの返事も返ってこない。
- 娘はある程度の年になると嫁いでもらいたいで、一緒に暮らす時間が限られる。できるなら話してあげようと思う。
- パソコンは息子との共通の話題。
- さしざりのない話題が中心。近所のうわさとか親戚の話とか。結婚の話などは話題にしないようにしている。

6 団塊世代と団塊Jrとのコミュニケーション経路／きっかけ

直接合って話をすることは、同居か近居に限られてくるが、結構すれ違いが多い。パーティーやショッピングなどのイベントもそう多くはないだろう。すれ違いを補う経路が編み出されている。メモを残したりすることもそうだが、最も頻繁に用いられるのは、デジタル系のコミュニケーションだ。
メールや携帯は同居・近居・遠方を問わず行われている。気軽に安くできるから。またVTRを焼いたり、ビデオをダビングしたりするタイピングが直接のコミュニケーションのきっかけとなっていることもある。

二言三言の日常連絡ができる
地震等のとき安心

テレビを見ながら
ニュースを話題に



<アナログ系>

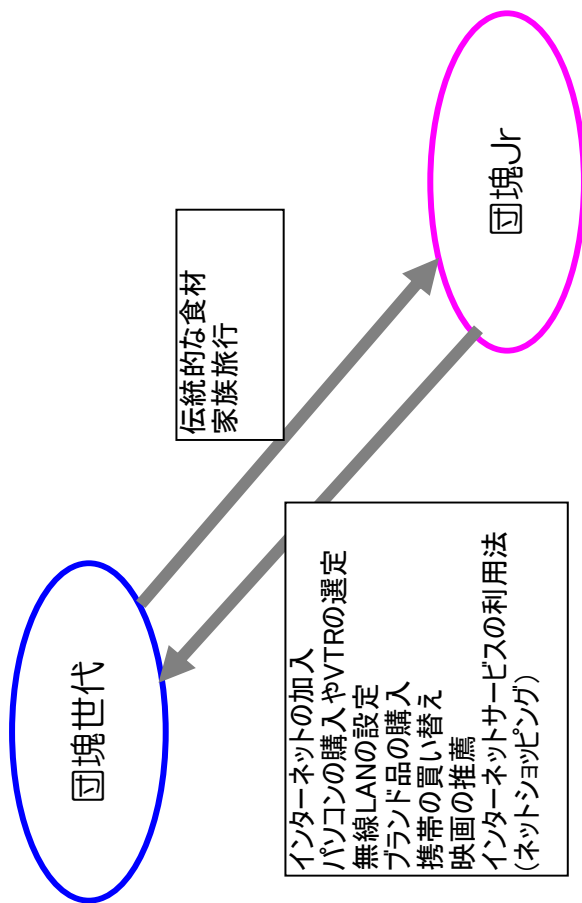
- テレビとか他の物がないと話題もない。 Jr男
- 休日や帰りが早く、夕食を一緒に取るとき。 Jr男
- 買い物が好きでデパートとかに行っているいろいろ見て盛り上がる。 Jr女
- 娘は冷蔵庫をあざりに1週間に1回ぐらいい来る。 団塊男
- 長女の友達とそのだんなさんや彼氏を家に呼んで一緒に飲み会をすることがある。 団塊男
- 息子が孫を連れてきて食事をした。近くにいたので結構一緒にする。 団塊男
- 息子が家にいてもすれ違いなのでメモを書いたりする。一緒に何かをする事はないが、お互いに存在感は感じている。 団塊女

<デジタル系>

- 息子の家にはDVDがないので、孫のビデオのダビングをしに来る。ビデオを見ながら家族旅行の話などはする。 団塊男
- 携帯メールは何か買ってきてとか、迎えに来てという事ぐらいたが、メールでは割と長く書く。 団塊男
- 今度ディスプレイモニターに泊まりに行くのでパソコンで検索してとかいう事に来る。 団塊男
- 息子とはゲームができないから嫌だとパソコンの取り合いをした。 団塊男
- 娘がDVDのコピーを自分では出来ないので、お父さんにもあげるからとコピーを頼む。 団塊男
- 海外の娘とはパソコンのメールを使うこともある。電話だと高いが、今はインターネットでも話せる。 団塊男
- 携帯も電話もあるので住まいの近い遠いは気にしていない。 団塊女
- 娘とはパソコンのメールだったが、今は携帯メール。子供とのメールの中で親の意見もちょっと入れたりする。 団塊女
- 千円払うが息子がビデオのダビング をしてくれる。パソコンは息子との共通の話題。 団塊女
- ホームページを立ち上げたら、そこまでわかるようになったかと行われて、仲間はすれにならなくなった。 団塊女
- 昔前なら世帯を持ったら話す機会は減った。今はメールを使って頻繁にやりとりできるので、すごく安心できる。 団塊女

7 団塊世代と団塊Jrの財の購入に関するコミュニケーション

特に、インターネット、デジタル系、音楽系、映画などの財やサービスの購入・利用については圧倒的に団塊Jrから団塊世代へのお奨めのコミュニケーションが強い。またインターネットを利用しているいろいろなサービスについても主導権は団塊Jrにある。団塊世代が団塊Jrにすすめるのは、食や旅、などアナログ系である。実際の買い物行動では、母娘・父娘、父・息子などのペア行動もみられる。母娘では娘が付き添う形で、実際には娘の分を購入することが多そうである。父娘ではあきらかに父はスイフ代わりとなっている。



インターネット・パソコンなどのデジタル機器の普及は、実用的なコミュニケーションに便利、というだけでなく、教え＝教えられる会話が生まれることで、共通のベース＝親子の絆を確かめ、強化する＝**団塊＋団塊Jrコネクション**が誕生していると考えられる。**この時代、この世代、この年代に特有なコネクション**といえるだろう。現代的「通過儀礼」なのかもしれない。

<団塊Jrから団塊世代へ>

- 母には競馬の買い方とか全部教えた 男
- パソコンやVTRを薦めた。ビデオも必要がないと言いついていた 男
- 父は食べ物がない時代に育ったせいだが、一緒に買い物に行くところ、食べたい物は必ず買ってくれる。 女
- MDプレイヤーが欲しいと言っても、俺には必要ないから自分で買えと言われた。自分が必要にならないと買わない。 女
- いまの家。私が不動産の検索サイト調べて、親の前で説明し不動産屋に行こうと言った。夫婦だけでは決まらなかった。 女
- パソコン。親は全くわからないので、リットも用意し、ネット接続の申し込みもしてサポートしてあげた。 女
- 母は変なところで節約して、本当にわからなくて高い物を買ってしまおう。買い物か下手。 女

<団塊Jrから団塊世代へ>親から見た薦められたもの

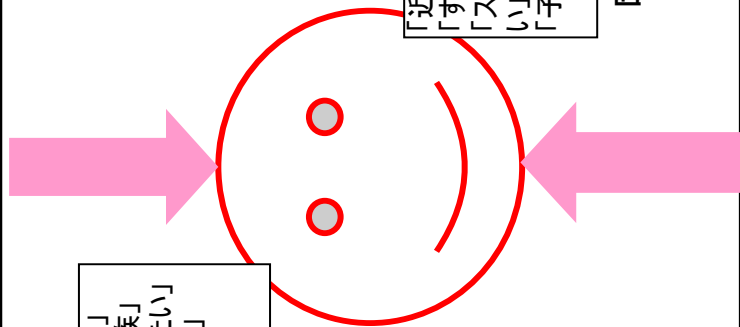
- 子供は映画は誘ってくれない。下の息子がお金がないので、今度見に行こうというぐらい。 男
- 携帯もそろそろかえようかなということ、メールはそんなに来ないからそれでいいと言われてまだ古いまま。 男
- 下の娘に言われてインターネットを始めた。 男
- 買い物は娘とは大きな買い物の際に財布がわりに連れて行かれるだけ。洋服とかまとまと買った買い物の時。 男
- デジカメ系は子供連の方が強い。無線LANも自分がやるとつながらないので娘がつなげた。 男
- 息子もパソコンを初めて買う時に親と一緒に買ってよと言われた。 男
- 買い物に行く時は自分の方が子供に押しつけている。自分がしたいことに娘がつき合ってくれる感じ。 女
- 千円払うが息子がビデオのギョウをしてくれる。机の上に置いておくでよってくれる。 女
- この映画だけは見逃しちゃいけないとか、見に行った方がいいという薦め方はよくしてくれる。 女
- 評価のページとかを見て、息子は絶対いいという商品を薦めてくれる。アイロンだった。 女

8 団塊世代と団塊Jrの新拡大家族の可能性

会社人間ではない団塊Jrも生活の豊かさを維持するとなれば、共働きをするしかない。しかし、いくら夫が家事負担をいとわれないとしても、将来の雇用不安のなかで、育児休暇をとるのは憚られる。したがって、育児は外部化される。頼みやすいのは妻の実家となる。時間・距離の経済性から近居の選択は必然的だ。

団塊ジュニア

「相互支援がベースになる」
「困ったときは助け合う家族」
「保育園がなければ頼みたい」
「親に援助してもらおう」



「近くにいればよく会える」
「すごく楽しい」
「スーパの冷めない距離が心強い」
「子供から頼まれれば嬉しい」

団塊世代

団塊世代の専業主婦は子供の世話に没頭してきたと同時に、育児の楽しみも一番知っている。団塊の父と息子の確執は孫にはない。金銭的にも時間的にも余裕がある。嫁の実家への配慮や息子夫婦にうるささがられない程度の気遣いをしながらも、孫を見てくれ、と出づきの心待ちにしている状況。体力がつづく、先10年間は、まだ孫が小学生の時期だ。この限られた10年間で「孫カスガイの拡大新家族」の隆盛期となる。

<団塊Jr>

- 面倒はみないといけないと思うし、経済的援助はもちろんです。ある程度の距離感はあると思う。
- 親に援助してもらおうとしたら自分達の都合で子供の面倒をみてもらう時などではないか。親に援助してもらおう。
- 長男だが、一緒に住みたいとか両親がどういう形を望んでいるかがはつきりわからない。
- 相互支援がベースにある。今この年になってかなり相互理解が深まった。率直に話し合えると思う。
- 自分が育つまで親はいろいろな事をしてくれたのだから、今度は自分が親の立場に立つのは仕方ない。
- 何かしら困った問題が起こった時は助け合う家族になるとは思う。
- 私は共働きが前提。親の近くに住んで保育園がなければ頼みたい。しかし母は毎日みてはくれないと思う。
- 両親をみる覚悟は今からしている。他の兄弟が頼りないし、長女なので将来も考えている。親からの援助は、出産の時に。

<団塊世代>

- 下の息子はまだ高校生だが、妻は孫のために学資の積み立てを始めた。
- 自分も近くにいたが親の家にはあまり行かなかった。携帯も電話もあるので嫁姑の問題が起きない程度に交流があればいい。
- 近くにいれば会う頻度もあるし、今は非常に楽しんでいる。
- 女房は自分の方から来ないかとは声をかけにくいみたい。息子夫婦にうるさかられないように気を使っている。
- 娘が子供を産まないと言っている。どうせ面倒見たくないでしようと言われて、はいそれとおりと云っている。
- 娘に孫が生まれたらすごく距離が縮まった。隔月ぐらいに行き来してすごく楽しい。体力があるうちにと云っている。
- 親としてはスーパの冷めない距離が心強いが、私も自分の実家の近くがよかった。息子なので覚悟はしている。
- 向こうから孫を見てと言ってくれたらすごく嬉しいが自分からは言わないように思っている。

D. 提言

団塊世代は変わった！<利>型ライフスタイルから <快>型ライフスタイルへ

●団塊世代は変わった。昔と同じ価値観を維持しているわけではない。時代的、年齢的な影響があって、過日のように夫と妻と役割分業をして、中流を目指してがんばっていた会社人間ではない。リストラがあり、子供たちも巣立っていった。いまは少し疲れて遣り残したことを取り戻そうと自分の半生を振り返っている。「利」志向は家族形成期の発想だったが、いまは「快」志向だ。

提言

① <快>志向は<快>型消費を生むだろう。<快>型消費とは、「個性重視」「話し合い決定」にもとづき、「その日その日を楽しく過ごす」ための消費のことだ。特に男性の団塊世代にその傾向が強まるだろう。たとえば、

⇒遣り残してきてしまった忘れ物を取り戻す消費

(Ex.楽器の演奏を再開する。バイクを再開する。昔の映画を見る。一人旅に出る。アルバムを整理する・・・etc)

⇒日常を充実させる消費

(Ex.大画面テレビ。趣味の収集。体を動かすスポーツアイテム。動画の制作・・・etc)

② 女性の団塊世代では<快>志向に加え、<愛>志向が加わった<快愛>消費が強まるだろう。たとえば、

⇒身近な友達との今を楽しむ消費

(Ex.お出かけ食事会。母娘ショッピング。観劇・展覧会。女友達との小旅行。・・・etc)

⇒自分へのご褒美消費

(Ex.ダイヤの指輪など宝飾品。夫との記念旅行。この際ちょっと高い毛皮・コート類・・・etc)

⇒若さはこころのあり方消費

(Ex.健康食品。高級化粧品。眠りアイテム。ダンス・コーラス・スポーツジム・・・etc)

団塊世代は変わった！性役割分担にとらわれない 〈個〉のライフスタイルへ

● 団塊世代は変わった。夫と妻の性による役割演技は完了し、〈家内〉という言葉は事実上の死語となっている。妻の〈家外〉化が進むということは夫の〈家内〉化も進むということだ。しかし夫の〈家内〉化の歩みはのろい。夫婦ともに〈家外〉化＝〈個〉化したときに生じる隙間がチャンスとなる。

提言

① 性別役割の意識上の崩壊は、頭でわかっていても体がついていかない多数の団塊男性を生むだろう。

⇒男性の家事化消費

(Ex.男性向けクッキング教室。家事代行サービス。調理済み食品。あとかたづけ不要食器・調理器具。・・・etc)

② 団塊男性の仕事離れ、個人化自由人の登場を促すだろう。

⇒仕事人間卒業男性消費

(Ex.ちょい悪おやじファッション。男性エステ。男のグルメ。自由人のきまま旅・・・etc)

⇒男性の家計サイフ管理者

(Ex.ネットバンキング。デイトレーダーの拡大。ネットショップ利用の増加・・・etc)

③ 性役割の崩壊は女性のいっそうの〈家外〉化を進めるだろう。

⇒女性の教養志向消費

(Ex.語学留学。大学進学。ホームステイ・・・etc)

⇒プロの技獲得消費

(Ex.ガーデニングプロ、介護ボランティア、アート系・創作系の技の習得・・・etc)

団塊ジュニア世代は〈自分創造型〉のグループが
世代のリーダーだ。

●団塊ジュニア世代の階層意識が「下流化」しているというのは事実だ。しかし、団塊世代の教育が良くなかったということは間違いだ。むしろ団塊的ではなかった親にニートやフリーターの子が多いのだ。また団塊ジュニア世代は大きく2つのグループがある。〈自分回帰型〉と〈自分創造型〉である。これからは〈団塊度〉の高かった親を持つ〈自分創造型〉のジュニアが世代を引っ張っていく。



提言

① 〈自分創造型〉団塊ジュニア世代の仕事観は前向きである。チャレンジを心がけ、個性と成果を重視するだろう。

⇒共働きを前提とした家計形成となるだろう

② 〈自分創造型〉団塊ジュニア世代の結婚観は保守的である。〈自分回帰型〉と違って、結婚できると考え、親とも相談し、親の近くに住むことを考えている。

⇒親との近居や連携が重要な要素になるだろう

③ 〈自分創造型〉団塊ジュニア世代の自分らしさ感は創造的である。個性とは自分で作っていくものだと考え、それに自信がある。

⇒親の生活とは違っても自分たちらしい生活スタイルを作るだろう

④ 〈自分創造型〉団塊ジュニア世代は親との関係も良好だ。家族形成期を迎え、経験的に親に対する感謝の気持ちを持つようになっている。

⇒親からの支援だけでなく、親への支援も行う双方向の連携となるだろう
(親から資金や時間の援助を受け、PCの使い方やノウハウなどの情報面での支援をするなど)

これからの15年間は
2世代共同参画時代となる。

●これからの15年間の日本社会の原動力は、退職した団塊世代と家族形成期にある団塊ジュニア世代の相乗効果から生まれてくる。双方ともに人口が多く、キャッシュフローは自然と親世代から子世代へと流れ、情報ノウハウは子世代から親世代へと流れるだろう。そして団塊世代から団塊ジュニア世代へとしっかりと継承された、「個性主義」「民主主義」「努力成果主義」は2世代共同参画時代の基礎になるだろう。

提言

① これからの15年間は日本社会にとって、たいへん良い循環が発生するチャンスである。

⇒世代のチャンス：ともに共通の価値観を持つ2つの世代
⇒年代のチャンス：相互補完できる2世代のライフステージ
⇒時代のチャンス：ITによるコミュニケーションの容易さ

② このチャンスを生かすには、2世代共同消費、2世代補完労働の仕組みなど行政側の支援も重要である。

⇒安心して子育てしながら働ける企業制度面からの仕組み
⇒近居支援制度などの金融制度面からの支援

③ 退職した夫と妻の自立と協同を促進するためのコミュニティや趣味サークルの充実。

⇒退職男性の居場所や活躍場所の確保や創造
⇒退職金がフローされるような金融知識の普及活動
⇒趣味サークルなどの一覧性のあるネットワークの構築

④ 企業活動においても2世代共同参画をいっそう意識した商品。サービス開発が望まれるだろう。

E. 団塊世代・団塊ジュニア 世代年代譜

＜団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表＞

団塊世代	団塊 Jr.	団塊世代関連	流行・社会
1945			第二次世界大戦終結 リンゴの唄
1946			日本国憲法公布 「サザエさん」連載開始
1947	1		6・3・3制開始。教育基本法公布。 「東京ブギウギ」大ヒット
1948	2		片山内閣総辞職、芦田内閣成立 帝銀事件 東京裁判判決 美空ひばりデビュー
1949	3		湯川秀樹博士がノーベル賞を受賞 1ドル 360円の単一為替レート実施 新制大学スタート
1950	4		朝鮮戦争 警察予備隊令の公布・施行 第1回日本プロ野球日本シリーズ開催
1951	5		サンフランシスコ講和条約調印 日米安全保障条約調印 民間放送開始 黒沢明監督「羅生門」ベニス国際映画祭でグランプリ獲得。
1952	6	「鉄腕アトム」少年に連載開始	血のメーデー事件 ラジオドラマ「君の名は」放送開始 オリンピックに日本が戦後初参加 本田技研が原付自転車「カブ」を発売
1953	7		バカヤロウ解散、総選挙 テレビ放送開始 街頭テレビブーム 青山に日本初のスーパーマーケット「紀ノ国屋」オープン 「真知子巻き」ブーム
1954	8	ベビーブームで小学校の新入生が100万人増加 「赤胴鈴之助」少年画報に連載開始 東宝が日本初の特撮怪獣映画「ゴジラ」を公開	青函連絡船「洞爺丸」遭難 ビキニ環礁水爆実験で第五福竜丸被曝 電気冷蔵庫、洗濯機、テレビが「三種の神器」とよばれる 自衛隊発足 力道山ブーム
1955	9	協同乳業がアイス「ホームランバー」を発売 「ぼくら」「なかよし」「りぼん」創刊 子供の間でプロレスごっこが流行	自由民主党を結成。55年体制 神武景気始まる 日本初のヘルスセンター「船橋ヘルスセンター」がオープン トヨタ自動車「トヨペット・クラウン」発売
1956	10	横山光輝「鉄人28号」少年に連載開始 ホッピングブーム	経済白書「もはや戦後ではない」 日ソ国交回復交渉妥結 日本、国連に加盟 東海道線の全線電化が完了 石原慎太郎「太陽の季節」芥川賞受賞
1957	11	桑田次郎「まぼろし探偵」少年画報に連載開始	東海村原子炉完成 有楽町に「そごう百貨店」開店 ダイハツ工業「ミゼット」発売 トヨタ自動車「コロナ」発売 石原裕次郎ブーム
1958	12	巨人の長島茂雄が新人王 王貞治が巨人に入団 「月光仮面」少年クラブに連載開始 フラフープ大流行 エポック社「野球盤」発売 「パパは何でも知っている」放送開始	皇太子妃決定(ミッチーブーム) 東京タワー完成 富士重工「スバル360」発売 日清食品「チキンラーメン」発売

＜団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表＞

1959	13	<p>講談社「週刊少年マガジン」創刊 小学館「週刊少年サンデー」創刊 「世界飛び歩き(後に兼高かおる世界の旅に改称)」放送開始</p>	<p>伊勢湾台風 皇太子ご成婚 日産自動車「ブルーバード」発売</p> <p>児島明子がミス・ユニバースに選ばれる</p>
1960	14	<p>タカラ「ダッコちゃん」発売</p>	<p>安保闘争 国民所得倍増計画 カラーテレビ本放送開始 クレジットカード登場</p>
1961	15	<p>全国一斉学力テスト実施</p>	<p>トヨタ「パブリカ」発売 世界初の有人宇宙飛行 配偶者控除制度開始 大相撲、柏嶋時代</p>
1962	16		<p>堀江謙一、ヨットで太平洋単独横断成功 キューバ危機 東京の人口 1,000万人突破 テレビ受信契約数、1,000万件を突破 植木等「スーダラ節」大ヒットで無責任時代</p>
1963	17	<p>小学館「週刊少女コミック」創刊 集英社「週刊マーガレット」創刊 少年画報社「週刊少年キング」創刊 舟木一夫「高校三年生」大ヒット 「鉄腕アトム」テレビアニメ放送開始</p> <p>ボーリングブーム 集団就職ピーク</p>	<p>ケネディ大統領暗殺 日米間テレビ宇宙中継実験成功 吉展ちゃん誘拐事件 第1次マンションブーム テレビ受信契約数、1,500万件を突破。世帯普及率が73.4%。</p>
1964	18	<p>みゆき族 「月刊ガロ」青林堂、創刊 「週間平凡パンチ」創刊 中卒・高卒「金の卵」と呼ばれる</p>	<p>東京オリンピック開催 東海道新幹線開通 海外観光旅行自由化 カギツ子問題</p>
1965	19	<p>大学生 100万人突破 「ベトナムに平和を！市民文化団体連合(ベ平連)」初のデモ行進 アイビールック 「11PM」放送開始 映画「エレキの若大将」で、エレキギターブーム 大学生にマンガが大人気 授業料値上げをめぐり慶応大学で初のストライキ</p>	<p>アメリカ、ベトナム北爆開始 佐藤首相訪米と沖縄訪問</p> <p>過密都市問題が表面化 日韓基本条約成立 プリンス自動車「スカイライン2000GT」発売</p>
1966	20	<p>ザ・ビートルズ、来日 グループ・サウンズブーム カレッジフォークブーム 早大紛争</p> <p>「週刊プレイボーイ」創刊</p> <p>資生堂「太陽に愛されよう」キャンペーン</p>	<p>景気回復、いざなぎ景気始まる 日産自動車「サニー1000」発売 トヨタ自動車「カローラ1100」発売 新三種の神器(3C)(カラーテレビ、カー、クーラー) 早川電機(現・シャープ)、家庭用電子レンジを発売 総人口1億突破</p>
1967	21	<p>羽田闘争 資生堂、男性用ブランド化粧品「MG5」のシリーズ商品発売 ツイギー来日、ミニスカート大ブーム アングラ フーテン族 日刊アルバイトニュース創刊</p>	<p>佐藤栄作訪米と小笠原返還協定 初の革新都知事(美濃部)誕生</p> <p>テレビ受信契約が2,000万件を突破 大型景気時代に入る(昭和元禄)</p>
1968	22	<p>東大紛争 日大紛争 新宿騒乱事件 シンナー遊び 「あしたのジョー」週間少年マガジンに連載開始 サイケデリック流行 アングラ曲がヒット アメリカ原子力空母「エンタープライズ」佐世保寄港反対運動</p>	<p>三億円事件 霞が関ビル完成 小笠原復帰</p>

＜団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表＞

1969	23	東大安田講堂陥落 新宿西口反戦フォーク集会 文化放送「セイ! ヤング」放送開始 「ゴルゴ13」ビッグコミックに連載開始 東京・池袋に「パルコ」開店	アポロ11号月面着陸 ソニーと松下電器、家庭用ビデオを発表
1970	24	日航「よど号」ハイジャック事件 ウーマンリブ 三無主義 「anan」創刊 モーレツからビューティフルへ	大阪万国博開催 三島事件 国鉄が「ディスカバー・ジャパン」のキャンペーンを開始 歩行者天国 日米安保条約自動継続
1971	25	成田新空港反対闘争 日清食品「カップヌードル」発売 銀座に日本マクドナルド1号店 「non-no」創刊 アンノン族 Gパン、パンタロン流行 日活ロマンポルノ はしだのりひことクライマックス「花嫁」	ドル・ショック 天皇・皇后訪欧
1972	26	連合赤軍あさま山荘事件 テルアビブ空港事件 ホットパンツ、パンタロン、ジーンズ、サファリルックが流行 未婚の母 「同棲時代」週刊漫画アクション連載開始 「月刊ぴあ」創刊 ホンダ「シビック」発売	沖縄返還 日中国交正常化 田中角栄首相誕生(日本列島改造)
1973	27	「宝島」創刊 「ローリングストーン日本語版」創刊 ロックオペラ「ジーザス・クライスト=スーパース」	第一次石油ショック
1974	28	巨人軍長島茂雄、現役引退 「GORO」創刊	三菱重工業ビル爆破事件 「セブンイレブン」の第1号店オープン
1975	29	1 第二次ベビーブーム 「PLAYBOY日本語版」創刊 ハウス食品「ワタシ作る人、ボク食べる人」 「フォーライフ・レコード」設立 キャロル解散。矢沢永吉、ソロデビュー。	天皇、皇后両陛下初訪米 ベトナム戦争終結 ソニーが家庭用カセットVTRの第1号機(ベータ方式)発売
1976	30	2 戦後生まれが人口の半数突破 ニューファミリー層などの消費の多様化に対応するため、百貨店の改装が相次ぐ。 堺屋太一「団塊の世代」出版	第3次産業就業人口52%に、国民の90%は中流意識・70%が幸福感 大和運輸が「クロネコヤマトの宅急便」を開始 「ほっかほっか亭」の1号店オープン。 ビクターがVHS方式VTRの第1号機を発売 景気中だるみで企業倒産史上最高
1977	31	3 「クロワッサン」創刊 「MORE」創刊 独身貴族	日本赤軍による日航ハイジャック事件 円高新記録 カラオケブーム スーパーカーブーム
1978	32	4	日中平和友好条約調印 成田空港開港 インベーダーゲーム 不確実性の時代 窓際族
1979	33	5 キャリアウーマン 親子2代返済住宅ローン登場	第二次石油ショック 鉄鋼5社60歳定年制への移行発表
1980	34	6 ジョン・レノン射殺 「とらばーゆ」創刊 「BRUTUS」創刊 「COSMOPOLITAN」創刊	漫オブーム 家庭用VTR成長 ルービック・キューブ
1981	35	7 ニューサーティが流行語	フルムーン夫婦グリーンパス登場

＜団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表＞

1982	36	8		日米貿易摩擦で市場開放策 レンタルビデオソフト登場 単身赴任 森林浴ブーム
1983	37	9	「金曜日の妻たちへ」放送開始	軽薄短小 東京ディズニーランド開園 おしんブーム ファミコン登場
1984	38	10		世界一の長寿国日本ー男72.5歳・女74.9歳 「中流」意識90%に(総理府調べ)
1985	39	11	いじめ問題が深刻化	日航ジャンボ機墜落 プラザ合意で、ドル高を是正
1986	40	12		男女雇用機会均等法施行 株価高騰。バブル拡大。 老年人口が総人口の10%を超える DCブランド流行 新人類
1987	41	13	アサヒ「スーパードライ」発売	ブラックマンデー 国鉄民営化、JR誕生 地価過去最高の上昇率
1988	42	14	クロワッサン症候群	リクルート疑惑 遠赤外線製品ブーム マル優廃止
1989	43	15		消費税スタート バブル経済ピーク ベルリンの壁崩壊
1990	44	16	ローリング・ストーンズ初来日、東京ドーム公演。 ポールマッカートニー、東京ドーム公演。ビートルズとして来日以来24年ぶり。 「自由時間」創刊	バブル経済崩壊 東西ドイツ統一 大学入学センター試験スタート 女性の平均出産児数1.57人
1991	45	17	一卵性母娘、友達母娘	四大証券、損失補てん 湾岸戦争勃発 ソ連崩壊 日本初の民間衛星放送「WOWOW」放送開
1992	46	18		PKO協力法案成立 天皇皇后両陛下、中国初訪問 公示地価が17年ぶりに下落 携帯電話登場(NTTドコモ)
1993	47	19	日産座間工場自動車生産中止、従業員削減計画発表 サラリーマンの消費支出13年ぶりに実質減少	米市場部分開放 定期預金金利の完全自由化スタート Jリーグ開幕
1994	48	20		松本サリン事件 ニューヨーク市場で史上初の1ドル100円割れ 価格破壊進行 ソニー「プレイステーション」発売 ヤンママ 屋台村ブーム
1995	49	21	景気低迷で失業率上昇、企業倒産も続発	阪神大震災 地下鉄サリン事件 公定歩合が史上最低の0.5%に Windows95発売
1996	50	22		小選挙区比例代表並立制による初の総選挙 オウム裁判開始 住専処理に6,850億円の財政資金投入 アムラー ポケモンブーム
1997	51	23	小説「失楽園」出版	金融機関の破綻相次ぐ 消費税、5%にアップ たまごっちブーム

＜団塊世代と団塊ジュニア世代の関連年表＞

1998	52	24		金融ビッグバン幕開け(日本版ビッグバン) サッカーワールドカップ初出場 景気低迷を反映して低価格志向高まる
1999	53	25	男性の失業率、過去最悪の5%に 発毛剤「リアップ」発売	改正男女雇用均等法施行 「地域振興券」の交付
2000	54	26	「ジョン・レノン・ミュージアム」さいたまにオープン	介護保険制度がスタート そごう倒産 日銀、ゼロ金利解除 IT革命 BSデジタル放送開始
2001	55	27	雑誌「LEON」創刊	小泉内閣発足 家電リサイクル法施行 情報公開法が施行 アメリカ同時多発テロ
2002	56	28	昭和30年代テーマパーク 講談社「少年マガジン名作コレクション(ジョー& 飛雄馬)」 復刻版家電・家具	サッカーワールドカップ日韓共催 日朝首脳会談、拉致被害者帰国 住民基本台帳ネットワーク稼働
2003	57	29	医療保険制度変更、サラリーマンの窓口負担が 3割へ 個人向け楽器レンタルサービス 本格スポーツカー(フェアレディZ)	個人情報保護関連5法成立 地上デジタル放送開始 日本郵政公社発足 おれおれ詐欺
2004	58	30	エフエム東京、深夜番組「ジェットストリーム」1万 回達成 雑誌「大人のウォーカー」創刊 冬ソナ・韓流ブーム	自衛隊イラク派遣 円相場が一時1ドル103.75円となり約4年ぶり の円高に 日経平均株価が一時2年8ヵ月ぶりに1万2千円 台に上昇 失業率は年間平均で4.7%、2年連続で改善し4 年ぶりに5%を切った 大画面薄型テレビ、DVDレコーダー 携帯型デジタルオーディオプレーヤー